

14. 7-33



\*1200701623933\*

14.7

33



始





4603

14.7  
33

司法部藏版

No. 4914

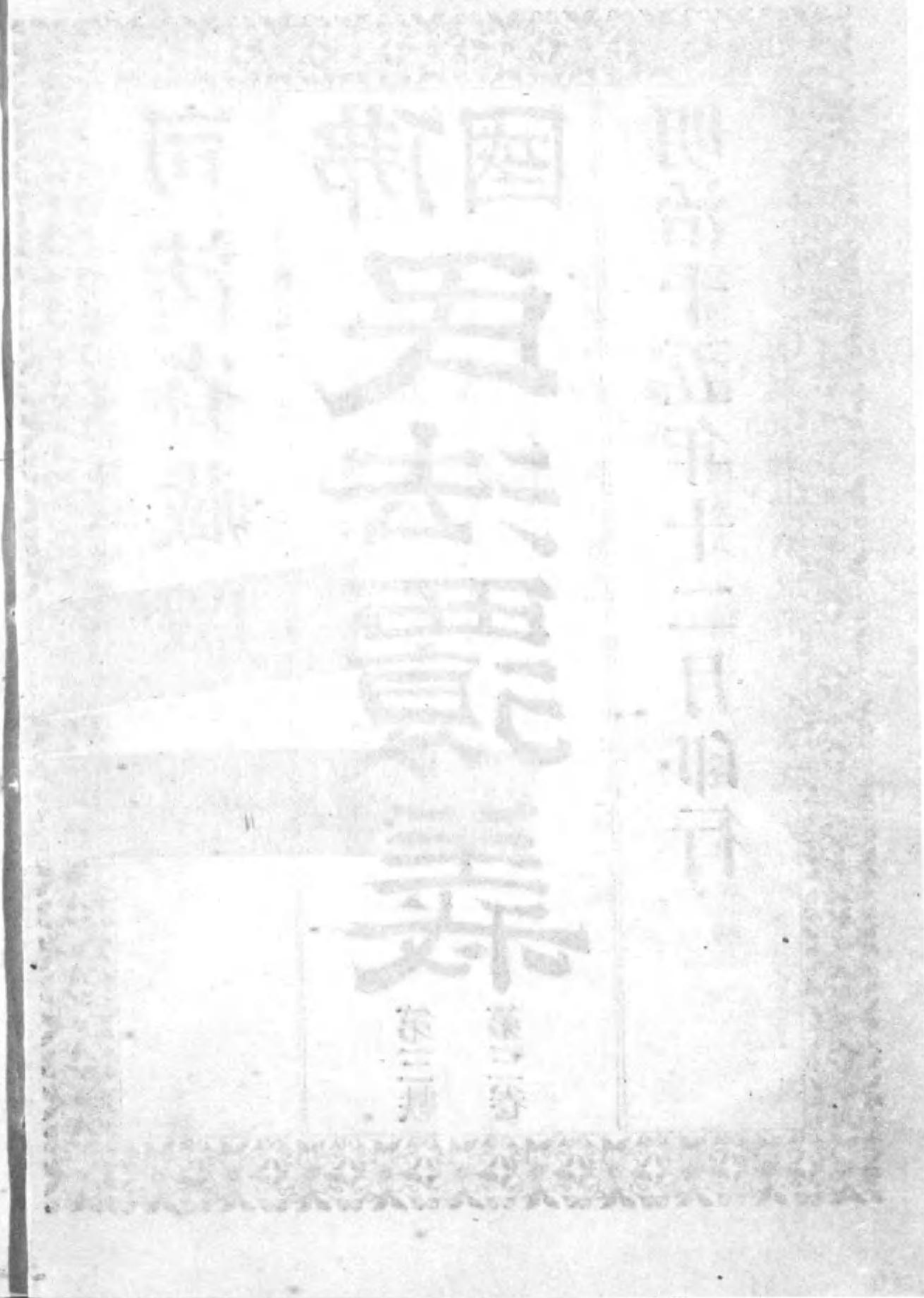
# 佛國民法彙纂

第三卷  
第三帙

明治十五年十二月印行







ロムル 佛蘭西民法覆義第三帙第三卷

目次

○第三章 書入

○總論

○第一節 書入ノ義解及ヒ其性質

○第二節 書入ト爲スチ得可キ財產

○第三節 書入ノ原因

○第一款 法律上ノ書入

○第一節 夫ノ財產上ニ設ケ其婦ノ有ス

ル書入

○第二節 後見人ノ財產上ニ設ケタル幼

者又ハ被禁者ノ有スル書入

丁數

一

一

一

一一

二七

二八

三〇

四一

一



○第三節 徵收人又ハ會計ノ支配人ノ財產上ニ設ケタル政府、邑又ハ公館ノ有スル書入

四七

○第二款 裁判上ノ書入

五一

○第三款 契約上ノ書入

六七

○第一節 書入契約及ヒ書入ヲ承諾スルニ必要ナル能力

六八

○第二節 書入契約ノ禮格

八〇

○第四款 書入ト書入ノ次序

一〇九

○第一節 先取ノ權ニ附キ書入ノ公示

一一一

○第四章 先取特權及ヒ書入ノ登記手續

一七二

○第一節 登記ヲ爲ス可キ場所

一七二

○第二節 以後登記ヲ爲スモ其効ナカラシムル時限

一七二

○第三節 同日ニ爲シタル登記

一八五

○第四節 登記ヲ願フニ差出ス可キ書類及ヒ遵守ス可キ法式

一八六

○第五節 政府、幼者及ヒ婚姻シタル婦ノ有スル純粹ノ法律上ノ書入ノ登記

一九九

○第六節 登記ノ費用

二〇一

○第七節 利息及ヒ入額ニ附テ登記ノ効

二〇三

○第八節 登記ノ消滅及ヒ其書換

二一二

○第九節 登記ヨリ生スル訴

二二〇

○第五章 登記ノ削削及ヒ減少

二二一



○第一款 刪削

四

○第一節 自意ノ刪削

二七一

○第二節 裁判上ノ刪削

二二一

○第二款 書入ノ減少

二二五

○第一節 書入不動産ニ附テ其書入ノ減

二三〇

少

二三〇

○第二節 登記ニ載録スル金高ニ附テ書

二三七

入ノ減少

○第六章 不動産ヲ得タル外人ニ對シ先取特

權及ヒ書入ノ効

二三九

○第一節 追從ノ權此權ヲ有スル債主

二三九

○第二節 追從ノ權ニ對シ不動産ヲ得

二三九

ル外人ノ爲メヲ得可キ數種ノ所爲

二七三

○第三節 財産調ノ權利

二九八

○第四節 追從ノ權ヲ生ス可キ讓與

三〇五

○第五節 書入債主ト不動産ヲ抛棄シ又

ハ取上ヲ受ケタル外人ノ間ニテ議定

三一四

ス可キ計算ノ事

三一四

○第六節 負債ヲ代辨シ又ハ不動産ヲ抛

棄シ又ハ不動産取上ヲ受ケタル外人

三二四

其償ヲ求ムル事

三二四

○第七章 先取特權及ヒ書入ノ消滅

三二八

○第一節 他物ノ結果ニ因レル書入ノ消

三二八

滅

五



○第二節 人權ノ存在ニ關セズ主タル直

接事柄ニ因レル書入ノ消滅

○第八章 滌除

○第一款 登記シタル先取特權又ハ書入ノ

滌除

○第壹 總論

○第貳 滌除ヲ行フヲ得ル人○之ヲ

行フヲ得サル人

○第參 滌除ヲ受ルヲ得可キ權利○

滌除ヲ受ク可カラサル權利

○第肆 讓與ノ自カラ其不動産上ノ

總テノ書入ヲ滌除スル者

○第伍 滌除ノ手續

○第陸 法律上ノ期限中ニ請願ヲ爲

サ、ルノ結果

○第柒 正當ナル糶賣請願ノ効○請

願ニ因リ行フ糶賣ノ性質及ヒ其

効

○第捌 特別ノ事項

○第二款 夫又ハ後見人ノ不動産ニ附キ書

入ノ記入有ラサル時其權ヲ滌除スル方

法

○第一節 讓與ノミニテハ不動産ニ負フ

タル隱密ノ書入ヲ滌除セサル事○隨



意ノ讓與

四一八

○第二節 不動産ノ讓與ノミニテ直ニ其

上ニ負フタル隱密ノ書入ノ義務ヲ滌

除スル事○強迫ノ讓與

四三九

○第九章 書入役所ノ簿冊ヲ公ケニスル事及

ヒ書入保存人ノ責任

四四九

○第十九卷 不動産取上及ヒ債主ノ順序

四六一

○第一章 不動産取上

四六一

○第二章 債主ノ順序及ヒ賣上ケ高ノ分派

四八七

○第二十卷 時効

四八九

○第一章 總則

四八九

○第二章 占有

五六八

○第一節 占有ノ利益

五六八

○第二節 占有ノ解義

五七四

○第三節 如何ニシテ占有ヲ得或ハ之ヲ

五八〇

失フ歟

五八〇

○第四節 時効ノ基礎トナル占有ノ性質

五八九

○第五節 純粹ノ權理ニ出ツル所爲ト單

六一二

ニ惠許ニ出ツル所爲ハ占有及ヒ時効

六一二

ノ基礎トナラサル規則

六一二

○第六節 先主ノ占有ト後主ノ占有トノ

六二五

併合

六二五

○第三章 時効妨礙ノ原因

六三二

○第四章 時効ノ斷絶又ハ停止ノ原因

六五六

九



○第一款 斷絶	六六二
○第一節 自然ノ斷絶	六六三
○第二節 民法上ノ斷絶	六六七
○第二款 時効ノ進行ヲ停止スル原因	七〇五
○第五章 時効ノ期日	七五二
○第一款 總則	七五二
○第二款 三十年ノ時効	七五九
○第三款 十年及ヒ二十年ノ時効	七七〇
○第四款 特別ノ時効	八〇二
○第一節 六箇月ノ時効	八〇二
○第二節 一年ノ時効	八〇七
○第三節 二年ノ時効	八二五

○第四節 五年ノ時効	八三〇
○第五節 動産ニ附テハ現ニ之ヲ占有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ 等シノ規則	八四三
○第六節 一時ノ條例	八七九

目次 畢



ロム  
ンル  
氏佛蘭西民法覆義第三帙第三卷

木下哲三郎譯

第三章 書入

總論

第一節

書入ノ義解及ヒ其性質

第一千二百十四條

第四百二十六號

書入ノ義解ハ法典ニ之ヲ載セリ曰ク義務ノ釋放ニ當テ備ヘタル不動產上ノ物權ナリト

(物權云々)○通常債主ト雖モ負債主ヲ強テ其負債ヲ辨濟セシムルヲ得ルヲ書入債主ト異ナルヲ無シ蓋シ書入ノ抵當アル人權ニ非スト雖モ其權ヲ以テ負債主ノ財產ヲ差押ヘ之ヲ賣却スルヲ得レハナリ、故ニ債主ト負債主ノ關係上ヨリ見ル時ハ書入ハ無益ノ者タリ然レモ己レヨリ外ノ他ノ債主ヲ排除シ又ハ負債ニ關係ナキ他ノ獲

書入 總論 書入ノ義解及其性質



得人ノ所持スル不動産ヲ差押ヘルニ當テノミ書入ヲ以テ必要缺ク  
可カラサル者トス然ラハ書入ハ常ニ外人ニ對シテ其効ヲ生スル者  
ナリ是レ第二百十四條ノ書入ニ物權ノ品位ヲ附スル所以ナリ

故ニ書入ハ左ノ二箇ノ權利ヲ生ス

第一 先取ノ權即チ他ノ債主ニ先立チ不動産賣却ノ價ヲ以テ負債  
ノ辨濟ヲ受ルノ權

第二 追從ノ權即チ良意ノ獲得者ト雖モ若シ彼ヨリ負債ノ全額ヲ  
辨濟スルヲ欲セサル時ハ強テ其獲得シタル不動産ヲ委棄セシメ又

ハ此獲得者ニ對シテ不動産取上ヲ行フヲ得ルノ權

〔千四百二十七號〕 書入ハ附屬權ナリ何トナレハ書入ハ他ノ權利ヲ擔

保スルノ用ヲ爲セハナリ故ニ義務ノ無効取消又ハ終盡ハ書入ノ無  
効取消又ハ終盡ヲ來ス者ナリ然レモ純粹ニ負債主ノ一身ニ關スル

原由ヲ以テ抗辯シテ取消ヲ爲スヲ得可キ義務例之ハ許可ヲ經サル  
有夫ノ婦又ハ幼者等ノ負債ノ抵當トシテ外人ヨリ自己ノ財産ヲ書

入ニ爲シタル時ハ其書入ハ効アル者トス〔第二百十二條ヨリ推論ス〕  
〔千四百二十八號〕 書入ヲ爲ス者ヨリ見ル時ハ書入ハ不動産上ノ權利

ナリトス蓋シ書入ノ直接ニ目的トスル所ノ不動産ニ在レハナリ故  
ニ第二百二十四條ニ曰ク書入ヲ承諾スルニハ其書入ニ爲セント

スル不動産ヲ讓與スルノ能力アルヲ要スト  
又書入ヲ爲サシムル者ヨリ見ル時ハ書入ハ其擔保スル所ノ權利ノ

性質ヲ受ル者ナレハ其性質ハ大抵動産ナリトス何トナレハ其主ト  
スル所ノ人權ハ金高ヲ以テ目的トスレハナリ

人權ノ性質動産ナル時ハ書入モ亦動産ナリト云フ原則ニ據レハ不  
動産上ノ權利ヲ讓與スルヲ得スト雖モ人權ヲ讓與シ得ルノ能力ア



ル者ハ書入ヲ除却スルヲ得例之ハ財産ヲ分離シタル婦ハ不動産上ノ權利ヲ讓與スル<sup>マニルウエー</sup>ノ能力ナシト雖モ人權ヲ讓與スルヲ得ルカ故ニ動産ニ關スル人權ニ附屬スル書入ヲ除却スルヲ得ルナリ(第千四百四十九條)

(千四百二十九號)

第二千百十四條ニ曰ク書入ハ分ツ可カラスト故ニ

擔保スル所ノ負債分ツ可キ時ト雖モ書入ハ分ツ可カラス

書入ハ分ツ可カラストハ書入ノ不動産ノ全部又ハ總テノ諸不動産ハ負債ノ全額及ヒ負債ノ各分數ノ辨濟ニ當テ備ヘタル者即チ書入ノ財産ノ各部分ハ全負債及ヒ其各部分ノ辨濟ニ當テ備ヘタル者ナリトノ謂ヒナリ今例ヲ掲ケ此原則ヲ明サン

第一 一ノ不動産ヲ以テ書入ト爲シ九千フランノ負債ノ辨濟ニ當ツ而シテ負債主八千フランヲ拂フ○此時不動産ノ全部ハ未タ拂ハ

サル九分一ノ負債ノ抵當トナルナリ

第二 負債主書入ノ不動産ノ半部ヲ賣却セリ○此時負債主ノ手ニ殘ル所ノ不動産ノ部分ハ負債ノ全部ニ當リ又他ノ獲得人ノ占有スル部分モ同シク全負債ノ抵當トナルナリ

第三 負債主死シ數人之ニ相續ス而シテ書入ノ不動産ノ全部其相續人中ノ一人ノ取ル所トナレリ○此相續人ハ一身ニ負擔スル所負債ハ一部分ニ過キスト雖モ書入ニ附テハ負債ノ全額ヲ擔任ス若シ此不動産分レテ數箇ノ相續人ノ有スル所トナル時ハ其一部分ヲ所持スル各相續人ハ書入ニ附テ負債ノ全部ヲ負擔ス

第四 債主死亡シ數人之ニ相續ス○此時ニ人權ハ之ヲ數人ニ分ツト雖モ不動産ノ全部ハ其分ナタル人權ノ一部分ニ當ル故ニ負債主此相續人中ノ一人ニ辨濟シタル時ハ不動産ノ全部ハ他ノ相續人ニ



對シテ負擔スル負債ノ抵當トナル者ナリ

〔千四百三十號〕 何故ニ書入ハ分ツ可カラサル乎曰ク法律ノ推定スル

所契約人ノ雙方暗ニ書入ノ不動産ハ負債ノ全部ヲ辨濟スルニ非サレハ其書入ヲ脱スルヲ得スト約束シタル者トスレハナリ

此理由ニ據レハ第二千百十四條ニモ明カニ謂ヘル如ク書入ノ分ツ可カラサルハ其性質ニシテ本然ニ非サルナリ故ニ契約人ハ別段ノ

箇條ヲ以テ書入ヲ變更スルヲ得例之ハ若シ負債主死亡シ不動産ヲ

數名ノ相續人ニ分ツ時ハ其相續人ノ各名ハ書入ニ附テ負擔スル所

一身ニ負擔スル負債ノ部分ニ限盡ス可シト約シ又ハ若シ負債主書入ノ不動産ノ半部ヲ賣却シタル時ハ負債主ニ存スル部分ノミニ減

スルカ又ハ他ノ獲得人ハ書入上ノ義務ヲ負フコト負債ノ半額ニ止マ

ル可シト約束スルヲ得ルナリ

〔千四百三十一號〕 書入ハ物權ナリ然ラハ此權ハ所有權ノ分支ナリト

決定ス可キ乎

第一說 書入ハ所有權ノ分支ニ非ス○先ツ完全所有トハ如何ナル

者乎一物件ヲ使用シ之ヨリ收益シ之ヲ處分スルノ三權一人ニ集合

シタル者ヲ言フ今書入財産ノ所有者ハ用フルノ權利ヲ收ムルノ權

及ヒ自由ニ處分スルノ權ヲ併セ有スル者ナリ而シテ書入ハ其用フ

ルノ權又利ヲ收ムルノ權又自由ニ處分スルノ權ノ三者ノ一ニ非ス

故ニ所有ノ分支ニハ非サルナリ抑書入ハ債主ヲシテ物件ト直接ノ

關係ニ在ラシメ之ヲ以テ他人ニ抗スルヲ得ル者ナルカ故ニ其物權

ナルハ疑ヲ容ル、能ハスト雖モ所有ノ分支ト名ツケタル物件ノ階

級中ニ屬スル者ニ非ス且ツ所有ノ分支ハ所有者ヨリ償ヲ出スト雖

モ之ニ拘ハラス他人之ヲ保有スルヲ得書入ニ至テハ原則ニ於テ所

書入ノ義解及其性質



有者ハ隨意ニ負債ヲ拂ヒ書入ヲ除去スルヲ得ル者ナリ又所有權ヨリ發生ス可キ數種ノ分支ヲ記列シタル第五百四十三條ニ書入ノ事アルヲ見ス

〔千四百三十二號〕第二說 書入ハ所有權ノ一分事ナリ○抑完全所有ハ總テノ物權ノ集合ナリ外人其物權ノ一ヲ得ル時ハ所有完全ナラス今書入ハ一ノ物權ナリ(第二千百十四條)故ニ之ヲ所有ノ分支ナリトス

夫レ一物件ノ完全所有ヲ有スル者ハ之ヲ變更シ又ハ之ヲ破壊シ又ハ之ヲ金錢ニ換ヘ隨意ニ處分スルヲ得然リ而シテ書入不動産ノ所有者ハ例之ハ書入ノ家屋ヲ毀テ英國風ノ花園ヲ作ル等ノ如ク其不動産ヲ變更破壊スルヲ得ル乎否決シテ然ラス(第千八百八十八條ヨリ推論ス)書入ノ債主ハ其家屋ノ毀壞ニ故障ヲ述フルヲ得蓋シ債主ハ抵

當ノ保存ニ必要ナル所作ヲ爲スヲ許セハナリ又負債主抵當ノ地面ノ樹木ニ習慣ニ反キ又ハ不時非常ノ伐採ヲ爲サントスル時ハ債主之ニ故障ヲ述フルヲ得ル者ナリ

今一步ヲ進メテ之ヲ論セン若シ負債主書入ノ不動産ヲ賣却シタルヲ有ランニ其價金ヲ取ル者ハ負債主ナル乎否買主ハ之ヲ書入債主ノ手ニ拂ハサル可カラス而シテ債主價金ヲ充分ナラスト見ル時ハ負債主ノ約諾シタル賣却ヲ破却セシメ別ニ自カラ監視シテ一ノ新賣却ヲ爲サシムルヲ得ルナリ

斯ク負債主ノ書入ノ物件ヲ隨意ニ變更シ及ヒ之ヲ破毀スルノ權利ヲ失ヒ又良心ニテ爲シタル讓與サヘモ債主ノ權ヲ以テ故障ヲ述ヘラレ且ツ之ヲ破却サレタルヲ見レハ豈ニ負債主ハ書入物件ノ完全所有權ヲ有スルナリト謂ツ可ケンヤ



然レ他人或ハ曰ハン凡ソ所有及ヒ其分支ハ犯ス可カラサル者ナリ  
例之ハ余一ノ入額所得權ヲ有スル時ハ其所有者ヨリ余ニ入額所得  
權ノ價ヲ出シ余ニ屬スル權利ヲ消盡スルヲ得ス期限ニ至ル迄余ニ  
此權ヲ許サ、ル可カラス之ニ反シ書入ハ其不動産ノ所有者ノ欲ス  
儘ニナル者ニシテ其抵當ヲ要シタル負債ヲ辨濟シ書入ヲ消滅スル  
ヲ得故ニ書入ニハ所有ノ性質ヲ表スル必要ノ徽章タル犯ス可カラ  
サル性質有ルニ非ス

此說ヤ外貌ハ眞理ヲ得ル者ノ如シト雖モ余輩ノ說ニ妨碍ヲ爲スニ  
足ラス其謂フ所原則ニ於テ所有及ヒ其分支ハ犯ス可カラサル者タ  
ルハ實ニ然リ然リト雖モ其犯ス可カラサルハ所有ノ本然ニ非ス第  
六百六十一條ニ於テ牆壁ノ所有者ハ隣家ヨリ牆壁ノ價ヲ出ス時ハ  
牆壁ノ共有ヲ讓ラサルヲ得ストスルヲ以テ之ヲ證スルニ足ルナリ  
ミトワヤンテ

(第六百八十二條ニ同義ノ事アリ又第一帙千六百九十一號以下〇千  
八百四十五年四月二十九日千八百四十七年七月十一日及千八百五  
十四年六月十日ノ法律ノ説明ヲ參觀ス可シ)

○第二節 書入ト爲スヲ得可キ財產

〔千四百三十三號〕法律ハ書入ノ義解ヲ下シ書入ハ不動産上ノ物權云  
云ナリト謂ヒ又余輩ニ教ヘテ曰ク動産ハ書入ト爲スヲ得可キ者ニ  
非スト

不動産ニ附テハ其賣買ヲ爲シ得可キ者ノミ獨リ書入ト爲スヲ得ル  
ナリ  
然レモ或ル不動産ハ賣買ヲ爲スヲ得可シト雖モ動産ノ如ク書入ト  
爲スヲ得ス

〔千四百三十四號〕第壹 書入ト爲スヲ得可キ不動産

書入ト爲スヲ得可キ財產

第一千八百十八條



凡、<sup>ア、</sup>糶賣<sup>フ、</sup>コ、テ、賣<sup>ル、</sup>ヲ、得<sup>可、</sup>キ、不、動、産、ハ、之、ヲ、書<sup>入、</sup>ト、爲<sup>ス、</sup>ヲ、得<sup>ル、</sup>

第二千百十八條及ヒ第二千二百四條ヲ併セ考フレハ此原則ヲ生スル所明カナリ始メノ箇條ニハ書入ト爲スヲ得可キ不動産ヲ列記シ次ノ箇條ニハ不動産取上ヲ受ク可キ不動産ヲ列記ス此二箇ノ條面同一ノ文言ヲ用ヒ同一ノ不動産ヲ指示ス

其他又此原則ハ書入ノ自然ヨリ論スルモ公平ニ適スル者トス抑書入ニ因テ生スル主タル利益ハ何物ソ賣却ヨリ生スル價ヲ以テ他ノ債主ニ先立テ辨濟ヲ受取ル爲メ始メ人權ノ抵當トシタル財産ヲ糶賣ニテ賣ラシムルノ權ヲ債主ニ付與スル是レ其利益ニ非スヤ然ラハ裁判上ノ手續ヲ經テ金錢ニ變スルヲ得サル財産ヲ書入ト爲サハ債主果シテ何等ノ利益有ルカ尙ホ書入ヲ爲サ、ルニ勝ル

〔千四百三十五號〕故ニ書入ト爲スヲ得可キ者ハ左ノ如シ

第一 天然ノ不動産(自第五百十八條至第五百二十一條)○此不動産ニハ不動産取上ヲ爲スヲ得可シ(第二千二百四條)

不動産ハ其全部ヲ書入ト爲スヲ得又指示ノ表章ヲ用ヒテ定タル不動産ノ一部或ハ三分一、四分一ト云フカ如キ一部ヲ書入ト爲スヲ得ル者ナリ

虛有者ハ自己ノ權利丈ケ其不動産ヲ書入ト爲スヲ得然レモ其權<sup>ニ、コ、プロ、プ、リ、エ、テ、イ、ル</sup>利ハ到底必ス入額所得ノ併合ニ因リ完全スル者ナレハ若シ書入ノ未タ消滅セサル内ニ入額所得權消滅シテ所有ニ歸ル時ハ其完全所有ハ人權ノ抵當トナルナリ

書入ニ爲スト雖モ所有者ハ其家屋ヲ賃貸ニシ其田畝ヲ耕作シ其果實ヲ讓與スルニ妨ケ有ルヲ無シ然レモ<sup>セ、シ、!</sup>差押ノ<sup>ト、ラ、ン、ス、ク、リ、フ、シ、ヨ、ン</sup>騰記ノ後ニ生シタル賃料又ハ收穫シタル果實ハ不動産ト看做シ其收入ノ價金ハ不動産

書入ト爲スヲ得可キ財産



ノ價金ト皆ナ書入ノ順序ニ從ヒ分配ス(訴訟法第六百八十二條第六百八十五條民法第二千七百七十六條)

〔千四百三十六號〕 第二 用方ニ仍ル不動産 第五百二十四條及第五百

二十五條蓋シ此不動産ハ不動産取上ヲ受ル者ナレハナリ(第二千二百四條)然レ此性質ノ財産ハ不動産取上及ヒ書入ノ主タル直接ノ

目的トナルヲ得ス何トナレハ其性質ハ動産ニシテ唯人ノ思想ヲ以

テ不動産ニ加附セシ者ナレハ主タル財産ヨリ引キ放テ見ル時ハ即

チ動産ナレハナリ例之ハ地面ノ耕作ニ取極メタル畜類及ヒ農具ハ

其土地ヲ別ニシ自カラ主トナリテ書入ト爲ルヲ得サル者ナリ

尙ホ一步ヲ進テ論スル時ハ用方ニ仍ル不動産ヲ書入ト爲スヲ得可

シト明文スルカ如キハ甚タ不用ナリト謂フ可シ蓋シ此不動産ヲ引

放テ孤立セシムレハ之ヲ書入ト爲スヲ得ス主タル財産ニ加ヘ存ス

ル時ハ主タル財産ノ書入ハ暗ニ其總テノ品位及ヒ其總テノ必要ナル附屬品ヲ併セ全部ニテ抵當ニナル者ナレハナリ

〔千四百三十七號〕 第三 不動産ノ入額所得○入額所得者ハ其權利ヲ

他ニ讓與スルヲ得(第五百九十五條)其債主ハ此權利ヲ差押ヘ之ヲ糶

賣ニテ賣却セシムルヲ得(第二千二百四條)故ニ入額所得者ハ其權利

丈ケ不動産ヲ書入トスルヲ得若シ債主ノ所爲ニ出テサル物件ノ

消失入額所得者ノ死亡又ハ入額所得ヲ設立シタル歲月ノ滅盡ニ因

リ入額所得消滅スル時ハ書入モ亦隨テ共ニ消滅ス然レモ入額所得

者虛有權ヲ得ルカ又ハ入額所得ノ權ヲ棄捐シタルカ故ニ入額所得

消滅シタル時ノ如キハ書入ハ消滅セスシテ存在ス蓋シ債主ハ自

己ノ所爲ヲ以テ其債主ヨリ抵當ヲ剝キ去ルヲ得サレハナリ

〔千四百三十八號〕 第四 政府ノ拂下ヲ得テ開鑿スル鑛山○拂下ヲ得

コンセンション 鑛山○拂下ヲ得

書入ト爲スヲ得可キ財産



タル鑛山ハ不動産上ノ所有トナリ上面ノ所有トハ相離レタル者ナリ然レモ上面ノ所有ノ如ク同シク不動産取上ヲ受ケ及ヒ書入ト爲スヲ得ルナリ(千八百十年四月二十一日ノ法律ヲ參觀ス可シ)

第五 佛蘭西銀行(別段ノ一銀行ノ名)ノ不動産ニ關スル株式(千八百八年一月十六日布告)

第六 オルレア<sup>カ</sup>ン及ヒロワ<sup>ン</sup>ノ渠溝<sup>カン</sup>公司<sup>コンパニー</sup>ノ不動産ニ關スル株式(千八百十年三月十六日布告)

(千四百三十九號) 第貳 書入ト爲スヲ得サル不動産

糶賣ヲ以テ賣却スルヲ得サル不動産ハ之ヲ書入トスルヲ得ス使用權及ヒ住居權ハ讓渡スヲ得サル權利ナリ(第六百三十一條及第六百四十四條)故ニ不動産取上ヲ爲スヲ得ス(第二千二百四條)因テ亦書入トスルヲ得サルナリ

土地ノ義務ハ其權ヲ有スル不動産ヨリ之ヲ引キ放ツ時ハ差押テ糶賣ニ附スルヲ得ス是ヲ以テ亦書入ト爲スヲ得サル者トス羅馬法ニテハ例之ハ通行ノ土地ノ義務ノ如キ田畝ニ關スル土地ノ義務ノ書入ヲ許セリ此理ヲ推テ一步ヲ進メハ土地ノ義務ハ糶賣ニテ之ヲ賣ルヲ蓋シ其糶賣ヲ行フニ當リ土地ノ義務ヲ受ケタル土地ノ所有者自カラ競買者トナリテ此權利ヲ買取り之ヲ自己ノ土地ニ附着セシムルヲ得レハナリ我法典ニテハ土地ノ義務ヲ書入トスルヲ許サス何トナレハ此糶賣ニ於テハ競買者ノ數ハ必ス僅少ナル者ナレハ常ニ土地ノ義務ヲ極メテ低價ニ賣却スルニ至ラン然ル時ハ負債主及ヒ書入債主ニ非サル他ノ債主ノ損害タル甚タ大ナレハナリ然レモ土地ノ義務ハ書入ト爲スヲ得スト謂フハ土地ノ義務ヲ受ケタル土地ヨリ引キ放チ孤立セシ者ト見テ之ヲ謂フナリ何トナレ

書入ト爲スヲ得可キ財産



ハ若シ其土地ヲ書入ト爲スヲ有レハ其附屬セル土地ノ義務即チ甲地ヨリ乙地ニ對シ有スル權ハ他ノ附帶セル必要ナル事物ト共ニ書入中ニ加入スル者ナレハナリ

〔千四百四十號〕 負債主其財産中ニ例之ハ取戻ノ訴權、買戻ノ訴權、十二分ノ七ノ損失ニ因テノ取消ノ訴權ノ如キ不動産上ノ訴權ヲ有スル時ハ其債主自己ノ名ニテ此訴權ヲ行フヲ得（第千百六十六條）又債主此訴ヲ爲シ遂ケタル時ハ其取り還シタル不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却スルヲ得然レモ訴權ハ本ト差押ヲ爲シテ之ヲ糶賣スルヲ得サル者ナレハ之ヲ書入ト爲スヲ得サルナリ

訴權又ハ訴ヘ要ムルノ權又ハ訴コナリタル權利ハ書入ト爲スヲ得スト雖モ訴訟ニ係ル不動産ノ後日負債主ノ所有ナリト判決セラルルヲ期シ其判決ヲ未必條件トシテ之ヲ書入ト爲スニハ妨ケ有ル

「無シ例之ハ買戻ノ權ヲ有スル賣主ハ其買戻ノ訴權ヲ書入ト爲スヲ得スト雖モ其訴權ノ目的タル不動産ヲ書入ニスル時ハ其効アリ蓋シ賣主其訴權ヲ行ヘハ必ス勝ヲ奏ス可キ未必條件ヲ以テ既ニ所有者ノ位置ヲ占ムレハナリ（六百三十號、六百三十一號ヲ參觀ス可シ）且ツ第百二十五條ヲ見ルニ未必條件ヲ以テ所有者トナリシ者ハ其未必條件ヲ負フタル書入ヲ承諾スルヲ得ルナリトス上文ヲ要略スルニ左ノ件ハ書入ト爲スヲ得ス

第一 使用及ヒ住居ノ權

第二 土地ノ義務但シ其附從スル所ノ土地ヨリ放レ孤立シタル者（第百十八條）

第三 不動産上ノ訴權

第百十九條

〔千四百四十一號〕 余輩ハ未ダ動産ハ書入ニ因リ追從權ヲ生セス（譯者

書入ト爲スヲ得可キ財産



曰ク追従トハ物件ニ追ヒ從テ其物件ノ負債主又ハ外人ノ手ニ在ル  
ヲ論セス見出ス所ニテ之ヲ押ヘ得ル權利ヲ行フノ謂ヒナリト云フ  
規則ノ説明ヲ爲サ、リシカ茲ニ之ヲ爲サ、ル可カラズ  
羅馬法ニ據レハ動産ハ之ヲ書入ト爲スヲ得其書入ハ債主ニ先取權  
並ニ追従權ヲ與フル者トス

佛國古ノ慣習法ノ過半就中ノルマンジー地方ノ慣習法ニテハ動産  
ノ書入ヲ許セリ然レヒ人ノ手ヨリ手ニ遷轉スルニ容易ナル財産即  
チ動産ニ追従權ヲ適施スル時ハ商賣ヲ害シ公衆ノ憑信ヲ破ルカ故  
ニ此書入ノ効ヲ限制シ債主ニ先取權ヲ與フルモ追従權ヲ付與セス  
ト爲セリ是レ動産ハ書入ニ因テ追従權ヲ生セスト云フ格言アル所  
以ナリ

或ル慣習法例之ハ巴理及ヒオルレアンノ慣習法ハ尙ホ一步ヲ進ミ

先取權ニ附テモ又追従權ニ附テモ動産ハ書入ト爲スヲ得ストセリ  
然ラハ此規則ヲ法例ニ掲クルニ其文動産ハ書入ト爲スヲ得ル者ニ  
非スト書ク可キニ動産ハ書入ニ因テ追従ノ權ヲ生セスト掲ケタル  
カ故ニ文章ノ意規則ノ精神ヲ發顯セシムル能ハス是レ適正ノ條文  
ニ非ス實ニ奇怪ト謂フ可シ  
我カ古昔ノ法律ニ於テ動産ハ書入ニ因テ追従ノ權ヲ生セスト云フ  
規則ニ二箇ノ義アリ或ル慣習法ニテハ動産ハ書入ト爲スヲ得然レ  
ハ先取權ヲ與フルニ止マルト言フ意味ナリ又他ノ慣習法ニテハ(オ  
ルレアン及ヒ巴理ノ慣習法)動産ハ先取權ニ附テモ又追従權ニ附テ  
モ之ヲ書入ト爲スヲ得スト言フ意味アリシナリ  
今ノ法典ニハ同上ノ格言ヲ採リ之ヲ寫シ出セリ然レヒ其格言ノ意  
義如何ヲ尋マルニ巴理及ヒオルレアンノ慣習法ニ在ル所ノ意味ナ

書入ト爲スヲ得可キ財産



リ何トナレハ法典ニ於テ書入ノ義解チ下シ不動産上ノ物權ナリト謂ヒ(第二千百十四條)且ツ不動産ニ係ル財産ニ非サレハ書入ト爲スチ許サ、ル(第二千百十八條)所チ見レハ民法ノ立案者ハ必然動産ハ書入ニ因テ退從ノ權チ生セスト云フ規則チ棄テ此規則ヨリモ最モ正確ナル動産ハ書入ト爲ス可キ者ニ非スト云フ原則チ採リシ者ナリ唯立案者ハ拙ニ巴理及ヒオルレアンノ慣習法ニ用ヒタル良正ナラサル條文チ謄寫シタル者ナリ

故ニ第二千百十九條ハ一面ヨリ見レハ無益ナリ何トナレハ該條ニ掲ケタル規則ハ第二千百十四條及ヒ第二千百十八條ノ原則ヨリ必ス生ス可キ結果ニ過キサレハナリ又他ノ一面ヨリ之チ見レハ條文甚タ危險ナリ何トナレハ若シ該條チ文字上ヨリ解スル時ハ該條ノ意義到底行ハレサルニモセヨ今日動産ハ古昔ノ慣習法中ニ行ハレ

タル如ク先取權ノ點ニノミ書入ト爲ストチ得ルト言フ者ノ如ク見ユレハナリ

(千四百四十二號)然レヒ或人強テ第二千百十九條ノ爲メニ說チ爲シテ云フ該條ハ不動産ト看做シタル動産ニ適施スル者ナリト余ハ將ニ言ハントス其動産ハ即チ用方ニ因テノ不動産ニシテ動産ニ非スト或人又曰ク土地ノ書入ハ先取權チ其土地并ニ不動産ト看做サレタル其附屬品上ニ付與スル者ナリト然レヒ若シ此附屬タル動産ノ附屬品タルトチ止メ所有者之チ土地ヨリ引キ放テ他ニ讓與シタル時ニ當テハ書入債主ハ獲得外人ノ手中ニ存在セル其動産チ差押フルチ得サルナリ○所有者動産ノ用方チ變シ隨テ其自然ノ品位チ變シタルニ因リ不動産ト看做サレタル動産ニ附テ上文ノ說チ爲スノ人ハ又土地ヨリ引キ放チタル不動産ノ部分例之ハ負債主カ定規ニ



從ヒ收取シタル果實又ハ樹木ニ附テモ均シク同說ヲ爲ス可シ

此解釋ハ甚タ巧ミナラス且ツ立案者ノ意モ亦斯ノ如クナラサル可

エントレブレメンション

シ如何トナレハ動産ハ書入ニ因テ追從權ヲ生セスト云フ規則ハ古  
法ニ於テ今日或人ノ解スル如キ意義ヲ含ムヲ無ケレハナリ

〔千四百四十三號〕他又假ニ或人ノ說ニ從フモ第二百十九條ノ文面

ハ無益ニ非サルモ危險タルヲ免カレス夫レ用方ニ因テノ不動産ニ  
シテ再ヒ動産ニ歸シタル者ハ書入ニ因テ追從權ヲ生スト云フヲ以  
テ規則トセハ動産ニ歸シタル時ト雖モ書入ハ存在スル者ト思考セ  
サルヲ得ス斯ク思考スレハ又此動産ノ未タ負債主ノ占有ニ存スル  
時例之ハ負債主果實ヲ收取シテ未タ之ヲ他ニ讓與セサルカ又ハ負  
債主始メ書入地面ノ耕作ニ備ヘタル馬ヲ今自己ノ使用ニ供スルカ  
如キ時ハ債主ハ此動産ノ上ニ先取權ヲ有スル者ト論決セサルヲ得

大然ルコ此結果ハ遂ニ行フ可カラス凡ソ用方ニ因ル不動産再ヒ動  
産ノ品位ヲ取り又ハ不動産ノ一部土地ヨリ放レ動産トナル時ハ當  
ニ追從權ヲ失フノミナラス書入ノ全體即チ先取權并ニ追從權ヲ失  
フ者ナリ然ラハ斯ク決案スルニ何ソ第二百十九條ヲ喚起シ之ニ  
據ルヲ要セン第二百十四條及ヒ第二百十八條ヲ以テ足レリト  
ナス

〔千四百四十四號〕故ニ如何ナル點ヨリ論スルモ第二百十九條ハ意

味ナキ文章ナリト謂フ可シ好シヤ左ナクモ書入ニ附テハ斷然意味  
ナキ冗文ト謂ハサルヲ得ス獨リ特權ニ關シテハ動産ハ特權ニ因テ  
追從權ヲ有セスト云フ原則ヲ置クヲ得可シ然レモ明ニ又ハ暗ニ設  
定シタル動産質入ヨリ生スル特權ニ限テハ追從權アリ(千二百十六  
號第四項千二百九十三號以下及千三百十三號第三項ヲ參觀ス可シ)

書入ト爲スヲ得可キ財産



〔千四百四十五號〕余輩ハ先ニ動産ニ歸シタル用方ニ因テノ不動産又ハ動産トナリタル不動産ノ部分ハ書入ヲ脱スル者ナリト説明セリ然レモ此原則ハ少シク調和シテ以テ之ヲ解セサル可カラズ抑書入債主ハ其負債主カ抵當ノ高ヲ減セント欲シテ詐詭ヲ以テ爲ス所爲ハ之ヲ妨ケ或ハ之ヲ取消サシムルノ權利ヲ有スルコトハ疑テ容レサルナリ故ニ負債主故ナク抵當ノ家屋ヲ破壊シ又ハ森林ニ於テ慣習ニ非サル不時非常ノ伐採ヲ行ハントスル時ハ債主此書入抵當ヲ滅殺スルニ足ル破壊又ハ伐採ヲ妨クルコトヲ得ルナリ若シ既ニ家屋ヲ破壊シ樹木ヲ伐採シタル時ハ債主其家産ノ財料又ハ樹木ノ截去ヲ抗拒シ先取權ヲ行フコトヲ得若シ又其財料又ハ樹木ヲ賣却シテ情ヲ知リタル惡意ノ外人ノ買フ所タル時ハ債主ハ此負債主ノ從犯タル外人ニ對シ第千百六十七條ニ記スル所ノ取消ノ訴ヲ起シ其

アウシヨ、レシヤル

外人ヲ強テ所持ノ物件ヲ返還セシムルカ或ハ外人ヨリ賠償セシムルノ權アリ此總テノ場合ニ於テ債主ハ其自己ノ所爲ヲ以テ書入ニ爲シタル抵當ヲ滅殺シタル負債主ニ對シ第千百八十八條ヲ喚起シ負債主ヲシテ期限猶豫ノ利益ヲ失ハシムルヲ得ルナリ

〔千四百四十六號〕動産ノ書入ハ之ヲ禁ス蓋シ下ノ理由ニ據テ然ルナ

- 第一 動産ハ之ヲ動産質入ト爲スニ極テ容易ナリ
- 第二 動産ニ追從權ヲ適施スル時ハ商賣ノ妨礙ヲ爲ス可シ
- 第三 先取權ト雖モ亦甚タ危險ナル可シ蓋シ此權ノ存在ヲ外人ニ知ラシムル能ハサレハナリ

○第三節 書入ノ原因

第千四百十五條  
第千四百十六條

〔千四百四十七號〕總テ書入ハ法律上ノ者トス蓋シ法律ニ指示シタル

書入ノ原因



場合ト其法式ニ循フニ非サレハ之ヲ爲スヲ得サレハナリ  
 然レモ書入設定ノ最モ直接ナル原因ヲ尋ヌル時ハ三原因ヲ發見ス  
 可シ夫レ書入ハ第一ニハ法律第二ニハ裁判及ヒ裁判上ノ所爲第三  
 ニハ法規ノ法式ニ循テ結ヒタル契約ヨリ出ル者トス故ニ之ヲ分テ  
 三種トス一ニ曰ク法律上ノ書入ニ曰ク裁判上ノ書入三ニ曰ク契  
 約上ノ書入  
ワシントンチール

○第一款 法律上ノ書入

第二千四百十七  
 條第一項第二  
 千四百二十一條  
 及第二千四百  
 十二條

〔千四百四十八號〕 法律上ノ書入トハ法律ヨリ出ル書入ナリ(第二千百  
 十七條)那翁列倫法典ニ載スル所其種五アリ即チ左ノ如シ

- 第一 夫ノ財産上ニ設ケ其婦ノ有スル書入
- 第二 後見人ノ財産上ニ設ケタル幼者又ハ被禁者ノ有スル書入
- 第三 徵收人又ハ會計ノ支配人ノ財産上ニ設ケタル政府、邑又ハ公  
レストブル アトミニストラツール、コンダール

館ノ有スル書入(第二千二百二十一條)

第四 相續中ノ不動産ニ設ケタル受遺囑者ノ有スル書入(第一千十七  
レガテール

條)

第五 先取特權ヲ法律ニ定メタル日限中ニ登記セサルヲ以テ單一  
 ノ書入ニ變化シタル者(千四百二十五號參觀)

法律上ノ書入ハ登記ノ法式ニ循フヲ以テ原則トス然レモ變例アリ  
エンスクリプション  
 テ婚姻シタル婦及ヒ幼者又ハ被禁者ハ此法式ヲ履行セサルヲ許  
 ス故ニ五種ノ書入中其三ハ登記ノ式ヲ要スト謂フ可シ  
 原則ニ於テ法律上ノ書入ハ不特定財産上ニ設クル者トス故ニ負債  
セテラール  
 主ノ現在、未來ノ財産ヲ包含スルナリ  
 然レモ受遺囑者ノ有スル書入ハ不特定ノ者ニ非ス蓋シ此書入ハ相  
 續中ノ不動産ノミヲ包含スレハナリ單一ノ書入ニ變化シタル先取



特權モ亦同シ此書入ハ消滅シタル特權ヲ負フタル財産ニ限ル(第二千百十三條)

余輩ハ後ニ至リ不特定ノ書入ハ或不動産ニ制限スルヲ得ルヲテ説明ス可シ(自第二千百四十條至第二千百四十五條)

○第一節 夫ノ財産上ニ設ケ其婦ノ有スル書入

(附言) 余カ著シタル登記論(第一卷第八百五十四號以下)ニ於テ説明シタル如ク法律ノ婚姻シタル婦ニ付與スル(付與スルト謂ハスシテ命スト謂フヲ以テ當レリトス)所ノ書入ハ婚姻ノ眞精神ト背馳スル者ナリ

(千四百四十九號) 此書入ハ理由○凡ソ婚姻シタル婦ハ法律ヨリ之ヲ保護セサル可カラス蓋シ婦タル者ハ多ク其夫ヨリ別段ノ抵當ヲ要ムルノ勢力ヲ有セサル者ナレハナリ

此書入ヲ擔保スル人權○此書入ハ名義ノ如何ヲ問ハス婦カ其夫ニ對シテ有シ得ル總テノ人權ニ適用スル者ナリ第二千百三十五條ニ於テ別段ノ人權ヲ列記ス而シテ其列記中ニ在ル者五箇ニ過キス然レモ此條ノ目的ハ平日多ク有ル所ノ人權ニ附キ書入ノ順序ヲ定ムルニ外ナラス決シテ人權ヲ列記ノ數ニ限ルニ非ス又書入ノ成立如何ニ關シテ第二千百二十一條ハ一モ人權ノ區別ヲ爲サス其文最モ廣ク曰ク婦ノ諸權利及ヒ人權ヲ一ノ書入ニ因テ擔保スト此書入ハ如何ナル財産上ニ成立スル乎○夫ノ家産ニ入ル可キ總テノ現在ノ不動産及ヒ總テ未來ノ不動産ノ上ニ生ス若シ夫解除ノ未  
必條件ヲ以テ所有主ノ位置ニ居ル時ハ書入モ亦此未必條件ニ從フ  
者トス然レモ婦ハ第九百五十二條及ヒ第一千五十四條ニ記スル場合  
ニ於テ解除ノ未必條件ノミニテ所有シタル財産ノ上ニ取返シ難  
レボカレブル

夫ノ財産上ニ設ケ其婦ノ有スル書入



キ書入ヲ獲得スル者ナリ(第二帙七百十七號及九百三十一號參觀)

[千四百五十號] 財産ヲ共通シタル婦ノ有スル法律上ノ書入ハ新所得

即チ共通ノ權利ノ部分ノ中ニ入ル可キ不動産ヲモ包含スル乎

コンミュニケー

コンケー

此問題ニ附テハ數箇ノ區別ヲ爲サ、ル可カラス

第一 共通間ニ夫其不動産ヲ他ニ讓與セサル時○此場合ニ在テハ  
一ノ難件アルヲ無シ婦若シ共通ヲ棄捐シタリトセシカ共有ノ不動  
産ハ常ニ夫一人ニ屬スル者ト看做スカ故ニ夫カ所有スル他ノ財産  
ノ如ク婦ノ爲メニ法律上ノ書入トナル者ナリ又婦共通ヲ領承シタ  
リトセンカ分派ノ効ニ因テ夫ノ取前ニ入リタル不動産ハ同シク書  
入ヲ負フ者トス其故何トナレハ分派ハ所有ノ既ニ定リタル者ヲ表  
明スルノ方法ニテ夫ハ始メヨリ其己レニ歸シタル財産ニ己レ限リ  
ノ所有ヲ有シタル者ト看做セハナリ

バルグイシュ

[附言]

然レモ婦ハ其自己ノ取前ニ歸シタル財産ノ上ニ書入權ヲ

有スル乎若シ之ヲ然リトセハ婦ヨリ法律上ノ書入ヲ讓受ケタル  
債主ハ分派ニ因リ婦ニ割り付ケタル財産ノ上ニ書入ノ權ヲ行フ  
ヲ得ルナリ若シ然ラストモハ債主此權ヲ行フヲ得ズ、デユウエルゼー  
氏ハ其講義ニ書入ノ權ヲ有スト斷定セリ凡ソ一財産共通中ニ入  
ルヤ否ヤ法律ハ婦ノ爲メニ之ヲ抵當ノ書入トス然ラハ斯ク共通  
間ニテ夫ヨリ得タル書入ヲ分派アリトテ之ヲ失ハシムルヲ得サ  
ルナリ○此理論ハ其根基論題外ニ馳セタル者ナリ何トナレハ本  
題ノ主意要スルニ婦ハ夫ニ屬スル不動産ニ於ケル如ク共通ノ不  
動産ノ上ニモ書入ヲ有スルヤニ在ルナリ該氏ハ始メヨリ婦ハ此  
權ヲ有スル者トシテ論スレハナリ第二千二百二十一條ト雖モ斯ノ  
如ク文意ヲ擴張スルヲ許サル可シト余ハ信シテ疑ハサルナリ○

夫ノ財産上ニ設ケ其婦ノ有スル書入



オーブリ及ヒロー二氏ノ説余ニ同シ(第四版ノ第三帙二百二十八葉ニ見ユ)

〔千四百五十一號〕第二 共通間ニ夫其不動産ヲ讓與シタル時○婦共通ヲ領承シタル時ハ既ニ讓與シタル新所得ニ婦ノ爲メニ設ケタル書入アルヲ無シ此點ニ附テハ判決例及ヒ論說一定セリ然レヒ余輩<sub>ドクトリス</sub>ナシテ誤謬ナカラシメハ判決例ニ引用シテ其決議ヲ助ケタル理由ハ甚タ不充分ナリトス

判決例ニ曰ク「婦ハ共通ヲ領承スレハ即チ其書入權ヲ棄捐スルナリ何トナレハ其領承ハ即チ夫ノ爲シタル讓與ヲ暗ニ認定セシ者ナレハナリ」ト此說誤レリト謂フ可シ夫レ共通ヲ領承シタル婦ハ其夫ノ所爲ヲ暗ニ認定シタル者ナリト言フハ其說然リ又其認定ハ婦ハ共通ノ位置ニ居ルノ間ハ婦ニ對シテ總テ其効ヲ有スル者ナリトスル

ノ說モ亦然リ此認定ハ婦カ共有ノ位置外ニ有スル權利即チ彼ノ固有權利ヲ失ハシメス茲ニ一ノ不動産アリテ其所有ハ夫婦共通スル所タリ其入額所得ハ婦ノ固有スル所タル者アリト假想センニ夫一人ニテ其不動産ヲ以テ他ニ讓與セシ時ハ共通ヲ領承シタル婦ハ夫カ他ニ讓與シタルカ故ニ其自己ノ承諾ナリ讓與サレタル不動産ノ入額所得權ヲ失フナリト謂フチ得ルヤ何人ト雖モ論シテ此點ニ至レハ然リト言ハサル可シ故ニ婦ハ新所得上ニ法律上ノ書入ノ權ヲ有ストセハ其領承ハ此書入ヲ失ハシメサルヤ必セリ或人又曰ク然レヒ共通ヲ領承シタル婦ハ其共通ニ附帶セル負債ノ一部ヲ擔任スル者ナレハ夫カ爲シタル新所得ノ讓與ヨリ發生スル擔任ノ義務モ亦負ハサル可カラス故ニ婦其新所得獲得外人ニ對シテ書入ノ權ヲ行ハント望ムト雖モ取戻ハ擔保ノ義務アル人自カラ取還ハ訴ヲ起

夫ノ財産上ニ設ケ其婦ノ有スル書入



ス時ハ其擔保ノ抗辯ヲ受ク可シノ格言ヲ適行スル時ハ其書入ハ消滅ス可キナリト余ハ將ニ之ニ答ヘテ言ハントス共通ニ一ノ利益アルコト無ク且ツ婦目錄ヲ造ルノ注意ヲ爲サ、ル時ハ婦ハ負債ノ任ヲ卸脱シ擔任ノ義務ヲ免カル、者ナリ此場合ニ於テ婦ノ有スル書入權ハ本體ニ於テ成立スル者トスル以上ハ此コトモ充分完全ニ存在スル者ナリ他又共通中權利ノ部分其義務ノ部分ヲ超過スル場合ニ於テモ婦ノ義務ハ其得ル所ノ利益ノ高ニ限り而シテ躬自カラ結約セサル負債ノ半額ニ止マルナリ然ラハ取戻ノ擔保ノ義務アル人自カラ取還ノ訴ヲ起ス時ハ其擔保ノ抗辯ヲ受ク可シノ格言ハ婦ノ負擔セル擔任ノ義務ノ分數丈ケニノミ適施スルヲ得而シテ書入ヲ以テ既ニ成立スルトセハ負擔外ノ餘數ニ於テモ亦成立スル者トセザルヲ得ス

故ニ先ノ決案ノ理由ハ上文ニ言ヘル如キ理論ニ非ス其據ル所左ノ如シ曰ク婦共通ヲ繼承シタル時ハ既ニ讓與シタル新所得上ニ書入ノ權ヲ有セス其故何トナレハ余輩カ上ニモ述フルカ如ク此書入ハ夫カ共通上ニ有スル威權ト調和セサレハナリ凡ソ夫ノ共通財產ヲ支配スルヤ徒ニ自己ノ利益ノ爲メノミナラス其婦ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲ス者ナリ然ラハ夫ト結約シタル外人ヲシテ共通財產上ニ婦ノ有タル法律上ノ書入ノ効ヲ及ホスノ恐レ有ラシムルハ共通ノ利益ニ非ス其共通ノ繁旺ハ婦ニ於テモ利益トスル所ナリ故ニ決シテ婦ニ利益ナシト謂フ可カラス

〔千四百五十二號〕婦ヨリ共通ヲ拒辭セシ場合ニ於テハ判決例及ヒ論

說分レテ一定ナラス

判決例ニテハ此場合ニ於テ法律上書入ノ權アル可シトス其說ニ據

夫ノ財産上ニ設ケ其婦ノ有スル書入



レハ婦既ニ共通ヲ拒ミ領承セサル以上ハ嘗テ共通ヲ爲サ、ル者ト看做ス故ニ新所得モ亦常ニ夫一人ノ所有中ニ在ル者ト看做サ、ルヲ得ス今第二百二十一條ノ明文ヲ見ルニ夫ノ全不動産ハ其婦ノ有スル法律上ノ書入トナル者ナリトス

論說ニ附テ見ルニ反對ノ說頗ル多シ其論理左ノ如シ曰ク抑、共通ヲ拒辭シタル婦ヲ以テ嘗テ共通ヲ爲シタルニ非ストスルハ非ナリ是レ思想ニ出テ、法文ニ一モ斯ノ如ク載セタル者ナシ夫レ共通ヲ拒辭シタル婦ノ共通ニ對シテ權利ヲ失ヒ自身ニ拒辭シタル負債外ノ負債ヲ免カレルコトハ疑ヲ容レスト雖モ婦カ拒辭スルヲ得サル一ノ所爲アリ即チ先キニ共通セシ事是ナリ故ニ新所得ヲ讓與シタルハ夫ノ財産ナリトシテ讓與シタルニ非ス夫カ支配人ノ身分即チ婦ノ名ト自己ノ名ヲ以テ共通ノ財産ナリトシテ讓與シタルナリ然ルニ

又第二百二十一條ハ夫ノ不動産上ニノ婦ニ書入ノ權ヲ付與スル者ナリ

他又夫ノ所爲ノ効ハ共通解除ノ時婦ノ取ル可キ部分ニ及ホス如キ法律ニ奇異ノ精神アリト信スル乎誰カ之ヲ信センヤ若シ斯ノ如クナレハ外人ノ安寧ヲ害シ隨テ夫ノ信用ヲ損スル極メテ大ナリ今法律ハ夫ニ與フルニ廣大ノ權威ヲ以テシテ其傍ニ財産善良ノ支配ニ甚シキ障礙ヲ置ク能ハサルナリ

〔千四百五十三號〕 婦ノ有タル書入ハ婚姻解止ノ後チ夫ノ得タル財産ニ及ホス乎

一說ニハ之ヲ否ナリトス其說ニ曰ク本題ノ法律上ノ書入ハ婚姻ニ由リ夫婦ノ間ニ生スル交際ノ性質ニ基根シテ設ケタル者ナリ此交際既ニ止ムニ至テ何ソ此書入ヲ生センヤ又法律ノ此書入ヲ設クル

夫ノ財産上ニ設ケ其婦ノ有スル書入



ヤ夫ノ財産ニ限ル婚姻解止シタルノ後ハ婦ナル者アル無シ何ソ夫  
ハ在ル有ラソヤ

一説之ヲ然リトス其説ニ曰ク法典中ニ用ヒタル別段ノ語ハ疎籠ナ  
ル者ニテ之ヲ以テ論基スルニ足ラス現ニ夫ト言ヒ後見人ト言フ語  
ヲ用ユ而シテ其夫ト言フハ先キニ婚姻シタル者ヲ指シ後見人ト言  
フハ先ニ後見ヲ任セラレタル者ヲ指シテ言フコト有リ(第二百九十五  
條、第三百一條、及自第四百七十一條至第四百七十五條)他又法律ノ意  
ノ書入ヲ夫ノ現在所有ノ財産及ヒ婚姻中ニ獲得シタル財産ニ限制  
スルヲ欲スルニ非ス故ニ法律ハ其文面廣クシテ彼此ノ區別ヲ爲サ  
ス其意ヲ示シテ言フ曰ク法律上ノ書入ヲ有スル債主ハ其負債主ニ  
屬スル不動産及ヒ後ニ至リ負債主ニ屬ス可キ不動産ノ上ニ書入ノ  
權ヲ行フコトヲ得可シト

〔千四百五十四號〕之ニ反シ書入ハ夫死シテ後チ其相續人一己ノ所有  
トナリシ不動産ニ及ホスト言フヲ以テ一般ノ説トス果シテ此不動  
産ハ夫ニ屬スル者ニ非ス夫ノ財産トハ法律ノ婦ノ抵當トシテ定メ  
タル者ノミニ限ルコトセル氏言ヘル有リ曰ク全財産ニ設クル不  
特定ノ書入ハ現在及ヒ未來ノ者ヲ包含スト雖モ宗系相續人ノ財産  
ハ然ラス

○第二節 後見人ノ財産上ニ設ケタル幼者又ハ被禁者ノ  
有スル書入

〔千四百五十五號〕此書入ノ根基トスル所ノ理由ハ婦ノ有スル書入權  
ノ根基タル理由ト同シ而シテ又伴シク現在及ヒ未來ノ財産上ニ設  
クル者ナリ然レモ第九百五十二條及ヒ第千五十四條ノ定規ハ此ニ  
適施ス可カラス

後見人ノ財産上ニ設ケタル幼者又ハ被禁者ノ有スル書入



後見人ノ名稱中ニハ法律上ニテ後見人ノ身分ヲ付與シタル總テノ  
 人ト知ル可シ故ニ正當後見人、裁判所所定ノ後見人、遺囑所定ノ後見  
 人、准後見人(第四百十七條)同後見人(第三百九十六條)及ヒ特別ノ後見  
 人(第三百六十一條)ノ財產ハ此書入トナル者ナリ  
チニテニール、オフヒシユ  
 コラニテニール  
 チニテニール、オフヒシユ  
 チニテニール、オフヒシユ

〔千四百五十六號〕然レモ法律上ノ書入ニハ擴張ノ解釋ヲ許サ、ルカ  
 故ニ下五箇ノ場合ノ者ニハ書入ナキ者ト決セサルヲ得ス

第一 幼者ノ利益ノ爲メ後見監督人ノ財產上ニ書入ヲ設ケス後見  
 監督ノ職タル後見人ノ支配ヲ監視スルニ過キサルヲ以テ書入ノ義  
シニテニール  
 務ヲ受ケサルコトハ疑ヲ容レス且ツ後見監督人ノ第四百二十條ニ據  
 リ不時ニ後見ノ職務ヲ執ル場合ト雖モ亦上ニ同シ蓋シ嘗テ後見人  
 ナ監視スル場合ト不時ニ後見ノ職ヲ執ル場合ヲ區別スルノ議アリ  
 然レモ「トリビュナー」千七百九十九年代佛國立法院ノ名ノ議ヲ以テ之

ヲ棄却シタリシコト明瞭ナレハナリ

第二 父母婚姻中其子ノ利益ノ爲メ其父即チ子ノ財產支配人ノ不  
 動產上ニ書入ヲ設ケス(第三百八十九條)法律ハ父ノ財產ヲシテ一ハ  
 其婦ノ爲メニ一ハ其子ノ爲メニ併セテ二様ノ法律上ノ書入ヲ負ハ  
 シムルヲ欲セス是レ父タル者公衆ニ對シ憑信ヲ失ハンコト恐レテ  
 ナリ

第三 管財人又ハ裁判所ヨリ命シタル管財人ノ保護ヲ受ル人ノ利  
キニテニール 益ノ爲メ其管財人又ハ其裁判所ヨリ命シタル管財人ノ財產上ニ書  
ゲニテニール  
 入ヲ設ケス蓋シ此等ノ人ハ無能力者ノ支配如何ヲ監視スル迄ニシ  
 テ自カラ手ヲ下シテ支配スルニ非サレハナリ

第四 被喚者(甲贈與又ハ遺囑ヲ乙ニ爲スニ後チ甲ノ子ニ其贈與又  
アツベレ  
 ハ遺囑ノ財產ヲ乙ヨリ傳フ可キ約定ヲ爲ス此乙ヲ指シテ被喚者ト

後見人ノ財產上ニ設ケタル知者又ハ被喚者ノ有スル書入



言フ贈與遺囑ノ篇第千四十八條以下ニ詳カナリノ利益トシテ攝代  
(シニプスナチユシヨ)贈與遺囑ノ篇ニ詳カナリ執行監視ノ爲メニ命  
シタル後見人ノ財産上ニ書入ヲ設ケス蓋シ此後見人ハ自カラ支配  
ヲ爲スニ非ス其實一ノ管財人タルニ過キス且ツ又第二千二百二十一  
條ハ幼者又ハ被禁者ノ事ヲ記スルト雖モ被喚者ノ事ヲ記セサレハ  
ナリ

第五 禁止ノ訴ニ被告者トナリタル人ノ利益ノ爲メニ其假支配人  
ノ財産上ニ書入ヲ設ケス(第四百九十八條)然レモ千八百三十八年  
六月三十日狂院法第三十四條ニ據レハ裁判官ハ關係人又ハ檢事ノ  
願ニ據リ未ダ禁止ヲ言渡サスト雖モ狂院ニ入りシ者ニ附シタル假  
支配人ノ財産上ニ書入ヲ設クルヲ許セリ此書入設立ノ裁判ハ書  
入ノ特定ナルヤ又ハ不特定ナルヤヲ申明シ其書入ノ本タル金高ヲ

定メサル可カラス又此書入ハ登記ノ式ヲ要ス其登記ハ裁判ヨリ十  
五日内ニ於テ檢事ノ干涉ヲ以テ爲サ、ル可カラス

〔千四百五十七號〕幼者又ハ被禁者ニ付與シタル書入ノ目的ハ後見人  
ノ理財ハ終末自カラ負債主トナリ且ツ後見人ノ身分トシテ計算ノ  
責アル總テノ金高ノ拂方ヲ擔保スルニ在リ

後見人其後見外ノ他ノ身分ニテ負擔スル負債例之ハ無能力者ノ父  
ヨリ借りシ金高ノ如キ通常負債ニ附テハ此ニ區別ヲ置クヲ必要ナ  
リトス若シ此負債後見外ニ期限ノ至リシ時ハ後見人ハ其負フ所ノ  
金高ヲ無能力者ノ金庫ニ返濟セサル可カラス此時後見人ハ自己ニ  
對シ自カラ辨濟ヲ要求セサル可カラス既ニ返濟シタル後チ後見人  
ハ後見人トシテ無能力者ニ計算スルノ義務アリ故ニ始メテ法律上  
ノ書入ヲ生ス然レモ若シ此負債ノ期限後見終盡ノ後ニ至リ到來シ

後見人ノ財産上ニ設ケタル幼者又ハ被禁者ノ有スル書入



タル時ハ此負債ハ後見人ノ負債ニ非ス故ニ法律上ノ書入ナシ  
 [千四百五十八號] 再婚ヲ爲シ第三百九十五條ニ循ヒ親族會議ヲ喚集  
 セサル婦ハ法律ニテ後見ノ權ヲ失フ然レモ又實際後見ノ職ヲ繼續  
 ナルヲ得此場合ニ在テ其夫ハ連帶ニ後見ノ義務ヲ負フ者ナリ故ニ  
 母及ヒ其夫ノ財産ハ子ノ利益ノ爲メ書入ヲ受ク可キヤノ疑團アリ  
 一説ハ之ヲ否ナリトス其説ニ曰ク此母ハ法律上ノ後見人ニ非ス母  
 既ニ後見ニ非サルカ故ニ其夫ハ即チ同後見人ニ非サルナリ因テ後  
 見ヲ受ケサル子ノ利益ノ爲メニ書入アルヲ無シ若シ之ヲ否トセハ  
 是レ一ノ法律ヲ立テルナリ  
 他ノ一説ハ之ヲ然リトス其説ニ曰ク一ノ母ニシテ一方ノ子ニ附キ  
 其本分ヲ行ハス一方ノ子ニ附テハ其本分ヲ行フ而シテ其始メノ子  
 ナシテ獨リ次ノ子ヨリモ惡シキ位置ニ在ラシム可カラス今母ニ其

本分ヲ盡サ、ルノ過失アリ其過失ニ因テ自カラ書入ノ義務ヲ免カ  
 ル、ヲ得ス母ハ事實上ニ於テ後見人タリ此理由ヲ以テ第二百十二  
 條ヲ適施スルニ充分ナリ母既ニ事實上ニ於テ後見人タレハ其夫モ  
 亦事實上ニ於テ同後見人タリ何トナレハ寡婦ヲ娶リシ者ハ即チ後  
 見人ヲ娶リタレハナリ古法既ニ斯ノ如シ(第三百九十五條ノ説明ヲ  
 參觀ス可シ)

○第三節 徵收人又ハ會計ノ支配人ノ財産上ニ設ケタル  
 政府、邑又ハ公館ノ有スル書入

[千四百五十九號] 會計ノ支配人トハ金錢ノ預リ人ニシテ之ヲ支配ス  
 ルノ任アル者ヲ言フ千八百七十年九月五日ノ法律ニ載スル所其數  
 限制アリ(下ノ附言ノ一ヲ見ル可シ)數州ノ收稅長(ルスウール、ゼチロ  
 一、デ、デバルトマン)(下ノ附言ノ二ヲ見ル可シ)郡ノ別段收稅官(ルスウ

徵收人又ハ會計ノ支配人ノ財産上ニ設ケタル政府、邑又ハ公館ノ有スル書入 四七



ール、バルチキユリエル、ダロンワスマン、ベキユール、ゼチロー、エ、デウ  
 非ジヨンチール、ベキユール、ゼチロー、ハ廣ク仕拂ノ任アル官ノ名、ベ  
 非ユール、デウ非ジヨンチール、ハ區限アル仕拂チ司トル官ノ名、ベキ  
 ユール、ド、デバルトマン、州中ノ仕拂チ司トル官ノ名、ベキユール、デ、ボ  
 ルト、郵便ニ關シテ仕拂チ司トル官ノ名、ベキユール、デ、ザルム、軍人軍  
 屬ノ仕拂チ司トル官ノ名、直稅徵收官、ベルセブチール、デ、ゼンボ、シレ  
 ク、ハ政府ノ金錢預リ人ナリト雖モ之ヲ上ノ法律中ニ記載セス故ニ  
 此直稅徵收官ノ財産ハ法律上ノ書入ヲ受ケサル者ト決定ス(附言ノ  
 三ヲ見ル可シ)

(附言ノ一) 大審院ノ判決ハ之ト同シカラス

(附言ノ二) 今之ヲ「トレヅリエ、ベキユール、ゼチロー」ト言フナリ

(附言ノ三) トロプロン氏ハ千八百二十年六月十日コルマル審院

ノ判決ニ從ヒ之ヲ推論シ直稅徵收官ハ法律上ノ書入ノ義務ヲ負  
 ハサル者トス蓋シ此官ハ徵收丈ケノ高チ上納スルノ義務アルヲ  
 以テ決シテ大藏省ニ對シテ計算ヲ爲サ、ル單純ノ徵稅人ナレハ  
 ナリ然レ此說ハ第二千二百一十一條ノ文面甚タ廣キヲ以テ其力  
 弱ク且ツ又單純ノ徵稅人ノ名ハ後チ「ベルセブチール」ト改マリシ  
 者ニシテ其名稱ニ據テ論スルモ本題ヲ明瞭ナラシムルニ足ラス  
 他又「ベルセブチール」ニ附キ云々スル所ノ條例ハ理論上ニ於テ別  
 段ノ徵收人ニ適施ス可シ何トナレハ此徵收人モ亦自カラ手中ニ  
 金錢ヲ有スル能ハサレハナリ

又收入ヲ指揮シ又ハ計算ヲ監督スル官吏ノ財産ハ法律上ノ書入ト  
 ナラス蓋シ此官吏ハ金錢ノ預リ人ニ非サレハ計算ヲ爲ス可キ人ニ  
 非サレハナリ例之ハ調査官、檢査監督ニ特ニ任シタル官ナリ(驗實官  
 エンスベグツール、ウヘリヒイカツール)

徵收人又ハ會計ノ支配人ノ財産上ニ設ケタル政府、邑又ハ公館ノ有スル書入



(計算ノ實ナルヤ否ヤヲ検査スル爲メノ官ナリ)ノ如キ是ナリ

(千四百六十號) 公館トハ直接ニ政府又ハ邑ヨリ公益ノ爲メニ設立シタル館舎ナリ即チ病院、安全舎(凡ソ危難ヲ避ケル爲メニ設ケタル館舎ヲ謂フ)等ノ如キ者ヲ言フ公益ノ爲メニ常人ニ由テ設ケラレタル館舎ノ支配人ノ財産ハ書入ヲ受ルコト無シ

(千四百六十號ノ二) 那翁列倫法典第二千二百二十一條、第二千九十八條及ヒ千八百七年九月五日ノ法律第四條ニ據テ政府ノ會計ニ付與シタル法律上ノ書入ノ外計算ス可キ人ノ或ル不動産(總テノ不動産ニ非ス)ノ上ニ先取特權ヲ付與ス其或不動産トハ自己又ハ其婦任職後要償ノ名義ニテ獲得シタル不動産ヲ謂フ法律ノ推測スル所此不動産ハ政府ノ金銭ヲ以テ獲得シタル者トス故ニ政府ヲシテ他ノ債主ニ先立チ此不動産ヲ賣却シ償金ヲ以テ辨濟ヲ受取ラシムルヲ欲ス

ルナリ然レヒ計算人ノ婦ハ此不動産ノ實ニ自己ノ金銭ヲ以テ獲得シタルノ證據ヲ出スヲ得ルナリ

故ニ政府ハ一面ニ附テハ計算人任職ノ時所有スル財産ト就職後無報ノ名義ニテ獲得シタル財産上ニ法律上ノ書入ヲ有シ又他ノ一面ニ附テハ其就職後要償ノ名義ニテ自カラ獲得シタル不動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

○第二款 裁判上ノ書入

第二千七百七  
條第二項及第  
二千二百二十三  
條

(千四百六十一號) 裁判上ノ書入トハ裁判又ハ裁判上ノ所爲ニ因テ生スル書入ヲ謂フ

裁判トハ裁判所ニ訴へ出テタル争事ニ其裁判所ヨリ下シタル決定ナリ

裁判上ノ所爲トハ裁判所ノ爲シタル事實認定ナリ私印ノ書附ヲ有

裁判上ノ書入



ナル債主ヨリ負債主ニ裁判呼出チ爲シ證書ノ手署ヲ確認セシム負債主ハ其手署ヲ否ナリトシ又ハ之ヲ然リトセシト假想センニ其否ナリトセシ場合ニ在テハ裁判所ハ争事ニ裁判ヲ下スナリ何トナレハ證書ノ手署ハ則チ被告人ノ手署ナリ又ハ否ラスト判決スレハナリ其然リトセシ場合ニ在テハ始メヨリ雙方ノ間ニ争事ナキヲ以テ裁判所ヨリ裁判ヲ下スチ得ス裁判所ハ見聞ノ事件ヲ證明シタル公證人ノ職務ヲ行ヒ負債主ノ申述ヲ調査シタルナリ故ニ裁判アルニ非ス裁判上ノ所爲アリシナリ

〔千四百六十二號〕 第壹 裁判ニ因テ生シタル書入

法律ハ書入ヲ以テ裁判ノ執行ヲ擔保セシムルヲ欲シタルナリ凡ソ完全ニ構成シタル社會ニ在テハ裁判所ノ命令ノ行ハレサルヲ有ルハ蓋シ鮮シトス

何レノ裁判ニ由ラス必ス書入ヲ生スルノ効アルニ非ス此効ハ訟者一方ニ金高ヲ拂ヒ又ハ事ヲ爲シ或ハ爲サ、ラシムルヲ申渡シタル裁判ニ限ル可シ此爲シ又ハ爲サ、ラシムル裁判ノ場合ニテハ書入ハ若シ義務ヲ執行セサル時ニ負擔スル賠償ノ抵當トナルナリ然レハ金錢又ハ物件ニ關セサル裁判例之ハ人ノ身分ニ關スル事件ヲ決定スル裁判ハ書入ヲ生セス蓋シ申渡ヲ受ケシ訟者拂フ可キ負債アルニ非ス故ニ之カ抵當タル書入ヲ要セス然レハ申渡ヲ受ケシ訟者ハ訴訟入費ノ負債主タリ是ニ由テ其財産ハ入費消却ヲ擔保スル裁判上ノ書入ヲ負フ者トス

又書入ヲ生セシムルニハ間接ニ金高ヲ拂フノ申渡アル裁判ニテ足レリトス故ニ計算ヲ爲ス可シト申渡シタル裁判ニテ書入ヲ生ス何トナレハ此申渡ハ顯然拂方ヲ命セスト雖モ陰ニ計算人ノ負フ可



キ不足高キ拂フノ義務ヲ包含スレハナリ

〔千四百六十三號〕若シ裁判佛蘭西ノ國權ニテ爲ス所タル時ハ其裁判  
 ヲ爲シタル裁判所ノ如何ヲ區別スルヲ要セス其裁判所ノ民事裁判  
 所又ハ商事裁判所又ハ控訴院又ハ治安裁判所タルヲ問ハス又其裁  
 判ノ出席又ハ闕席假リ又ハ確定初審又ハ終審ナルヲ別タス皆ナ書  
 入ヲ生ス然レモ裁判官ヲシテ事實ヲ明瞭ナラシムルヲ目的トシ或  
 ル訴訟手續ヲ申渡ス單純ノ本案ニ關スル豫審裁判又ハ本案ニ關セ  
 サル豫審裁判ハ書入ヲ生セス蓋シ此裁判ハ金錢ニ關スル申渡ヲ包  
 含セサレハナリ

〔千四百六十四號〕闕席又ハ出席裁判ニシテ初審ニ係ル時ハ故障又ハ  
 控訴ニ拘ハラヌ又裁判ヲ執行ス可カラサル八日間ト雖モ此裁判ヨ  
 リ生スル書入ハ之ヲ登記シテ其効アリ何トナレハ此登記ヲ爲スハ

執行ノ所爲ニ非スシテ單純ノ保存ノ處置ナレハナリ

〔千四百六十五號〕判斷人ノ判決ハ裁判所ノ裁判ノ如ク書入ヲ生ス然  
 レモ此書入ハ裁判所ノ判事長ノ命令ヲ以テ判決ニ執行力ヲ附シタ  
 ル後ニ非サレハ登記スルヲ得ス又其効ヲ生セス(訴訟法第千二十條)  
 此判決ハ一ニ常人ノ下ス所ニ係レハ充分ニ既判件ノ力アリト雖モ  
 執行力ヲ有セス故ニ其執行ハ執行ノ法式ヲ書附ニ附スルノ任アル  
 法官ヨリ付與ス可キ者ナリ

〔千四百六十六號〕佛蘭西法官例之ハ領事官ノ如キ者ヨリ外國ニ於テ  
 下シタル裁判ハ佛蘭西國內ニ於テ爲シタル裁判ノ如ク書入ヲ生ス  
 〔千四百六十七號〕外國ニ於テ外國裁判官ノ爲シタル裁判ハ佛蘭西ニ  
 於テ書入ヲ生ス然レモ此書入ヲ登記シ其効ヲ生セシムルニハ下三  
 箇ノ場合ニ限ル



第一 其裁判佛蘭西國內ニ於テ佛蘭西裁判所ニテ執行力ヲ附シタル時

第二 佛蘭西ト其裁判ヲ爲シタル國ノ間ニ條約アリテ其國ニ於テ爲シタル裁判ハ佛蘭西ニ於テ執行力ヲ附スルト定メアル時

第三 佛蘭西ノ法律ニ於テ某ノ國ニ於テ爲シタル裁判ハ佛蘭西ニ於テ執行ス可シトシタル時

〔千四百六十八號〕爰ニ一ノ注目ス可キコト有リ判斷人ノ判決ハ裁判所ノ判事長ノ命令ニ因テ執行力ヲ附スト雖モ外國ニ於テ爲シタル裁判ニ執行力ヲ附スルニハ裁判所ノ裁判ヲ要ス此區別ノ理由ヲ知ル甚タ易シ夫レ執行力ハ判斷人ノ判決ト外國裁判所ニテ爲シタル裁判ヲ問ハス或ル檢査ヲ爲シタルノ後ニ非サレハ之ヲ附スルヲ得ス今外國裁判ニ附テ檢査ノ大ナル者ハ外國裁判ノ果シテ裁判タル總

テノ性質ヲ具ヘルヤ否ヤ又其裁判ハ無効ニ屬スル者ナルヤ否ヤ裁判ノ執行ヲ停止スル攻撃ノ道アルヤ否ヤヲ探究スルコトナリ之ヲ爲スハ先ツ外國ノ法律ヲ講究セサル可カラス故ニ此檢査ハ佛國判斷人ヨリ出テタル判決ニ附テヨリモ外國裁判ニ附テ最モ緊要ニ最モ難險ナリトス外國ノ裁判ニハ全裁判所ノ檢査ヲ要シ判斷人ノ判斷ニハ裁判所ノ判事長ノ檢査ニ委スルハ此理ニ因ルナリ

〔千四百六十九號〕然レ此ニ至要ノ一問題アリ凡ソ判斷人ノ判決ハ爭者ノ間ニテハ裁判ト同ク既判件ノ力ヲ有ス其缺クル所ノ者ハ執行力ナリ而シテ裁判所ノ判事長單一ノ命令ヲ以テ此力ヲ附ス是レ一ノ法式ヲ附スルニ過キスト雖モ最早爭者ハ既ニ裁判サレシ者ヲ爭フヲ得ス今外國裁判モ亦斯ノ如クナル乎佛蘭西ニ於テ既判件ノ力ヲ有スル乎此裁判ニ執行力ヲ附スルノ願ヲ受ケタル佛蘭西裁判



所ハ更ニ其訴件ヲ審理スルノ權アル乎曲者ト申渡サレタル訟者ハ外國ニ於テ裁判サレタル事件ヲ佛蘭西ニ於テ攻撃シ外國裁判ノ再審ヲ願フヲ得ル乎

此問題ニ附キ三説アリ

第一説 曲者ナリト申渡サレタル訟者ハ更ニ訴訟ノ本案ニ附テ訴ヲ爲スヲ得又判決ノ法律ニ適合セサルノ旨ヲ證シ前裁判ノ再審ヲ願フヲ得何トナレハ外國裁判官ハ佛蘭西ニ於テ如何ナル威權ヲモ有セサル者ナレハナリ

單一ノ執行ノ法式ヲ裁判ニ附スルノミノ時ハ我法典ハ全裁判所ノ干涉ヲ要セス單ニ判事長ノ命令ヲ以テ足レリトス

〔附言〕 判決例ニ採用スル所ノ説ハ則チ此第一説ナリ

〔千四百七十號〕 第二説 佛國裁判ハ佛蘭西ニ於テ既判件ノ力ヲ有シ

且ツ書入ノ原則ヲ含ム唯其缺クル所ハ執行力ノ一ノミ若シ佛蘭西裁判所ニテ外國裁判ヲ再審スルヲ得ル者トセハ常ニ再審ヲ爲サ、ルヲ得ス蓋シ再審ヲ爲シ得ル以上ハ外國裁判ハ佛蘭西ニ於テ如何ナル權威ヲモ有セサル者ナレハナリ果シテ然ラハ佛蘭西ニ於テ執行力ヲ附シ又書入ヲ生スルハ外國裁判所ノ爲シタル裁判ニ非スシテ常ニ佛蘭西裁判所ノ爲シタル裁判ナリ然ルニ今訴訟法第五百四十六條及ヒ民法第二千二百二十三條ノ文ヲ見ルニ佛蘭西裁判所ニ依テ執行力ヲ受ケ隨テ書入ヲ生スル者ハ即チ外國裁判ナリ

治罪法第七條ノ文ニ外國ニ於テ佛蘭西人ニ對シ罪ヲ犯シタル總テノ佛蘭西人ハ未タ外國ニ於テ裁判ヲ受ケサル時ハ佛蘭西ニテ裁判サル、ヲ得トアリ(下ノ附言ヲ見ル可シ)故ニ刑事ニ於テ外國ニテ爲シタル裁判ハ佛蘭西ニ於テ既判件ノ力アリ斯ク自國ノ名譽及ヒ國



體ニ關スル裁判ヲ爲ス時ニ此力アリトセハ何ソ獨リ金錢上ノ利益ニ關スル時ニ限リ然ラサルノ理アラシヤ

〔附言〕 千八百六十六年六月二十七日ノ法律ハ治罪法第五條第六條及ヒ第七條ノ新條例ヲ以テ廢止セリ

斯ク訴訟ノ本案ハ外國裁判ニテ既判件ノ力アリト然レハ佛蘭西裁判所ハ外國裁判ニ執行力ヲ附スルノ前ニ或ル檢査ヲ爲サ、ル可カラズ即チ提供シタル書附ノ裁判ノ總テノ性質ヲ具フルヤ否ヤ又其裁判ハ無効ノ者ニ非サルヤ否ヤ又署名ハ裁判官ノ署名ナルヤ否ヤ又其裁判ニテ命スル所ノ執行ノ方法ハ佛蘭西法律ニ違反スルヤ否ヤチ明白ナラシメサル可カラズ此檢査ハ全裁判所ニ依テ爲ス可シ何トナレハ此事ハ判斷人ノ判決ニ執行力ヲ附スルヨリモ甚ク險難ノ事ナレハナリ

〔千四百七十一號〕 第三說 上文二說ノ間ニ一ノ折衷シタル說ヲ設ク曰ク外國人ト外國人ノ間ノ爭事ニ附キ下シタル裁判又ハ一外國人ニ對シ一佛蘭西人ヲ直ナリト判決セル裁判ハ佛蘭西國ニ於テ既判件ノ力ヲ有シ獨リ執行力ヲ缺クノミナリ然レハ佛蘭西人ヲ曲ナリトシタル裁判ハ佛蘭西ニ於テ既判件ノ力ヲ有セス又執行力ヲ有セス

千六百二十九年ノ命令書第二百一十一條ニ於テ此區別ヲ爲ス而シテ此區別ノ目的タル外國ニテ曲ナリト裁判サレタル佛蘭西人ニ外國裁判ニテ審判シタル爭事ヲ其固有ノ裁判官ニ再訴スルノ權利ヲ與ヘテ之ヲ保證スルニ在リ而シテ此命令書ハ今以テ適施セサル可カラズ何トナレハ此命令ハ我法典中ノ如何ナル條例ニテモ廢セラレタルヲ無ケレハナリ民法第二千二百二十三條及ヒ訴訟法第五百四十



九條ハ執行力ノ點ニ附キ外國裁判ノヲ記スト雖モ其裁判ノ佛蘭西ニ於テ既判件ノ力ヲ有スルヤ否ヤヲ記セス之ヲ一ノ疑問ニ附ス該條固ヨリ既判件ノ力ヲ有スル外國裁判ヲ假想ス然レモ其明文ニ於テ外國裁判ハ總テ既判件ノ力ヲ有スト言ハス然ラハ如何ナル外國裁判ニシテ其力ヲ有スル乎此問題ハ我法典中一條トシテ之ヲ決シタル者ナシ故ニ之ヲ決スルニハ古昔ノ命令書ニ據ラサルヲ得ス夫ノ訴訟法第千四十一條ハ古昔ノ法例ヲ廢棄スト明言スト雖モ其意ハ訴訟吟味ノ法式上ノ古法ヲ廢止シタル者ト解ス可シ今本案ノ如キハ訴訟手續ノ法式ニ非ニシテ裁判管轄ノ問題タルニ外ナラス

〔千四百七十二號〕 第貳 裁判上ノ所爲ヨリ生スル書入  
 裁判トハ爭事ノ上ニ裁判所ヨリ下シタル決定ナリ裁判上ノ所爲トハ裁判所ニテ爲シタル事實ノ認定ナリ〔千四百六十一號參觀〕

法律ハ裁判ニ於ケル如ク裁判上ノ所爲ニモ亦書入ヲ加附ス然ラハ總テ裁判上ノ所爲ハ書入ヲ生スルヤノ問題アリ若シ第千七百十七條ノミニ據テ論スル時ハ總テ裁判上ノ所爲ハ書入ヲ生スト言ハサルヲ得ス蓋シ此條ハ廣ク裁判上ノ所爲ヲ指セハナリ例之ハ一ノ不動産ヲ以テ糶賣ニ附シ糶賣書ヲ作りタル裁判所ニ於テ賣却セリ〔下ノ附言ヲ見ル可シ〕買主ノ現在及ヒ未來ノ不動産ハ總テ價金辨濟ノ抵當トシテ書入ニナルナリ又第千二百二十三條ノミニ據テ論スル時ハ書入ヲ生スルハ總テノ裁判上ノ所爲ニ非スト言ハサルヲ得ス蓋シ此箇條ハ裁判上ノ一所爲即チ私印證書ニ置キタル手署ヲ裁判所ニテ自認スルヲノミニテ指示スレハナリ普通ノ説ニテハ第千二百二十三條ニ據ル可シトス故ニ或曰ク法律ノ眞意ハ此條ニ在テ第千七百十七條ノ如キハ上ニ言ヘル事件ヲ列記シテ之ヲ示スニ過キス



〔附言〕 此裁判上ノ所爲ヲ實際上又ハ法典(第二千八百八十九條)ニテハ糶賣裁判ト名ツク然レモ其名ハ精確ナラス何トナレハ此場合ニ在テ裁判所ハ爭事ニ判決ヲ下スニ非ス唯裁判所ニ申出タル事實ヲ調査認定スルニ過キサレハナリ

第二千二百二十三條ニ記セル場合ハ即チ下ノ如キ者ナリ汝ハ余ニ私印證書ヲ入レ幾何ノ金ヲ借りタリ余ヨリ之ヲ申立テ汝ヲ裁判所ニ呼出シ汝ノ手署ヲ自認セシム此時汝之ヲ抗辯シ遂ニ裁判所ニテ其手署ハ汝ノ手署ナリト定メラレシ時ハ是レ一ノ裁判ニシテ書入ヲ生ス若シ又汝裁判所ニテ汝ノ手署ナリト自認シ余ニ其自認書ヲ與ヘタル時ハ是レ裁判上ノ所爲ニシテ均シク書入ヲ生スル者ナリ

〔千四百七十三號〕 此第二ノ場合ニ於テ書入ノ設立スル所以ヲ了解スルハ甚ダ難シ余汝ニ金ヲ借り汝ニ如何ナル別段ノ抵當ヲモ約束セ

ス此時多分余ハ書入ヲ以テ借金ヲ爲スコト承諾セサル可シ蓋シ當時余ニ資力アリテ人ノ憑信ヲ保存スルヲ欲スレハナリ其後ニ至リ汝余ヲ裁判所ニ呼出シ余カ證書ニ書キシ手署ヲ自認セシム余之ニ對テ言フ是レ全ク余ノ手署ナリ故ニ余ハ之ヲ爭ハスト余カ裁判所ニテ爲シタル此白狀ハ忽チ余ノ現在、未來ノ總テノ財産ニ書入ヲ負ハシム斯ノ如キハ果シテ正理ナル乎昨日ハ余ニ別段ノ書入ヲ拒マレタル汝ニシテ今日ハ余ノ如何ニ拘ハラス余カ決シテ與ヘサル書入即チ不特定ノ書入ヲ獲得ス若シ余公證人ノ面前ニテ手署ヲ自認シタル時ハ此自認ハ書入ヲ生セサル可シ何ノ理アリテ裁判所ニテ爲シタル自認ノミ獨リ書入ヲ生スルヤ

此不權衡ノ生シタル所以ハ法律ノ沿革ニ據テ説明セサル可カラズ抑、古法ニ於テハ總テ執行力ヲ有スル書附即チ裁判、裁判上ノ所爲、公



證人作爲ノ書附ニハ法律ニテ不特定ノ書附ヲ付與セリ今立法官ハ公證人作爲ノ書附ニ關シテ此原則ヲ廢シ獨リ裁判ニ於テ之ヲ存セリ是レ道理ナキニ非ス然レモ深ク思慮セサルノ弊遂ニ單一ノ裁判上ノ所爲ニ此原則ヲ存スルニ至ル

〔千四百七十四號〕千八百七年九月三日ノ法律ハ第二千二百二十三條ノ理論ニテ不正ト做シタル者ヲ巧ミ變更シタリ抑債主ハ期限終盡ノ前又ハ未必條件到來前ニテモ充分負債主ヲ裁判所ニ呼出シ其手署ヲ自認セシムルヲ得然レモ<sup>ウエリフヒカシヨ</sup>驗實又ハ裁判上ノ自認ヨリ生シタル書入ニ至テハ期限既ニ過キ又ハ未必條件生シタル時ニ非サレハ之ヲ登記スルヲ得サルナリ

然レモ私印證書ヲ有スル債主ハ公成證書ニテ證シタル權利ヲ有スル債主ヨリモ上等ノ位置ニ在ルヲ注目ス可シ私印證書ヲ有スル

債主ハ期限到着ノ前ヨリ其負債主ヲ手署自認ノ爲メニ裁判所ニ呼出シ書入ヲ獲得ス而シテ其書入ハ期限終盡ノ日ヨリ前ニハ登記サレルヲ得スト雖モ後ニ至リ之ヲ爲スヲ得又公成證書ヲ有スル債主ハ負債主ヲ呼出シ證書ヲ自認セシムルヲ得シテ其負債主ヲ辨濟ノ爲メニ呼出スニハ期限ノ至ルヲ待クサルヲ得ス然ルニ出訴ノ日ト書入ヲ生ス可キ裁判ノ日トノ間ニハ必ス若干ノ時間ナキ能ハス故ニ其書入ノ登記モ又必ス私印證書ヲ有スル債主ノ登記ニ先位ヲ占メラル可シ

○第三款 契約上ノ書入

第二千百十七條第三項 〔千四百七十五號〕契約上ノ書入ハ契約ト書ハハ外形ハ法式トヨリ生スル書入ナリ〔第二千百十七條〕

故ニ此書入ノ設立ニ注目ス可キ者ニアリ契約及ヒ書附ノ法式是ナ

契約上ノ書入



リ書附ノ法式トハ契約ノミニテ有セサルカチ其契約ニ付與スル禮

格ヲ言フナリ

然ラハ余輩ハ第一ニ書入契約第二ニ書入チ生セシムル爲メ此契約

ニ附ス可キ法式ヲ研究セントス

○第一節 書入契約及ヒ書入チ承諾スルニ必要ナル能力

第四百七十六號

書入チ設ケ之ヲシテ効アラシムルニハ先ツ自カラ

義務ヲ負フノ能力アルヲ要ス故ニ幼者、被禁者、婚姻シタル婦ハ書入チ承諾スルノ能力ナキ者ナリ(第千二百二十四條)然レヒ書入チ爲スノ能力チ有スルニハ自カラ義務ヲ負フノ能力アルヲ以テ足レリトセ

ス其書入ト爲ス不動産ヲ讓與スルノ能力アルヲ要ス故ニ廣ク不動

產ヲ讓與スルノ能力チ要スルナリ蓋シ書入チ爲ストハ即チ所有權

ノ一部ヲ讓與スルコトナレハナリ

此道理ハ書入チ以テ所有權ノ分支ナリトスル論者ノ説ク所ニ非サルナリ此論者ノ説ニ據レハ法律ニテ讓與スルノ能力チ望ム所以ハ抑書入ノ設立ハ常ニ其之ヲ設立シタル者ノ憑信ニ最モ大ナル損害

チ來シ讓與ト同一ノ不幸ナル効チ生スレハナリ

理由ノ如何チ問ハス原則ニ至テハ明白ナリ書入チ爲スノ能力チ測ルニハ自カラ義務ヲ負フノ能力ニ因ラス唯讓與スルノ能力ニ是レ

因ル故ニ既脱後見ノ幼者婚姻シタル婦人(財產ヲ分離シタル時ト雖

モ)ハ自己ノ不動産ヲ書入ト爲スチ得ス何トナレハ此等ノ人假令ヒ

或ル場合ニ於テ自カラ義務ヲ負フノ能力チ有スト雖モ其不動産ニ關スル財產ヲ讓與スルノ能力チ有スルコト無ケレハナリ

(千四百七十七號)然レヒ讓與シ得ル者ノミ之ヲ書入ト爲スコト得ト

云フ原則ニ二ノ變例アリ

書入契約及書入ヲ承諾スルニ必要ナル能力



第一 夫ハ或ル金高丈ケニ限リ婦ニ因テ動産ト看做シタル一ノ不動産又ハ數箇ノ不動産ヲ讓與スルヲ得ス然レモ法律ハ夫ニ其動産ト看做シタル丈ケノ部分ヲ書入ニスルヲ許ス(第千五百七條〇二百七十八號及二百七十九號參觀)

第二 商人トナリタル既脱後見ノ幼者ハ自己ノ不動産ヲ讓與スルノ能力ヲ有セスト雖モ商法第六條ヲ以テ之ヲ書入トスルヲ許ス

第千二百二十五條

(千四百七十八號) 若シ書入ヲ設ケタル者其不動産ノ上ニ後ニ解除ス可キ所有權又ハ停止ノ未必條件アル所有權ノミヲ有スル時ハ其書入モ亦所有權ノ如ク解除又ハ未必條件ヲ受ル者ナリ凡ソ人ハ其己レニ屬スル所ノ權利ヨリ一層堅固ナル權利ヲ他ニ移スヲ得ス蓋シ何人ト雖モ自カラ有スル權利ヨリ多クノ權利ヲ他ニ移スヲ得サレハナリ例之ハ買戻ノ契約ヲ爲シタル賣主ノ承諾シタル書入ハ後

日其賣主ノ執行スル所ノ條件ニ從フ又買戻ノ契約ヲ爲シタル買主ノ承諾シタル書入ハ若シ約ノ如ク買戻ヲ行フ時ハ買主ノ所有權ト同時ニ既往ニ遡テ消滅スル者ナリ若シ之ニ反シ賣主買戻ヲ行ハスシテ期限ヲ超過シタルノ故ヲ以テ所有權確定シタル時ハ其書入モ亦其所有權ト同時ニ定成スル者ナリ(六百三十一號參觀)〇又第八百六十五條、第九百二十九條、第九百五十二條、第九百五十四條、第九百六十三條ニ於テ此原則ノ適施ヲ見ル可シ又ハ之ニ反シテ第九百五十二條及ヒ第千五十四條ニ於テ原則ノ變例ヲ見ル可シ又刑ハ名義ニテ書入人ノ權利ヲ失フヲ有ルモ書入ハ存在ス蓋シ刑ハ一人ニ止マル者ナレハナリ恩義忘却ヲ原因トシテ爲シタル取戻ハ受贈者ノ承諾シタル書入ヲ害セス(第九百五十八條)

第千二百二十四條、第千二百二十六條

(千四百七十九號) 先ニ我輩ハ幼者又ハ婚姻シタル婦ハ其財産ヲ書入

書入契約及書入ヲ承諾スルニ必要ナル能力



トスルノ能力ナシト開陳セリ其後見人ハ獨リ之ヲ爲スヲ得然レモ  
不動産讓與ノ爲メニ第四百五十七條及ヒ第四百五十八條ニ記スル  
條件ト法式トヲ履行セサル可カラズ○又既脱後見ノ幼者モ同シク  
其不動産ヲ質入ト爲スヲ得但シ其管財人助ヲ得テ其不動産讓與  
ノ事ニ附キ設ケタル條件ト法式ニ循フヲ要ス故ニ書入ヲシテ効有  
ラシムルニハ常ニ其抵當トナル不動産ノ讓與ニ缺ク可カラサル總  
テノ者ヲ要スルナリ

〔千四百八十號〕 既脱後見ノ幼者ノ結約スルノ能力アリテ結約シタル  
義務ノ抵當トシテ其不動産ノ書入ハ効ヲ有ス可キ乎  
一説ニハ之ニ効アリトス法律ニ於テ既ニ此幼者ニ許スニ單一ノ支  
配ノ區内ニ在ル所爲ニ附テハ皆ナ自カラ義務ヲ負フノ權ヲ以テス  
是レ即チ其債主ニ抵當ヲ與ヘルノ權ヲモ許シタルナリ幼者自カラ

義務ヲ負フタル以上ハ若シ辨濟ヲ爲サ、ル時ハ其財產ハ債主ノ願  
ニ依リ差押ヲ爲シ之ヲ賣却ス是レ義務ヲ負フハ即チ未必ニ其財產  
ヲ讓與スルナリト謂フ可シ果シテ然ラハ讓與ノ萌芽ハ書入ヨリモ  
却テ義務ノ中ニ存スル者ナリ此ニ由テ之ヲ觀レハ自カラ義務ヲ負  
フテ未必ニ其財產ヲ讓與スルヲ得ル者ニ何ソ其財產ヲ書入ト爲ス  
ヲ拒ムノ理アラザヤ

一説ニハ効ナシトス此説普ク用フル所タリ第二千二百二十四條ニテ  
ハ書入ノ能力ヲ計ルニ義務ヲ負フノ能力ニ依ラスシテ讓與ノ能力  
ニ依ル今既脱後見ノ幼者ハ其財產支配ノ要用ノ爲メニ自カラ義務  
ヲ負フヲ得ト雖モ如何ナル箇條ニテモ其不動産ヲ讓與スルノ權  
ヲ許シタル者ナシ殊ニ第四百八十四條ハ明カニ之ヲ禁セリ凡ソ既  
脱後見ノ幼者ハ支配ノ所爲ニ非サレハ之ヲ行フノ權ナシ然ルニ書

書人契約及書人ヲ承諾スルニ必要ナル能力



入ノ設立ハ第千九百八十八條ニ據テ見ルニ支配ノ所爲ト相反スル者ナリ

若シ自カラ義務ヲ負フノ能力アル者ハ總テ讓與書入ノ能力アル者トセハ其極遂ニ犯罪又ハ准犯罪ニテ義務ヲ負フタル幼者ハ其負債ノ抵當トシテ書入ヲ爲スヲ得又後見人其幼者ノ財産上ニ設ケタル書入ヲ以テ支配人ノ身分ニテ適正ニ結約シタル負債ノ抵當トスルヲ得ルト言フニ至ラサルヲ得ス然レモ是レ固ヨリ用フ可カラサルノ説タリシ若シ又總テ既脱後見ノ幼者書入ヲ爲スヲ得ル者トセハ何ソ別段ニ商人トナリタル既脱後見ノ幼者ニ此權理ヲ許スヲ要センヤ(商法第六條)

(千四百八十一號) 所有者ニ非サル者ノ承諾シタル書入ハ無効ノ者ナリ何人ト雖モ己レハ有セサル者ヲ人ニ與フルヲ得サレハナリ然レ

モ其書入人若シ後日ニ至リ先キニ書入トシタル不動産ノ所有者ト爲リシ時ハ其書入ハ無効ナル乎將タ新ニ書入契約ヲ爲ス可キ乎又ハ其書入ハ過去ニ向テハ勿論無効ナリト雖モ本來ニハ有効ノ者ナル乎

一説ニ此書入ハ無効ヲ脱セストス其説コ曰ク凡ソ基本ニ於テ無効ナル所爲ハ決シテ力ヲ有スルヲ無シ且ツ書入ヲ負ハス自由ナル財産ニハ法律ニテ書入ヲ生ス可キ者ト認メサル所爲ニテ忽然書入ヲ負ハシムルヲ得サルナリト

一説ニハ無効ヲ脱シテ有効ニナル者トス其説コ曰ク此場合ニ於テ書入人ニテモ又外人ニテモ如何ナル人ニテモ書入ノ無効ヲ願フ身分ヲ有スル者ナシ何トナレハ書入人ハ自己ノ爲メニ非ス自己ニ對シテ無効ノヲ喚起スルヲ得ス又書入人所有者トナリシ後チ結約

書入契約及書入ヲ承諾スルニ必要ナル能力



シタル外人モ亦之ヲ喚起スルヲ得ス何トナレハ書入ニテ其成立ヲ  
外人ニ知ラシメタレハナリ

〔千四百八十二號〕幼者又ハ被禁者ノ承諾シタル書入ハ其効無シト雖

モ之ヲ改認ヲ爲スコトヲ得（第千三百十一條）

是故ニ下ノ疑問アリ

丁年ニ達シタル幼者書入ヲ承諾ス然ルニ此不動産ハ先キニ幼年ノ  
時書入ト爲シ之ヲ登記シタルニ因リ今又之ヲ改認ス此改認ハ第二  
ノ書入ヲ有スル債主ニ向テ抗拒スルノ力アル乎

之ヲ非ナリトスルノ説ニテハ第千三百三十八條ヲ喚起ス此條ニ據  
レハ取消ス可キ所爲ノ改認ハ外人ノ權利ヲ害スルヲ得ス

第二ノ説ニテハ此問題ヲ決スルニ一ノ區別ヲ要ス

第一 若シ不動産ノ價第一人權ノ高ヨリモ甚ダ高等ナル時ハ丁年

ニ達シテ後ヲ承諾シタル書入ハ其幼年ニテ爲シタル書入ト好ク調  
和ス此情實ヲ明カニスレハ書入人ハ第二ノ債主ノ爲メニ第一債主  
ノ權利ヲ削ルノ意ナク唯本心ヨリシテ第一債主ノ權利ヲ認定シ善  
行ヲ爲シタルノ證據アリ又第二ノ債主ハ此時ニ至リ此認定ハ己レ  
ニ損害ヲ來ス者ナリト言フヲ得ス何トナレハ契約ノ時既ニ登記ニ  
テ第一書入ノ成立シ有ルコトヲ承知シタル者ナレハ其時ニ於テ向後  
書入ヲ認定スル者ト豫見セサル可カラサレハナリ

第二 不動産ノ價第一人權ノ高ヨリモ下等ナルカ又ハ平等ナルカ  
又ハ僅少ノ高等ヲ占メル時ハ丁年ニ至リ同不動産ノ上ニ別ニ書入  
ヲ設ケタル負債主ノ意ハ第二債主ノ爲メニ第一ノ債主ノ權利ヲ削  
グニ在ルヤ必然ナリ何トナレハ若シ此意ナシトセハ第二ノ書入ハ  
無實ノ抵當タルノミ故ニ幼年ノ時承諾シタル書入ノ認定ハ第二債

書入契約及書入ヲ承諾スルニ必要ナル能力



主ニ向テ抗拒ス可カラス

(千四百八十三號) 幼者及ヒ被禁者ノ財産ハ其後見人ニ對シテ勝ヲ得

タル裁判ニ據テ裁判上ノ書入ヲ受ルヲ得又幼者ノ財産ハ法律上

ノ書入ヲ受ク蓋シ幼者コシテ婚姻スルヲ得レハナリ

失踪者ノ財産ニ附テハ一ノ區別ヲ爲サ、ル可カラス確定ノ占有ヲ

得タル者此財産ヲ讓與スルノ能力ヲ有スルカ故ニ法式ヲ要セスシ

テ之ヲ書入トナシ且ツ其効アラシム(第三百三十二條)假占有ヲ得タル

者其財産ヲ讓與スルノ能力ナキヲ以テ(第二百二十八條)法式ナク之

ヲ書入トスルノ能力ナシ

然レモ第二百二十六條ハ余輩ニ教テ言フ失踪者ノ財産ハ法律ニ

定メタル原因ト法式トニ據リ又ハ裁判ニ據テ書入ト爲スヲ得ト此

箇條ハ甚ク曖昧ナリ法律ハ後見人ヲシテ幼者又ハ被禁者ノ不動産

ヲ書入トスルヲ許可スルノ原因及ヒ此許可ヲ得ル爲メニ履行ス可

キ法式(第四百五十七條第五百九條)トキ定メタリト雖モ失踪人ノ財

産ヲ書入トスル時ノ如何ナル原因如何ナル法式ヲモ定ムルヲ無シ

故ニ論結シテ第二百二十六條ノ原因ト法式ハ失踪人ニ適用セサ

ル者トス然レモ尙ホ又ハ裁判ニ據テノ語ヲ説明セサル可カラス

法律ノ言ハント欲スル所ハ失踪人ノ財産ノ幼者又ハ被禁者ノ財産

ノ如ク裁判上ノ書入ヲ設クルヲ得ルニ在ル乎恐ラクハ然ラス何ト

ナレハ第二百二十六條契約上ノ書入ト云フ表題中ニ在レハナリ

然ラハ法律ノ真意ハ何ノ點ニ在ル乎或曰ク法律ハ裁判ニテ命シタ

ル契約上ノ書入ヲ謂フナリト果シテ然ラハ假占有ヲ得タル者ハ裁

判ニ據テ失踪人ノ利益ニ借金ヲ爲シ且ツ抵當ナシニ貸與ヲ欲セサ

ル債主ニ對シ失踪人ノ財産ヲ書入トスルヲ許スナリ(第一卷四百

書入契約及書入ヲ承諾スルニ必要ナル能力



二十二號參觀

故ニ原因ト謂ヒ法式ト謂フハ幼者又ハ被禁者ノミニ附テ之ヲ謂フナリ又ハ裁判ニ據テノ語ハ失跡人ニノミ附テ之ヲ謂フナリ何トナレハ後見人ハ單一ノ裁判ニテ幼者又ハ被禁者ノ財産ヲ書入トスルノ許可ヲ得ス前以テ親族會議ノ許可ヲ經ルヲ要スレハナリ

○第二節 書入契約ノ禮格

第一千四百八十四號 第壹 書入設立ノ禮格

書入契約ノ證書ハ公成證書ニシテ公證人二名又ハ公證人一名ト證據人二人ノ面前ニ於テ之ヲ作ル可シ(下ノ附言ヲ見ル可シ)證書ノ唯、公成ナルヲ以テ足レリトセス

此證書ノ公證人ノ手ニテ成ルヲ要ス(書式自三百七十二號至三百七十四號參觀)例之ハ余爾ニ勸解呼出チ爲ス而シテ和解成リ我輩雙方

コンシヤシヨ

ヨリ權利ヲ拋棄シタルノ擔保トシテ書入ヲ契約シタリ是ニ於テ治安裁判官ハ勸解及ヒ其附帶セル書入ノ調書ヲ作レリ此調書ハ管轄官吏ノ手ニ成ル者ナレハ固ヨリ公成ノ者ナリ然レモ其書入ハ無効ナリ何トナレハ假令ヒ證書ハ公成ナリト雖モ公證人ニ依テ爲シタル者ニ非サレハナリ

(附言) 千八百四十三年七月二十一日ノ法律ハ書入設立契約ニ適

施ス可カラス(該法律第二條及第三條)第二ノ公證人又ハ二名ノ證

據人ハ證書ノ朗讀及ヒ手署ノ時ニ出席スルヲ必要ナリトセス○

此件ニ附テハ第九百三十一條ノ説明ヲ參觀ス可シ

實際ニテハ私印證書ヲ以テ書入ヲ約シ其後チ證書ヲ結約人雙方ヨ

リ公證人ニ預ケ其書入設立ヲ附託證書ニ改ムル時ハ此私印證書ノ

アクト、ジニ、テ、ゴ

書入契約ヲ許ス

書入契約ノ禮格



若シ人権ヲ公證人作爲ノ證書ヲ以テ證スル時ハ此證書中ニ書入設立ヲ記スルヲ得然レモ人権ヲ證シタル證書私印證書ニ係ル時ハ書入ハ別ノ證書ヲ以テ設立ス可シ

〔千四百八十五號〕 不動産ノ讓與ハ私印證書ヲ以テ證明スルヲ得然ラハ何故ニ法律ハ書入設立ニ公成證書ヲ要スル乎

不動産ノ讓與ニ附テハ政府ハ唯、稅ヲ徵收スルニ過キス之ニ反シ書入ニ附テハ其甚々夥多ナラサランヲ望ム何トナレハ書入ノ夥多ナルハ公衆ノ憑信ヲ破リ財産ノ融通ヲ害スルノ原トナレハナリ因テ法律ハ書入ヲ法律外ニ設定スルヲ莫カラシムル爲メニ其豫防ヲ爲サ、ル可カラス故ニ法律ハ公證人ヲシテ負債主ニ書入ヨリ發生スル結果ノ重大ナルヲ知ラシムル爲メニ其干涉ヲ望ムナリ

〔千四百八十六號〕 負債主ハ名代人ヲ以テ書入ヲ約スルヲ得然ラハ其

メンダテール

名代人ハ公證人ノ手ニ成リタル委任狀アロキニラシヨシヲ有スルヲ要スル乎

第一說 私印ノ委任狀ニテ充分ナリトス何トナレハ名代ハ總テ私印書證ニテ約スルヲ得ル者ナリ

第千九百八十五條 且ツ法律ハ一箇條ニテモ書入ノ事ニ附キ名代契約ノ公正ヲ要スル者ナシ唯、此契約ノ明約タルヲ望ムノミ〔第千九百八十八條〕

第二說 公證人作爲ノ委任狀ヲ要スル者トス凡ソ書入ハ公成證書ヲ以テ表明シタル意思ニ據リ生成シ得ル者ナリ今名代人ヲ以テ書入ヲ承諾シタル時ハ書入人ノ意思ハ其委任シタル名代ニ據テ表明スルナリ故ニ此名代契約ハ公正ナラサルヲ得ス書入ハ公證人ノ手ヲ經ルニ非サレハ有効ノ者ト爲サ、ルカ故ニ其事ヲ名代人ニテ行フニモ亦名代契約ヲ公證人ノ手ヲ經テ爲スニ非サレハ之ヲ行フヲ



得ル是レ公證人作爲ノ委任狀ヲ有セサル名代人ヲ以テ贈與ヲ領承  
スルヲ得サル所以ナリ(第九百三十三條及千八百四十三年六月二十  
一日ノ法律)

第一千二百二十  
八條

(千四百八十七號) 余輩ノ先ニ見タル如ク外國裁判官ノ爲シタル裁判

ハ三箇ノ場合ニ於テ佛蘭西ニテ書入ヲ生ス其三箇ノ場合トハ左ノ  
如シ

第一 佛蘭西ト裁判ヲ爲シタル外國ノ間ニ締盟シタル條約ヲ以テ  
裁判ニ書入ヲ生スルノ効ヲ付與シタル時

第二 佛蘭西ノ憲法ニ於テ此裁判ニ其効ヲ付與ス可シトシタル時

第三 此裁判ニ佛蘭西國ニ於テ執行ヲ附スル時

書入ヲ約シ外國ニ於テ作爲シタル證書ハ下二箇ノ場合ニテハ佛蘭  
西ニ於テ書入ノ力ヲ有ス

其一 佛蘭西ト書附ヲ作りタル外國ノ間ニ締盟シタル條約ヲ以テ

此効ヲ許シタル時

其二 佛蘭西ノ憲法ヲ以テ此効ヲ證書ニ附シタル時

然レモ此條約又ハ此憲法ナキ時ハ外國ノ公成證書ハ佛蘭西ニ於テ  
書入ノ力ヲ有セス且ツ裁判ニ於ケル如キ之ニ執行ノ力ヲ附スルコ  
ト莫シ

其故ハ如何ン如何ナル理由アリテ書入ノ原則ニテ許ス所ノ利益ヲ  
拒ム乎凡ソ外國ニ於テ其國ノ法式ヲ用ヒ廣告シタル婚姻ハ佛蘭西  
ニ於テ充分ニ効アリトス外國ニ於テ其國ノ式ニ從フタル不動産讓  
與モ亦之ニ同シ果シテ然ラハ何ノ點ヨリシテ法律ハ外國官吏ノ前  
ニテ承諾シタル書入ヲ認可セサル乎若シ夫ノ外國裁判ニ於ケル如  
ク此所爲即チ書入ニ執行力ヲ許サ、ル時ハ假令ヒ書入ヲ有効ナラ



シムルモ社會ノ秩序ト國權ニ妨害ヲ來スノ恐レ有ルヲ無シ故ニ外國ニ於テ爲シタル書入ニ書入ノ力ヲ付與シ執行力ヲ許サ、ル可カラズ

然ラハ第二千二百二十八條ノ禁制ハ道義ニ適セス之ヲ説明スルニハ法律ノ沿革ニ據ラサル可カラス抑古法ニ於テハ裁判又ハ公證人ノ作爲セル證書ノ如キ執行力ヲ有スル書附ハ總テ法律ニテ書入ヲ附スル者タリシ是ニ由テ人常ニ書入ヲ以テ執行力ノ結果即チ第一ノ効ト看做スノ慣習アリ故ニ執行力ナキ證書ハ如何ナル書入ヲモ生スルヲ得スト言フ原則アリ外國ニテ作りタル證書ハ執行力ヲ有セス因テ又書附ヲ生スルノ勢力ナキ者トナシタルナリ此書入ノ原則ト其執行ノ原則トヲ混淆シテ立テタル理論遂ニ我法典編纂者ノ拙ニ採用スル所トナレリ

第二千二百二十九條 [千四百八十八號] 第貳 書入設定ノ證書ニ記ス可キ箇條

此箇條ハ書入ノ不動産ト其人權ノ高ニ關シテ差異アル者ナリ

〔第一〕 書入財産ニ關スル箇條○古法ニテハ現在又ハ未來ノ財産ヲ總括シテ之ヲ書入トスルヲ許セリ今日ニテハ法律上又ハ裁判上ノ書入ニ時トシテ不特定ノ者アリ然レモ夫ノ契約上ノ書入ニ至テハ法律ハ書入ノ特定ト名ツクル新規則ヲ設ケタリ

今日ト雖モ現在ノ全財産ヲ書入トスルヲ得而シテ古ニ於ケル如ク財産ヲ總括シテ之ヲ爲シ得サルハ疑ヲ容レス不動産ノ各自別々ニ書入ニナリタル者ニ非サレハ其書入ハ効ナシ  
然レモ書入ヲシテ特定ナラシムルニハ如何ニシテ可ナル乎曰ク此ニ二件ヲ要ス其二件トハ左ノ如シ

第一 書入財産ノ性質ノ指示スル事

書入契約ノ禮格



第二 其邑内ト言フ如キ此財産ノ位置ヲ指示シ及ヒ其精細ノ摸樣  
トシテ、エ、ア、ブ、ラス、サン  
ノ指示スル事

他又此事ニ附キ法律ハ小節目ニ入り云々スルヲ無シ故ニ裁判官ハ  
常ニ事實ニ據リ如何ナル財産ヲ書入ニシタリト定ムルヤ否ヤヲ審  
理セサル可カラス例之ハ余ハ某所ニ在ル余ノ貸家ヲ書入ト爲スト  
言フ時ハ假令ヒ其貸家ヲ組織スル總テノ財産ノ性質ヲ明示セスト  
雖モ充分ノ者ナリト判決サレタリ

然レモ、余ハ某邑内ニ余カ有スル總テノ財産ヲ書入トナスト言フ時  
ハ充分ノ者ト爲ス可カラス何トナレハ此言ハ一モ財産ノ性質ヲ明  
示スル所ナケレハナリ若シ指示スル所精確ナラサル時ハ邑内ニ在  
ル某財産ハ書入設立ノ時果シテ書入人ニ屬シタリシヤ否ヤヲ知ル  
ノ點ニ於テ一難事ノ原因タル可シ

然ラハ特定ハ書入設立ノ一要件タリ又登記ノ有効ニ缺ク可カラサ  
ル一要件ナリ(第二千四百四十八條第五項)然レモ此特定ヲ設定證書中  
ニ缺ク時ハ假令ヒ登記ニ此特定アリト雖モ書入ハ無効ニ屬ス蓋シ  
登記ハ有効ノ書入ノ爲メニ之ヲ爲シタル時ニ非サレハ其用ヲ爲シ  
得サル者ナレハナリ

〔千四百八十九號〕 特定ノ原則ヨリ未來ノ財産ヲ書入ニスルノ禁制ヲ  
生ス故ニ現今所有者トシテ有スル財産ニ非サレハ之ヲ書入トスル  
ヲ得ス○然レモ停止ノ未必條件ニテ所有者ト爲リテ保有スル所ノ  
財産ヲ書入トスルニ妨ケ有ルヲ無シ蓋シ條文ニ言ヘル「現今所有者」  
ノ語ハ「未來ノ財産」ト言ヘル語ニ對シテ用ヒタル者ナレハナリ

〔千四百九十號〕 三箇ノ原因アリテ書入ノ特定ノ原則ヲ生セシメタ

ルナリ

書入契約ノ禮格



第一 假ニ不特定ノ書入ヲ許シタリトセンニ負債主ハ多ク債主ノ  
 制御ヲ受ル者ナレハ大概債主ハ不特定ノ書入ヲ望ミ負債主之ヲ拒  
 ム能ハサラン此書入多ク行ハル、時ハ一ノ負債ヲ爲シタル借主ハ  
 他ニ向テ憑信ヲ失フ可シ故ニ特定ハ負債主ノ憑信ヲ保護シ隨テ公  
 衆ノ憑信ヲ維持スル者ナリ

第二 法律ハ一不動産ノ上ニ數箇ノ書入ノ重層ヲ防カント欲スル  
 ナリ何トナレハ多數ノ債主相突撞スルコト多ケレハ隨テ其順序ヲ定  
 ムル困難ニシテ且ツ費用多カル可ケレハナリ

第三 特定ハ書入ノ公示ヲ便ナラシムル者ニシテ即チ此公示ノ原  
 因中ノ一タリ何トナレハ此特定アルニ因テ貸主ハ借主ノ財産各自  
 ニ附キ其財産ノ自由ナルヤ又ハ書入ニナリシヤチ了知シ易クシテ  
 負債ノ抵當トスルノ用ヲ爲セハナリ

第二千三百三十條 第二千二百二十九條ヲ以テ未來ノ財産上ノ書入ヲ禁  
 シ更ニ第二千三百三十條ニ於テ然レモ負債主ハ自由ニシテ且ツ現在

ハ財産若シ人權ノ保證ニ不充分ナル時ハ此不充分ノ旨ヲ述ヘ負債  
 主ノ向後獲得ス可キ財産ノ各箇ヲ其獲得スル丈ケ宛チ書入ハ中ニ  
 入ルコトヲ承諾スルヲ得書式三百七十四號參觀ト言フテ先キノ禁制  
 ヲ變更セリ

此法文ヲ推テ論スレハ前文ノ場合ニ在テ未來ノ財産ノ書入ハ三要  
 件ヲ併具スルニ非サレハ其効ナカル可シ其三要件ハ左ノ如シ

- 第一 負債主其現在ノ財産ヲ書入トシタル事
- 第二 其財産負債ノ抵當タルニ足ラサル事
- 第三 其不充分ノ旨ヲ設定證書ニ申述スル事

〔千四百九十二號〕 不充分ノ申述或ハ實ニ反スルコト有ル可シ其場合ト



雖モ書入ノ設立ハ其効ヲ有スル乎或ル學士ノ説ニハ其効ヲ有スル者トス其説ニ曰ク法律ハ何人ト雖モ書入人ノ債主ニサヘモ不充分ノ申述ヲ檢査スルノ權利ヲ付與スルヲ無シト余輩謂ラク此書入ハ法律ニ許シタル場合ノ外ニ承諾シタル者ナレハ即チ法律ニ違反シタル者ナリ而シテ此書入取消ノ利益ヲ有スル者ハ何人タルチ問ハス法律違反ヲ主張シ其無効ヲ申立ルノ身分ヲ有スルナリ然レモ無論現在ノ財産ニ附テハ書入ハ其効ヲ有ス蓋シ有益ノ事即チ有効ノ所爲ハ無益ノ事即チ無効ノ所爲ノ爲メニ害セラル、ヲ無ケレハナリ

〔千四百九十三號〕 現在財産ヲ有セサル負債主其未來財産ヲ書入トスルチ得ルヤノ疑問チナス者アラン此件ニ二様ノ説アリ

第一説 現在財産ヲ有セサル負債主ハ其未來財産ヲ書入ト爲ス

チ得ス

第二千二百二十九條ヲ推論スレハ現今所有權ヲ有スル財産ニ非サレハ之ヲ書入トスルチ得ス而シテ第二千三百三十條ニ於テ此原則ニ一ノ變例ヲ置ケリ然レモ此變例タルヤ總テ他ノ變例ニ於ケル如ク其目的トシタル別段ノ場合ニ限ル可シ然ラハ如何ナル場合ニ於テ如何ナル條件ニテ未來財産ノ書入ヲ許スヤ此點ニ附テ法律ニ明文ヲ掲ケタリ其明言スル所ハ未來財産ハ現在財産ノ不充分ノ場合ニ限リ此現在財産ト共ニ之ヲ書入トスルチ得ト謂フ是ナリ此文ヲ背面ヨリ見ル時ハ未來財産ノ書入ハ増補即チ不充分ノ現在書入ヲ補フノ名義ニ非サレハ之ヲ許サスト云フニ外ナラサルヲ極メテ明瞭ナリ若シ然ラストセハ第二千三百三十條ハ徒ニ第二千二百二十九條ニ設ケタル禁制ヲ變更スルノミナラス全ク之ヲ廢止シタルナリ



千四百九十四號) 第二説 既ニ法律ハ不充分ナル不動産ヲ有スル債主ニ其未來財産ヲ書入トスルヲ許セシトセハ是レ法律ハ負債主ノ憑信ヲ廣深ナラシムルヲ欲シタルヲ疑テ容レサルナリ斯ク負債主ノ現在ノ權理充分ニ憑信ヲ表スルノ力ナキニ當リ未來ノ財産ヲ約束スルヲ得ルトセハ其道理ヲ擴張シテ現在ノ資力全ク無キノ場合ニ於テモ亦同様ナリトセサルヲ得ス夫ノ第二千二百二十九條及ヒ第二千三百三十條ハ一モ之ニ反對スル所ナシ細密ニ此二箇條ニ記スル所ノ場合ヲ別ケテ其意ヲ解ス可シ第一ノ場合ニ於テハ法律ハ負債主其負債ヲ保證スルニ充分ナル現在財産ヲ有セル時ノ例ヲ設ケ其未來財産ノ書入ヲ拒ミシ者ナリ又第二ノ場合ニ於テ法律ハ上ト例ヲ同フシ其一點ヲ變更シ現在財産不充分ナル時ハ未來財産ト雖モ書入トスルヲ得ト明言セルナリ然ラハ此法意ヲ釋スレハ自

己ノ憑信ヲ鞏固ナラシムルニ充分ナル財産ヲ有スル負債主ハ其未來ノ家産ヲ契約ニ加入スルヲ得スト言フニ過キサル可シ又之ヲ一言ニ約略スレハ負債主其債主ニ現在ノ充分ナル抵當ヲ供スルヲ得ナカラ未來ノ者オモ分配ニ定メ置クヲ許サスト謂フ可シ法律ノ意決シテ之ヨリ他ナラス是ニ於テ我輩ノ辯論定マリ若シ不充分ノ憑信ノミチ有スル負債主其未來財産ヲ以テ憑信ヲ完全スルヲ得ルトセハ之ヲ背面ヨリ推論シテ現今憑信ヲ有セサル者ハ未來ニ向フテ資財ヲ望ムヲ得サルナリ

若シ之ニ反對スルノ説チ是ナリトセハ何ソ其結果ノ奇ナルヤ僅カ一二百「フラン」又ハ之ヨリモ少量ノ價アル現在財産ヲ有スル負債主其未來ノ財産ヲ書入ト爲スヲ得ルモノノ現在財産ヲ有セサル者ハ之ヲ爲スヲ得ス然ラハ良心ニテ之ヲ考ヘンニ何ソ法律ハ「十「フラン」



ノ地面ノ所有者ト不動産ヲ有セサル者トノ間ニ斯ク大ナル理由ナ  
 キ差異ヲ置クヲ欲スルコト有ランヤ且ツ又若シ此ノ如クナリトセハ  
 法律ノ禁制ハ一ノ戲事タルニ過キス其禁制ノ名アリテ制裁ナキ者  
 ナリ而シテ此禁制ヲ破フルヨリ寛キ者アルコト無シ何トナレハ地面  
 ノ一小部分ヲ買ヒ隨テ未來財産ヲ書入トスルノ權利ヲモ得ル爲メ  
 ニ十「フラン」タモ有セサル負債主アランヤ必ス買フテ而シテ書入ト  
 爲サン故ニ法律ハ決シテ此點ニ附キ斯ノ如キ結果ヲ有セサルナリ」  
 [千四百九十四號ノ二] 未來財産ノ契約上ノ書入ト法律上又ハ裁判上  
 ノ書入ト異ナル所ハ法律上裁判上ノ兩書入ハ負債主ノ不動産ノ其  
 家産ニ加入スル丈ケハ皆ナ書入ノ中ニ入ルヤ否ヤノ一點ニ在リ此  
 差異ハ登記ノ事ニ關ス故ニ余輩ハ其説明ヲ第二千四百四十八條第五  
 項ニ附テ之ヲ爲ス可シ(千五百十二號參觀)

[千四百九十五號] (第二) 人<sup>〇</sup>權<sup>〇</sup>ニ<sup>〇</sup>關<sup>〇</sup>スル<sup>〇</sup>箇<sup>〇</sup>條<sup>〇</sup>。先ツ第二千三百三十二條

ヲ一讀センニ曰ク契約上ノ書入ハ之ヲ承諾セシメタル負債ノ金高  
 證書ニ於テ分明ニシ且ツ確定シタル時ニ非サレハ其効ナシ若シ義  
 務ヨリ生シタル人權其成立ニ附テ未必條件ニ關シ又ハ其價ニ附テ  
 確定セサル時ハ人權者ノ明カニ書面ニ記シテ見積リタル高ニ至ル  
 迄ニ非サレハ後ニ記シタル登記ヲ要ムルヲ得ス但シ金高ヲ減少ス  
 可キ場合ニテハ負債主之ヲ減少セシムルノ權ヲ有スト

此條文ハ正シカラズ文字上ヨリ論スレハ齟齬シタル結果ヲ生ス  
 人權ハ其成立ニ關シテ分明ナルモ其數量ニ附キ不分明即チ確定セ  
 サル者アリ例之ハ汝過失ニテ火ヲ失シ余カ家屋ヲ燒ケリ此時汝カ  
 余ニ對シ負フ所ノ負債ハ分明ナリ然レモ其負債ノ高ハ幾何ナル乎  
 評價シテ後チ始テ其高ヲ知ル者ナリ然ラハ負債ノ金員ハ是レ確定



セサル者ナリ

汝ノ父余ニ毎年一千「フラン」ノ畢生間年金ヲ遺囑トシテ與ヘタリ汝  
ハ余カ負債主ナリ然レモ幾何金ノ負債主ナル乎何人ト雖モ之ヲ知  
ル能ハス是レ全ク余カ生存スルノ日ト年トノ數ニ係ル者ナリ  
又上ノ例ヲ轉倒スレハ人權ハ其數量ニ附キ分明ナルモ其成立ニ附  
キ不分明ナル者アリ其高ノ未必條件ノ人權ノ如キ是ナリ  
第一、成立ニ附キ分明ナリト雖モ數量ニ附キ確定セサル人權第二、成  
立ニ附キ不分明ナリト雖モ數量ニ附キ確定シタル人權即チ未必條  
件ニ關スル人權此二者ノ保證トシテ書入チ承諾スルチ得ル乎  
前二問題ニ附キ第二千三百三十二條第一項ノ條文ニ據テ見レハ本條  
ハ明カニ否ナリト答ヘタル者ナリ然レモ是レ法律ノ眞意ニ非ス法  
律ノ意ハ負債成立セサル時ハ有効ノ書入ナシト言フニ在リ然レモ

法律ハ數量ニ附キ不分明ナル負債又ハ其成立ニ附キ未必條件ニ關  
スル負債ノ抵當トシテ財産ヲ書入トスルコトヲ禁スル甚タ嚴ナラス  
故ニ同條ノ第二項ニ於テ此種數ノ書入チ假想シ此書入ニ附キ爲シ  
タル登記ハ書入チ爲サシメタル金高チ明文スル丈ケニ非サレハ効  
アルコト無シト言フニ止マレリ

故ニ爰ニ一ノ誤謬ヲ矯正セサル可カラス

〔千四百九十六號〕 分明ナリト雖モ其數量ノ確定セサル人權ヲ擔保ス  
ル書入チ設ケタル時ハ債主ハ登記中ニ其書入債主タリト自カラ許  
ス丈ケノ金數ヲ記入ス可シ若シ然ラサレハ負債主ノ憑信ハ損害ヲ  
被ムルニ至ル○然レモ確定シタル金高ノ未必條件ニ關スル人權ノ  
抵當タル書入ノ登記ニ如何ナル評價ヲ爲ス可キ乎

此評價ハ常ニ確定ナラス例之ハ一千「フラン」ノ未必條件ニ關スル人



權アリ之ヲ八百フランニ評價シタランニ此金高ハ若シ條件生セサル時ハ甚タ多ク若シ條件生シタル時ハ甚タ少ナシ負債ノ金數知レタル以上ハ一ノ評價ヲ爲スニ及ハス唯負債主ノ利益ノ爲メニ負債ノ未必條件ニ關スルコトヲ指定ス可キナリ

〔千四百九十七號〕要畧 第二千三百三十二條ノ意ヲ略スル左ノ如シ曰

ク未必條件ニ關スル人權ノ保證トシテ財産ヲ書入トスルヲ得然レモ債主ハ登記ニ人權ノ儘カナラサル未來ノ某ノ事情ニ關スル旨ヲ指示ス可シ

又數量確定セサル人權ノ爲メニ書入ヲ承諾スルヲ得然レモ債主ノ

登記ニ其人權ノ概算ノ金高ヲ指示スルハ必要缺ク可カラサルコトナ

リ若シ書入ヲ爲サシメタル金高ヲ不當ニ超過セシメタル時ハ負債

主ハ第二千六百六十三條及ヒ第二千九百九十四條ニ循ヒ之ヲ減少セシ

ムルヲ得

第二千三百三十一條

〔千四百九十八號〕書入ノ不動産ノ亡失又ハ破壊シタル時ニ生スル事

件○若シ不動産亡失又ハ破壊シテ負債ノ保證タルニ不足スル時ハ

債主即時ニ負債ノ返濟ヲ訴ヘ又ハ書入ノ増補ヲ願フヲ得第二千百

三十一條

第二千三百三十一條ノ條文ハ廣ク適施ス可キ者ノ如シト雖モ普ク

世人ノ決スル所ニテハ此ニ一ノ區別ヲ爲スヲ要ス

第一 亡失又ハ破壊負債主ノ過失ヨリ生シタル時ハ書入ノ増補ヲ

要ムルト即時ニ返濟ヲ願フトハ債主ノ撰ニ任ス

第二 亡失又ハ破壊不意ノ場合ニ生シタル時ハ書入ノ増補ヲ供ス

ルト即時ニ辨濟スルトノ間之ヲ撰ムノ權ハ負債主ニ在リ若シ負債

主ヨリ書入ノ増補ヲ供セサレハ債主ハ即時ニ辨濟ノ願ヲ爲スヲ得

書入契約ノ禮格



然ル時ハ辨濟命令ノ裁判アリテ其裁判ヨリ負債主ノ財産全部ノ上ニ不特定ノ書入ヲ生ス

然レモ負債主書入ト爲ス可キ現在ノ不動産ヲ有セサルカ故ニ止ムヲ得ス書入ノ増補ヲ爲サ、ル時ハ期限猶豫ノ利益ヲ奪ヒ即時ニ辨濟ノ申渡ヲ爲ス可キ乎然リ此ニ法律ノ明文アリ抑、債主ノ期限ヲ猶豫スルハ書入ノ保證アルヲ以テノ故ナリ然ルニ今假令ヒ負債主ノ過失ニ因ラサルモ此保證滅盡シタルニ當テハ他ノ保證ヲ備フルカ又ハ即時ニ辨濟スルヲ以テ正理トス(千百三十四號ニ於テ同一ノ箇條ヲ見ル可シ)

〔千四百九十九號〕余輩カ説キ來リタル總テノ事件ノ適施スル所ナキ者アルヲ知ル可シ

第一 自然ノ亡失又ハ破壊ノ場合及ヒ債主始メヨリ亡失破壊アル

可シト豫知シタル場合

故ニ菓實又ハ樹木ノ定規ニ從フタル收穫ヨリ生シタル不動産ノ減少ハ債主ヲシテ要求スル所アルヲ許サス然レモ伐木ノ非常ニシテ且ツ慣習ニ反キタル者ハ此例ニ在ラス

入額所得者其結約シタル負債ノ保證トシテ入額所得ヲ書入トシタル時入額所得者ノ死亡ニ因リ入額所得ノ終盡ヨリ生シタル書入ノ亡失ハ此所得者ノ相續人ヨリ期限猶豫ノ利益ヲ奪ヒ去ラス

第二 書入ノ法律上又ハ裁判上ニ係ル場合蓋シ第二千百三十一條ノ條文ハ時トシテハ甚ク嚴コシテ動カス可カラス且ツ契約上ノ書入ノ表題中ニ在レハナリ

〔千五百號〕負債主書入ノ不動産ヲ他ニ賣却シタル時ハ之カ爲メニ即時ニ強テ辨濟セシメ又ハ書入ノ増補ヲ備ヘシムルヲ得ル乎否ナリ



蓋シ第二千百三十一條ニ言ヘルハ不動産ノ亡失又ハ破壊シタル場合ノミナリ今本題ノ如キ場合ニ類似シタル者ナクハナリ其事實ニ因リ不動産賣却ノ後チ其先キニ比較スレハ債主ノ位置少シク不利ナリトス何トナレハ書入ノ時刻ハ負債主所有者タル時ハ期限終盡ノ日以後ニ非サレハ其進行ヲ始メス而シテ通例三十年後ニ非サレハ完全セス(第二千百八十條第四項)ト雖モ獲得外人ノ爲メニハ負債ノ期限未タ終盡セサル前ト雖モ進行ヲ始メ十年若クハ二十年ニテ完全スルヲ得レハナリ然レモ債主ハ書入アルニ拘ハラズ負債主ニ不動産ヲ讓與スルノ權利アルヲ知ルカ故ニ前以テ其讓與ヲ承諾シタルノ不都合アリ他又第二千百六十七條ハ獲得外人ニ通常負債主カ受ル如ク期限ト時間トチ與ヘテ總テノ疑件ヲ決定シタリ

〔千五百一號〕 亡失シタル書入ノ不動産保險シタル者ニ係ル時ハ其保  
フツシユレ

險人ヨリ拂フタル金高ハ書入ノ順序ニ因リ不動産上ニ登記シタル債主ニ分配セス此金高ハ不動産獲得ノ價ニ非ス始メ所有者ヨリ保險人ニ拂フタル保險料ニ當ル者ナリ故ニ此金高ハ負債ノ高ニ平均シ平等ニ總テノ債主ニ分配スル者ナリ

〔千五百二號〕 然レモ公用不動産買上ニ因リ負債主ニ對シ政府ノ負擔スル價金ハ上文ノ者ト同シカラス此場合ニ於テハ政府ノ負擔スル所ノ金高ハ則チ不動産ノ價金ナリ故ニ書入不動産ノ買主ノ負擔セル價金ト同様ノ仕方ニテ登記シタル書入債主ニ之ヲ分配セサル可カラズ此書入債主ハ通常ノ獲得者ニ對シテ爲ス如ク政府ニ對シテ再羅賣ヲ爲サシムル權ナキトハ疑ヲ容レズ蓋シ何人ト雖モ公用不動産買上ヲ妨碍スルヲ得サレハナリ然レモ外人ニ(負債主ヨリ指テ謂フ)屬スル書入ノ權又ハ解除ノ權ハ價金ニ變更ス可シ(千八百四十



一年五月三日ノ法律第十七條及第十八條參觀

第二千三百三十  
三條

〔千五百三號〕書入ノ不動産ヲ改良シタル時ニ生スル事件

第一 天然又ハ不意ノ改良例之ハ漸積地、道路築造、鐵道又ハ負擔シ

アリユイオン

タル土地ノ義務終盡ヨリ生スル改良○此改良ハ書入債主ノ利益ト

ナル者ナリ蓋シ不動産ヲ書入トスルトハ其不動産ハ總テ品位ヲ以

テ書入トナリ隨テ其未然ノ改良ヲモ併テ書入トナルノ謂ヒナリ然

ルチ法律ニテ瞭然之ヲ明文シタル所以ハ書入ハ特定ナル可シト言

フ原則アリテ其原則ニ據レハ契約上ノ書入ハ未來ノ財産ニ之ヲ設

クルチ得ス故ニ人或ハ誤テ未來ノ改良モ亦書入ノ中ニ入ラスト爲

サンコチ恐レテナリ

第二 負債主ノ所爲ヨリ生シタル改良例之ハ築造(下ノ附言ヲ見ル

可シ)又ハ植附ヨリ生スル改良○此改良ハ書入債主ノ利益トナルナ

プランタシオン

リ然レモ之ヲ得ルニハ改良ヨリ生シタル増價丈ケ所持外人ノ費用  
トシテ償ハサル可カラス

〔附言〕書入不動産上ニ爲シタル築造ハ改良ノ名稱中ニ包含スル  
者ナリ

〔千五百四號〕河流又ハ水源ノ涸乾シタル時其涸乾ノ川床ハ河邊地ノ

所有者ニ屬ス(此說假令ヒ世上一般ニ用ヒラレサルモ余カ說斯ノ如

シ)此場合ニ於テ河邊地所ノ書入ハ涸乾ノ川床ニ及ホス是レ新ニ地

所ヲ獲得シタルニ非ス即チ一地所ニシテ唯川ニ蔽ハレタル一部分

ノ天然ノ形ニ歸シタルナリ

河邊地所ニ加附シタル島洲又ハ水流ノ爲メニ陸地ヨリ離レ去リ其

本ノ河邊地所ニ加附スル地面ノ部分ニ附テモ亦同上ノ如ク論決ス

此場合ニ於テハ加附ノ權ヲ以テ地面ヲ獲得スル事且ツ法律ノ意ニ

アググセシオン  
書入契約ノ禮格



テハ改良ノ文言中ニ第五百五十二條ヨリ第五百六十四條迄ニ記セ  
ル總テノ附屬ノ獲得ヲ包含セル者トス

〔千五百五號〕 河流又ハ川流其舊川床ヲ棄テ新川床ヲ流行スル時ハ其  
棄却ノ川床ハ賠償ノ名義ニテ流失地所ノ所有者ニ付與ス(第五百六  
十三條)因テ流失地所ノ上ニ設ケタル書入ハ棄却ノ川床ノ上ニ及ホ  
スヤノ疑問アリ

棄却ノ川床ニ書入ヲ及ホス可カラサルノ説ハ第五百六十三條ニテ  
棄却ノ川床ヲ流失地所ノ所有者ニ付與スト雖モ流失ノ損害ヲ  
被ムリタル他ノ人ニ之ヲ付與セサルニ據ル○棄却ノ川床ニ及ホス  
可シトスル者ハ似類援引シテ其説ヲ爲ス曰ク法律ノ棄却ノ地所ヲ  
流失ノ地所ノ所有者ニ付與スルハ全ク賠償ノ名義ニテ之ヲ付與ス  
ルナリ果シテ然ラハ書入債主何ソ斯ノ如ク賠償ヲ受ケ取ラサルノ

ノ理アラシヤト

〔千五百六號〕 余四「エクタール」(尺度ノ名)ノ繞圍シタル耕地ヲ以テ之ヲ  
汝ニ書入トナシ其後又余ハ半「エクタール」ヲ買ヒ之ヲ先キノ書入  
トシタル耕地ニ加ヘ同繞圍中ニ入ル然ルニ此書入ハ後ノ半「エクタ  
ール」ニ及ホス乎

然ラス其故何トナレハ此半「エクタール」ヲ加ヘタルハ書入ノ地所ヨ  
リ別途ノ新地所ヲ獲得シタル者ナレハナリ之ヲ事實ニ徵スルニ繞  
圍耕地ヲ遺囑トスル時ハ此半「エクタール」モ之ニ加入ス(第千十九條)  
然リト雖モ遺囑物ニ附テハ專ラ遺囑者ノ意思ヲ推測シテ之ヲ定メ  
書入ニ附テハ總テ嚴密ニシテ始メノ約束ヲ動カス可カラス

○第四款 書入ト書入ノ次序

第千三百三十四條 〔千五百七號〕 本款ハ先取ハ權即チ諸債主間ニテ書入ノ効ニ關スル者

書入ト書入ノ次序



ナリ而シテ第六、章ハ、下ロ、ド、シ、ユ、ウ、イ、ツ、ト退、從、ハ、權、即、チ、書、入、不、動、産、ノ、獲、得、外、人、ニ、對、シ、テ、書、入、ノ、効、ヲ、記、ス、ル、者、ナ、リ

古法ニ於テハ書入ハ總テ公示ノ有無ニ拘ハラス外人ニ對シテ抗拒スルノ力ヲ有セリ而シテ一不動産ノ上ニ書入ヲ有シタル諸債主ノ次序ハ其書入ヲ生セシメタル事情ノ日附ニ因テ之ヲ定メタリ故ニ第一ノ書入債主ハ其書入ノ成立ヲ知ラサル第二ノ債主ニ書入ヲ以テ抗拒シ先取ノ權ヲ行ヘルコト有リ又書入ノ成立ヲ知ルノ道ナクシテ之ヲ知ラス書入ノ不動産ヲ得タル外人ハ書入債主ヨリ取戻ヲ受ルコト有リ實ニ此方法ハ其結果必ス公衆ノ憑信ヲ攪亂スルニ至ル可シ

中世法(譯者曰ク古法ト現行法ノ間ニ制定シタル法即チ第一共和政府ノ時ノ法ヲ謂フ)ニテハ書入ヲ陰密ニ爲スコトヲ禁シル、シ、フ、ト、ル、レ、ビ、フ、リ、ツ、ク公閱簿冊ニ書

入ヲ登記スレハ其効アリ登記セサレハ其効ナキ者トス而シテ此公示ノ原則ハ書入ノ法律上、裁判上又ハ契約上タルノ別ナク之ヲ適用シテ變例ヲ置カサリシナリ(共和三年「メシドール」月九日ノ法律及ヒ同七年「ブリュメール」月十一日ノ法律參觀)

法典ハ公示ノ原則ヲ存シ二ノ變例ヲ設ケ一ハ幼者及ヒ被禁者ノ爲メニシ一ハ婚姻シタル婦人ノ爲メニス契約上ノ書入、裁判上ノ書入及ヒ法律上書入ノ(幼者及ヒ婚姻シタル婦人ノ書入ヲ除テノ外)登記ニ因テ公示セラレサル時ハ効ナキ者トス

○第一節 先取ノ權ニ附キ書入ノ公示

〔千五百八號〕 第壹 登記ノ効

數多ノ書入ト成リタル一不動産ヲ金錢ニ變シタル時其價金ハ諸債主ニ分配ス然レモ如何ナル次序ニ因テ之ヲ分配スル乎○若シ各書

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



入債主共書入ノ登記ヲ爲サ、ル時ハ始ヨリ書入債主ナキ者トシテ  
 價金ヲ分配ス蓋シ登記セサル書入ハ何人ニ對シテモ(尙ホ通常債主  
クレヤンシキ、キロ  
 ニ對シテモ)抗拒ス可カラサル者ナレハナリ故ニ其價金ハ總債主ノ  
クロブル  
 間ニ區別ナク負債ノ高ニ比例シテ之ヲ分配ス  
 若シ一方ノ者ハ登記ヲ爲シ他ノ一方ノ者之ヲ爲サ、ル時ハ之ヲ爲  
 シタル者其爲サ、ル者ノ前序ニ在ル可シ  
 若シ總テノ債主登記ヲ爲シ而シテ日附ヲ同フセサル時ハ登記ノ第  
 一ニ居ル者ハ假令ヒ負債又ハ書入獲得ノ日附ニテハ最後ニ居ルト  
 雖モ他ノ債主ニ對シテ第一ノ位ヲ占ム故ニ日附ヲ同フセスシテ登  
 記シタル書入債主ノ間ニ次序ヲ定ムルニハ負債ノ日附又ハ書入ヲ  
 生シタル事情ノ日附ニ因ラス其登記ノ日附ニ因ル者トス  
 若シ總テノ債主同日ニ登記ヲ爲シタル時ハ皆テ通常債主ニ先立テ

第一ノ位ヲ占メ互ノ間ニハ同等ナリトス蓋シ時ニ於テ同等ナルヲ  
 以テ其權利ニ附シモ亦皆テ同等ノ者ナレハナリ(第二千百二十七條)  
 (千五百九號) 法律上又ハ裁判上ノ書入ハ之ヲ現在財産並ニ未來財産  
 ノ上ニ設ク而シテ債主ハ負債主ノ獲得スル不動産各自ニ附キ登記  
 ヲ爲サ、ル可カラス然リト雖モ既ニ書入チ一ノ登記局ニ於テ登記  
 シタル時ハ向後負債主ノ此局ノ管轄内ニテ獲得スル總テノ他ノ不  
 動産ニ附テハ始メ一ノ登記ヲ以テ足レリトス(第二千百四十八條)何  
 トナレハ此登記ニテ債主ハ書入ヲ有シ其書入ニ負債主ノ獲得スル  
 總テノ不動産ヲ以テ負債ノ辨濟ニ當ルノ性質アルコト外人ニ了知  
 セシムレハナリ  
 斯ク論究スレハ下ノ如キ疑問ヲ現出ス曰ク負債主ノ財産法律上又  
 ハ裁判上數多ノ書入ト爲リタル時總テノ債主同登記局管内ニテ不



動産ニ附キ登記ヲ爲シ日附ヲ同フセス其後ト負債主同局管内ニテ他ノ不動産ヲ得テ此場合ニテハ如何ニシテ登記後獲得シタル不動産ノ價ヲ分配ス可キ乎

此問題ニハ二説アリ

〔千五百十號〕 第一説 債主ハ負債ノ高ニ比例シテ分配ヲ受ク可シ何トナレハ同登記局管内ニテ獲得スル不動産ノ上ニ書入ヲ設クルニ先ノ登記ヲ以テ充分ナリトスル以上ハ其後ニ得ル所ノ書入ハ常ニ不動産獲得ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス然リ而シテ書入ハ未タ負債主ノ家産ニ入ラサル財産ノ上ニ生ゼス故ニ總テノ債主ハ同日ニ(即チ獲得日)同一不動産ノ上ニ書入ヲ得タル者ナレハ互ニ先後ノ別アルノ理ナシ(ビュゴ、ブレナム、ノ、氏ノ説)

〔千五百十一號〕 第二説 債主ハ其登記ノ日附ノ次序ニ因テ分配ヲ受

ク可シ夫レ一般ノ書入ヲ登記シタル時ハ其登記ハ向後獲得シタル不動産ノ上ニ其効ヲ生シ登記ヨリ生スル先取ノ權ノ次序ヲ定ム然ラハ此債主ハ登記ヲ爲シタル時既ニ現在財産ニ於ケル如ク未來財産上ニモ先取ノ權ヲ得タルナリ故ニ後レテ同一ノ不動産ノ書入ヲ登記シタル債主ハ第一ノ登記ニテ保證ト成リタル財産ヲ引キ去リテ殘ル部分ニノミ先取ノ權ヲ有ス若シ然ラストセハ緩漫ノ債主ト急速シタル債主ノ間ニ區別アルコト無シ是レ公平ノコトニ非サルナリ

〔千五百十二號〕 現在財産ノ不充分ナル場合ニ於テ未來財産ノ上ニ設ケタル書入(第二千百三十條)ハ各不動産ノ負債主ノ家屋中ニ入ル毎トニ其各不動産ニ附キ登記ヲ爲ス可シ然レハ一登記局ニ於テ爲シタル登記ハ同登記局管内ニテ得タル負債主ノ財産ニ及ボサス凡ソ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



書入ノ登記ハ別段ニ如何ナル財産ノ上ニ之ヲ設クルコトヲ指示スルニ非サレハ其用ヲ爲サス(第二千四百四十八條第五項初文)獨リ法律ノ此原則ヲ適用セサルハ法律上又ハ裁判上ノ書入ヲ有シタル債主ノ爲メノミナリ(第二千四百四十八條第五項ノ末文)此ニ由テ之ヲ見レハ總テノ未來財産ノ上ニ設ケタル契約上ノ書入ト法律上又ハ裁判上ノ書入ノ間ニ區別ヲ爲サ、ル可カラス契約上ノ書入ニテハ不動産各箇ニ附キ登記ヲ爲スヲ要ス法律上又ハ裁判上ノ書入ニテハ一登記局ニテ爲シタル登記ハ其後同登記局ノ管内ニテ負債主ト獲得シタル總テノ不動産ニモ及ホス者ナリトス

第二千三百三十五條

〔千五百十三號〕 登記ノ有無ニ拘ハラズ其効ヲ生スル書入

此書入ノ數ニアリ

(一) 幼者及ヒ被禁者ノ書入

(二) 婚姻シタル婦人ノ書入

若シ幼者及ヒ被禁者ノ書入ヲシテ登記ノ法式ヲ爲サ、ル時ハ其効ナシトセハ此等ノ人ニ與ヘタル書入ハ到底無益ノ保證ニ過キス何トナレハ實際此等ノ人ハ其權利保存ノ所爲ニ附キ無能力ノ者ナレハ決シテ登記ヲ爲スコト無ケレハナリ

又婦ニ許シテ其書入ヲ登記セサラシムルニ同上ノ理由ニ因ルナリ何トナレハ婦ハ其夫ノ權威ノ下ニ在ルヲ以テ多クハ夫ノ不利トナル所爲ヲ敢テセサル者ナレハナリ

〔附言〕 幼者又ハ婚姻シタル婦人ノ有スル書入ノ陰密ハ果シテ有

益ニシテ且ツ公平ノ制法ナルヤ否ヤノ問題ニ附キ余ハ余カ著ハ

セル登記論(第二篇八百三十號以下)中ニ之ヲ論セリ

〔千五百十四號〕 余輩ハ先キニ書入債主ノ次序ハ其登記ノ日附ニ從テ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



之ヲ定ムルヲ開陳シタリ然ルニ登記ヲ爲サ、ル書入ニ附テハ如何ニ其次序ヲ定ム可キ乎如何ナル日附ニ因テ幼者及ヒ婚姻シタル婦人ニ屬スル先取ノ順序ヲ定ム可キ乎第二千三百三十五條ハ即チ此疑問ニ答フ

第一 幼者又ハ被禁者ニ關スル書入ハ次序○第二千三百三十五條ニ據レハ此次序ハ後見領承ノ日附ニ因テ之ヲ定ムト雖モ第二千九百十四條ニ據レハ後見人其職務ヲ執リタル日附ニ因テ之ヲ定ム然ルニ後見領承ト管理最初ノ所爲ノ間ニハ可ナリ永キ時日有リテ其時日間ニ後見人ハ自己ノ債主ノ爲メニ書入ヲ承諾スルヲ無キコシモ非サル可シ

此場合ニ於テ幼者ヲ以テ第一トスル乎將テ債主ヲ以テ第一トスル乎第二千三百三十五條ニ據テ決スル時ハ幼者ヲ以テ先キトス若シ第

二千九百九十四條ニ據テ決スル時ハ債主ヲ先キニス故ニ此二條ノ間反對スル所アリ

然レモ幼者ニ書入ヲ與フルハ其後見人ノ責任ヲ實行セシムルカ爲メナリ故ニ此書入ハ後見人ノ責任ヲ始メタル日ヨリ其効ヲ生ス可キハ必然ナリ然ルニ其後見人ハ若シ裁判所ノ任スル所ニシテ其任職ノ時現在スル者ハ其任職ノ日ヨリ若シ不在ナレハ其任職通達ノ日ヨリ後見ノ職ヲ務メ其責任ヲ負ハサル可カラス又正當後見人又ハ遺囑所定後見人ハ此等ノ人ニ後見人ノ職務ヲ負ハセタル事情アルコトヲ知リシ日ヨリ後見ノ責任ヲ負フ者トス

〔千五百十五號〕此ニ注目ス可キコト有リ幼者ノ書入ハ一ノ日附ヲ有スルノミ其日附ハ幼者ノ其後見人ニ對シテ有スル總テノ人權及ヒ尙ホ後見人ノ管理最初ノ所爲ノ後十年十五年又ハ二十年ニシテ生

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



スル人権ニ附テモ亦一定不動ノ者ナリ例之ハ後見人自己ノ用ニ金  
 ナ借り其債主ニ書入ヲ供シ債主之ヲ登記ス其後キ幼者相續ニ因テ  
 此書入ノ權ヲ得タリ後見人之ヲ受取り而シテ之ヲ消費ス是ニ於テ  
 幼者ハ右書入債主ニ對シテ第一ノ位ヲ占ム蓋シ幼者ノ有スル人権  
 ハ後日ニ至リ生ス可シト雖モ書入ノ權ハ既ニ後見人ノ責任ヲ始メ  
 タル日ニ於テ次序ヲ定メタレハナリ  
 故ニ或人曰ク幼者ハ向後爲用ノ書入ヲ有スト謂フ可シ向後爲用ノ  
 書入トハ未タ生セサル人権ヲ保證スル書入ト言フ義ナリ  
 然レモ又或人曰ク此書入ハ向後爲用ト言フ可カラス抑幼者ハ其後  
 見人ニ對シテ一ノ人権ヲ有スルノミ計算差出ヨリ生スル一般ノ人  
 権是ナリ而シテ此人権ハ後見人ノ責任ヲ始ムル日ニ生シテ後見ノ  
 期限中後見人ノ收取シタル總テノ高キ包含スル者ナリ故ニ現在ノ

人権ヲ保證ス

〔千五百十六號〕 第二 婚姻シタル婦人ニ關スル書入ハ次序〇本項ノ

原則トスル所下ノ如シ曰ク婦ノ有スル法律上ノ書入ノ目的タルヤ  
 專ラ其夫ニ委テタル自己ノ財産支配ヨリシテ被ムルコト有ル可キ損  
 失ヲ保證スルニ在リ故ニ自然ノ理ニ於テ夫カ始テ支配スルノ義務  
 ト其支配ニ附帶セル責任トヲ負フタル日ヨリ書入ノ効ヲ生シ隨テ  
 此日ニ次序ヲ定ム可シ其夫カ始テ支配ノ義務ト責任トヲ負フ日ト  
 ハ之ヲ要略スルニ即チ婚姻ノ公式ハ日ナリ概スルニ此義務ヲ生ス  
 ルハ婚姻ノ公式ニ因レハナリ  
 斯ノ如キハ本項ノ原則ニシテ法律ハ下ニ余輩カ見ル如ク數箇ノ變  
 例ヲ置ケリ

第一 嫁資ノ返還又ハ夫婦ニ關スル財産契約ノ執行〇羅馬律ニ於

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



テハ嫁資返還ニ附テ其婦ハ夫ノ總テノ債主及ヒ尙ホ婚姻前ニ設ケタル書入チ有スル債主ニ對シテモ第一ノ位チ占ム可キ特權アル書入チ有セリ

フリヴィレシエイ

此書入ニ附シタル既往ニ及ホス可キ効ハ大ニ公衆ノ憑信ヲ害セリ」共和七年「ブリュニール」月十一日ノ法律ハ羅馬律ト反對セル方法ヲ設ケ婦ノ書入ハ他ノ書入ト同様ニ公ケニ之ヲ爲シ其次序ハ登記ノ日附ニ從テ之ヲ定ム可シトス然レモ此方法ニテハ婦ノ權利ヲ害スル事ナカラス何トナレハ大抵婦ハ自己ノ書入チ登記セシムルヲ敢テセサル者ナレハナリ

法典ハ外人ノ利益ト婦ノ利益ヲ調和シ嫁資ノ返還及ヒ夫婦ニ關スル財産契約ノ執行ハ書入チ以テ保證シ其書入ハ次序ハ婚姻公式ノ日附ニ因テ定ム可シト決定シタリ(千七百十八號以下參觀)

嫁資ト言フ語ハ之ヲ廣ク解スレハ婚姻ヨリ生スル義務ヲ相互ニ助ケテ負擔スル爲メニ夫カ其婦ヨリ受取タル持參ノ現物及ヒ婚姻中ニ獲得シタル總テノ財産ヲ謂フ(第一千五百四十條)然レモ本項ニ言フ所ノ嫁資ハ實際ニ行ハル、意味ニシテ即チ夫カ婚姻ノ時ニ受取タル持參ノ現物ノミヲ謂フナリ第二千三百三十五條第四項ニ於テ別ニ婚姻中ニ獲得シタル嫁資ノ財産ニ附キ別ノ次序ヲ指示シタルハ本項ニ用フル所單ニ持參ノ現物ニ限ルノ證據ナリ

夫婦ニ關スル財産契約ト言フ語ハ夫婦財産契約中ニ婦カ約束シタル利益即チ分配前取及ヒ生存者ノ利益等ノ如キ者ヲ謂フ○然レモ婚姻公式ノ時既ニ商人ト爲リ又ハ其公式ノ年ニ商人ト爲リ今分散シタル者ノ婦ハ夫婦財産契約中ニ此婦ノ爲メニ約束シタル贈與ニ對シテ書入チ有セス○且ツ又婦ハ此事ニ附キ分散ニ對シテ訴權ヲ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



モ有セサル者ナリ(商法第五百六十四條)

〔千五百十七號〕第二 婚姻中婦ノ受ケタル相續又ハ婚姻中ニ婦ノ受ケタル贈與ヨリ生シ嫁資ニ加ハリタル金高ノ返還○本項ニテハ書入ハ相續開始ノ日又ハ贈與ノ其効ヲ生シタル日ニ於テ次序ヲ定ム

〔千五百十八號〕第三 婦ハ其夫ト共ニ外人ト結約シタル負債ノ爲メニ婦ヨリ拂フタル金高ノ返還○本項ニテハ書入ハ婦及ヒ其夫ノ外人即チ債主ト負債ヲ結約シタル日ニ於テ次序ヲ定ム其一例ヲ舉ケン夫己レノ用ニ供センカ爲メ金錢ヲ借ル其婦債主ノ安然ノ爲メニ夫ト連帶シテ義務ヲ負フ其後婦自己ノ金ヲ以テ此負債ヲ拂フタリ故ニ婦ハ其夫ニ對シ償ヲ要ム可シ而シテ其要償ハ書入ヲ以テ之ヲ保證シ此書入ハ其保證スル要償ヲ生セシメタル負債ヲ結約シタル日ヲ以テ其日附ト爲ス

〔千五百十九號〕第四 婦ノ固有財産賣却ヨリ生スル金高ノ返還但シ夫ヲシテ其代金ヲ婦ノ利益ニ復用セシメタル時○本項ニテハ書入ハ賣却ノ日ニ於テ次序ヲ定ム(千五百二十一號ノ二參觀)

〔千五百二十號〕此ニ注目ス可キ事アリ書入ハ婚姻相續開始贈與又ハ賣却ノ完全ノ日ヲ以テ其日附ト爲スト雖モ夫カ嫁資又ハ相續贈與及ヒ賣却ヨリ生シタル金高ヲ使用シタル日ヲ以テ日附ト爲スニ非ス何トナレハ夫ニハ嫁資及ヒ相續又ハ贈與ニ因テ婦ノ得タル財産及ヒ賣却ノ代金ノ收入ヲ監視スルノ義務アルヲ以テ婦カ之ヲ得タル日ヨリ此物件ニ附テ責任ヲ負ヒ而シテ其責任ハ此日ヨリ生シ隨テ亦書入ヲ生スルナリ

婦其夫ト共ニ外人ニ對シテ結約シタル負債ノ爲メニ婦ヨリ拂フタル金高ノ返還ヲ保證スル書入ニ附テモ亦之ニ同シ其書入ハ婦カ負

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



債ヲ拂フタル日ニ於テセスシテ婦カ此負債ヲ結約シタル日ニ於テ  
次序ヲ定ム

千五百二十號ノ二 余輩ハ上ノ千五百十七號千五百十八號及ヒ千五  
百十九號ニ記セル四項ニ於テ嫁資ノ返還又ハ夫婦ニ關スル財產契  
約ノ執行ニ於ケルカ如ク書入ノ婚姻ノ公式ノ日ヲ以テ其日附ト爲  
サ、ル者アルヲ見タリ

此等ノ變例ノ設ケ有ル所以ハ如何

第一項第二項ニ在ル如ク婚姻中ニ婦カ受ケタル相續又ハ贈與ヨリ  
生シタル金高ノ返還ニ附キ何故ニ其書入ハ相續開始ノ日又ハ贈與  
ノ効チ生シタル日ニ於テ其次序ヲ定ムル乎法典編纂者ハ余輩ニ其  
理由ヲ教フ曰ク此金高ハ相續開始ノ日又ハ贈與ノ其効チ生シタル  
日ニ非サレハ法律上書入チ有スルヲ得ス何トナレハ夫ハ支配ノ任

チ、負、フ、ハ、此、日、ヨ、リ、ス、而、シ、テ、單、ニ、此、支、配、ア、ル、ヲ、以、テ、書、入、ヲ、爲、ス、ハ、基  
礎、ト、ス、レ、ハ、ナ、リ、

第三項第四項ニ於ケル如ク婦カ其夫ト共ニ結約シタル負債又ハ婦  
其夫ノ利益ト爲ル方法ニテ自己ノ財產ヲ費用シタルニ附キ婦ニ拂  
フ可キ償金ニ關シテ何故ニ其書入ハ義務又ハ賣却ノ日ニ其次序ヲ  
定ムル乎法典編纂者又余輩ニ教フ曰ク若シ此場合ニ於テ書入ノ日  
附チ婚姻公式ノ日ニ遡ラシムル時ハ其既往ニ及ホスノ効ハ種々ノ  
不都合チ生ス可シ何トナレハ婚姻後夫ノ不動産ノ上ニ外人ノ得タ  
ル書入チ婦ヨリ無効ニ爲サント欲スル時ハ新ニ夫ト共ニ一ノ負債  
チ爲シ又ハ其固有財產ノ賣却チ爲シテ先ノ書入チ無効ニ屬セシム  
ルヲ得レハナリ

千五百二十一號 法律ハ五箇ノ人權(嫁資、夫婦ニ關スル財產ノ契約ヨ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



リ生スル金高婦ノ拂フタル夫ノ負債ニ附テノ償金婦ノ固有財産賣却ヨリ生スル金高ニシテ夫ノ費用シタル者ニ關スル書入ノ次序ヲ定メタリト雖モ他ニ法律ノ指示セサル人權アリ  
 故ニ疑問異論起テ止マル所ヲ知ラス余謂ラク法律ニ僅々ノ事項ノミヲ掲ケテ説明シタルハ是レ離形ヲ示シタルニ過キスシテ人權ノ數甚ク繁多ナレハ一々之ヲ擧ケ之カ定規ヲ設クルニ違アラス因テ數千ニモ至ル可キ例中ヨリ世間最モ多ク行ハル、場合ヲ擇ミ之ニ適用シタル別段ノ決定ヲ記シ其決定ヲ爲シタル種々ノ精神ヲ明示シタルナリ故ニ法律ニ定メサル場合ハ盡ク法律ノ裁判官ニ委テテ既ニ明示シタル例ヲ推シ最モ相近キ者ヲ求メ比附援引シテ其履行ス可キ定規ヲ得セシムルナリト

〔千五百二十一號ノ二〕 余輩ハ曩ニ婦ノ固有財産讓與ヨリ生シタル金

高ノ返還ニ附キ此婦ハ賣却ノ日ヨリ書入ヲ有スルヲ論シタリ今夫婦財産契約ニテ付與シタル威權ヲ以テ夫一人ニテ其婦ノ固有財産ヲ讓與シタル場合ニ於テモ亦之ニ同シ蓋シ法律ニ於テ此二箇ノ場合ヲ區別セス

法律ノ箇條ハ財産ヲ共有シタル婦ニ附テノミ記シタル者ナリ蓋シ所謂ル固有財産ナル者ヲ有スルハ此共有ノ方法アル時ニ限レハナリ一然ラハ余輩ハ問ハン嫁資分括ヲ爲シタル婦ノ有スル書入ハ其分括中ノ不動産他ニ讓與サレタル場合ニ於テハ何レノ日ヲ以テ其日附トスル乎婚姻ノ日ニ遡ル可キ乎將タ賣却ノ日ヲ以テ其日附トス可キ乎世上普通ノ說ニ據レハ此問題ニハ區別ヲ爲スヲ必要トス夫婦財産契約中ニ定メタル允許アルヲ以テ賣却シタル時ハ其書入ノ日附ハ婚姻公式ノ日ニ遡ル者トス蓋シ契約中ニ定メタル讓與ノ允許

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



夫以テ夫婦ニ關スル財産契約ト看做セハナリ若シ賣却ノ允許モ無ク又法律ニテ賣却ヲ許シタル場合ノ外ニ不規則ニ賣却ヲ爲シタル時ハ其書入ハ財産ヲ賣却シタル日ヨリ以後ニ非サレハ次序ヲ定メス

余輩ハ婚姻シタル婦ノ有スル書入ノ日附ノ變例ニ附テハ總テ比附援引ヲ以テ決テ取ル可シトスルカ故ニ本題ニ於テモ亦同一ノ決定ヲ爲スノ外ナシ今余輩カ論スル所ノ例ハ上ニ説明シタル例即チ法律ノ決定ヲ下シタル四箇ノ場合中ニ完全ニ類似セル者アルヲ以テ其中ノ一ヲ取り本題ノ書入ハ總テハ場合ニ於テ賣却ノ日ニ非サレハ其次序ヲ定メスト謂ハサルヲ得ス總テハ場合トハ讓與ノ夫婦財産契約ニテ允許サレ又ハ否ラサルトテ區別セサルノ謂ヒナリ夫婚姻中ニ嫁資外ノ金高ヲ費用シタル時ハ如何ナル日ヲ以テ書入

バランセルナル

ノ日附トスル乎余ハ此ニ區別ヲ爲ス夫若シ其明ニ又ハ暗ニ爲シタル夫婦ニ關スル財産契約ニ據リ己レノ手中ニ收取シタル金高ノ收入ヲ訟求シ及ヒ之ヲ執リ行フ可キ時ハ此書入ハ婚姻ノ日ヲ以テ其日附トス之ニ反シ夫若シ事務管理人トシテ又ハ婦ヨリ婦ノ爲メニ處分スルノ任ヲ與ヘタル名代人トシテ金高ヲ費用シタル時ハ書入ノ次序ハ收入ノ日附ニ因テ之ヲ定ム可シ

夫其婦ノ固有分括又ハ嫁資外ノ財産ヲ破壊シタル時ハ下ノ區別ニ從テ書入ノ日附ヲ定ム可シ

夫若シ婚姻ノ日ヨリ其破壊シタル財産ヲ支配スルノ任ヲ負フタル時ハ婚姻ノ日ヲ以テス

夫若シ夫婦ニ關スル財産契約ニテ婦ノ相續又ハ贈與ニ因リ獲得シタル財産即チ夫ノ保存ニ能ハサリシ財産ヲ支配スルノ義務ヲ負フ



タル時ハ婚姻中婦ノ受ケタル相續開始ノ日又ハ婚姻中婦ノ爲メニ爲シタル贈與ノ其効ヲ生シタル日ヲ以テス

夫若シ未タ支配ノ任ヲ負ハサリシ財産ニ附キ支配スルヲ必要ナリト求メラレタル時ハ破壊ノ日ヲ以テス

〔附言〕 婦財産分離ヲ訟求シ其裁判ニテ分離ヲ許サレタル時ハ其

夫ハ必ス婦ヨリ仕拂ヒ置キタル訴訟入費ノ辨濟ヲ申渡サレ其返辨ノ爲メニ婦ハ法律上ノ書入ヲ得ル者ナリ(千四百四十九號參觀)

然ルニ此場合ニ在テ書入ハ如何ナル次序ニ在ル乎此問題ニ附キ三箇ノ説アリ

第一説 婦カ其財産分離ヲ得ンカ爲メ止ムヲ得ス拂フタル入費ハ其夫ニ對シテ有スル人權ノ附屬物ナリ

總テ附屬ノ人權ハ其主タル權利ノ次序ニ從フ者ナリ

故ニ此ニ論スル所ノ入費ハ婦ノ有スル主タル人權ニ比例シ又ハ

相應シテ附屬ノ人權ニ附着シ而シテ其分數ノ各箇ハ其主タル人權ト俱ニ債主ノ順序ヲ占ムル者ナリ

第二説 余輩カ論究スル所ノ入費ハ主タル人權ヲ組成スル者ニシテ其根基ハ夫婦ニ關スル財産契約ニ在リ蓋シ其入費ヲ生シタル訴訟ノ基本ハ即チ此契約ナレハナリ

故ニ此入費ヲ保證スル所ノ法律上ノ書入ハ何レノ場合ニ於テモ婚姻公式ノ日ニ遡ラサル可カラス

第三説 本論ノ人權ハ主タル人權ナルコトハ必定ナリ然レモ其根基ハ何ノ點ニ在ル乎是レ懈怠又ハ不始末ニ因リ婦ノ嫁資ニ危害

ヲ來シタル夫ノ准犯罪ヨリ生スル者ナリ今法律ニテ此人權ニ付與シタル書入ノ次序ニ附テハ宜シク第二百三十五條ノ法意



ヲ推テ之ヲ定ムヘシ此條每項ノ意ヲ解スレハ夫ノ財産上ニ設ケタル書入ノ次序ハ婦其夫ノ爲メニ損害ヲ受ケ又ハ受ク可カリシ日ヲ以テ之ヲ定ムト言フニ外ナラス而シテ決シテ此日ヨリ以前ニ書入アルヲ無シ斯ク論定スレハ本題ヲ論結シテ言ハシテ財産分離ヲ訟求シタル婦ノ損害ハ其夫ノ處分亂雜ナルニ因ル然ラハ書入ヲ生シ其次序ヲ定ムルハ即チ此亂雜ヲ始メシ日ナリトス

余カ考フル所ニ據レハ此第三說ハ論理ナキ者ノ如シ何トナレハ夫ノ處分ノ亂雜ハ婚姻ノ日ヨリ始マルヲ無キニ非ス婦ハ此日即チ婚姻ノ日ヨリ損害ヲ被ムルヲ有レハナリ故ニ若シ第三說ノ如クセハ婚姻ノ日ヨリ書入ノ成立シタル者トセサルヲ得ス

〔千五百二十二號〕 上文ニ論述シタル所ニ據テ見レハ幼者ノ書入ト婚姻シタル婦ノ書入ノ區別ヲ了解スルヲ容易ナル可シ

幼者ノ有スル書入ノ日附ハ後見人其責任ヲ始メタル日ヲ以テ之ヲ定メ而シテ其日附ハ變更ス可カラス且ツ又幼者ノ有スル異種ノ人權ノ其發生ノ時ノ如何ヲ問ハス總テ同一ノ次序ニ從テ分配ヲ受ル者トス

婦ノ有スル書入ハ發生ノ點一定不變ナラス幼者ノ書入ト同シカラス各人權毎ニ其之ヲ發生シタル事實ノ日ヲ以テ定メタル別段ノ次序ヲ占ムル者トス

ポールナル者プリマト云ヘル女ヲ娶リ共同日ニプリマノ妹スコンダノ後見人ト爲ル又ポールニハ數名ノ債主アリテ其中一人ノ爲メニ書入ヲ爲シ債主之ヲ登記ス其書入ヲ登記シタル後チ婦ノプリマ及ヒ幼者ノスコンダノ相續ヲ受ケポールハ夫ト後見人ノ二様ノ身分ヲ以テ此遺物ヲ支配シ之ヲ費用シ遂ニ到産スルニ及ヘリ此場

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示

デコンヒチナル



合ニ於テプリマスコンダ及ヒ婚姻ニ後レ及ヒ相續開始ニ先立テ書入チ有シタル債主ノ間ニ於テ分配ノ順序ハ如何スコンダ(即チ幼者)チ以テ第一番トス蓋シ其有スル所ノ書入ハ獨リ相續開始ノ日ノミナラスポールカ後見人ト爲リシ日チ以テ其日附トスレハナリ次ニ債主チ以テ第二番トス蓋シ此書入ト其登記ハ相續開始ノ日ヨリ以前ナレハナリ而シテ其相續開始ノ日ハ即チプリマノ書入ノ次序チ定ムル日ナリ

婦并ニ其幼者贈與チ受ケシ時ハ婦ハ贈與ノ日チ以テ書入ノ次序チ定メ幼者ハポールカ後見人ト爲リシ日チ以テ之チ始ム故ニ又幼者チ第一トシ婦チ第二トス

ポール其婦及ヒ幼者ニ屬スル不動産賣却ヨリ生シタル價金チ費用シタル場合ニ在テ婦ニ對シテ次序チ定ムルニハ賣却ノ日チ以テシ

幼者ニ對シテハポールカ後見人ト爲リシ日チ以テス故ニ幼者チ先キニシ婦チ後ニス

(千五百二十三號) 故ニ幼者ノ書入ハ婦ノ書入ヨリ其効極メテ多シ然レモ如何ナル理由アリテ婦ノ書入ハ婚姻後ニ生シタル人權ニ對シテモ尙ホ婚姻ノ日チ以テ其日附ト爲サ、ル乎此區別ニハ數箇ノ理由アリ

抑幼者ノ書入ニ附キ幼者チ庇蔭スルノ原則ハ後見人ノ憑信チ毀壞スル者ナリ何トナレハ後見人ヨリ書入チ取りタル外人ノ人權ハ後ニ至リ幼者ノ爲メニ生シ後見人ノ負フ所ト爲ル人權ニ第一ノ位置チ占メラレ遂ニ充分ナル保證チ得ルヲ無ケレハナリ是レ社會ノ損害ニシテ公衆ノ憑信チ破ル者ナリ今法律ハ幼者ノ爲メニ公益チ枉クルト雖モ婦ノ爲メニ之チ枉ク可カラス何トナレハ社會ニ於テ夫

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



ノ數ト後見人ノ數ヲ比スレハ夫ノ數極メテ夥多ニシテ且ツ婚姻ハ後見人ヨリモ長ク繼續スル者ナレハ婦ノ書入ヲ庇蔭スル時ハ公衆ノ憑信ハ全ク破壊ス可ケレハナリ

尙ホ一言ヲ添加セン婦ハ幼者ノ有セサル保證ヲ有スル者ナリ其保證トハ若シ其夫家産ヲ害スルヲ有ル時ハ財産分離ヲ願ヒ自カラ家産ヲ支配スルノ權利ヲ得ルノ權是ナリ

又婦カ其夫ト連帶ニテ約束シ自カラ返濟シタル負債ニ附キ賠償ヲ保證シ又ハ婦ノ固有財産ノ賣却ヨリ生シタル價金ヲ保證シタル書入ノ次序ハ婚姻ノ日ナリトスル時ハ是レ既往ニ遡テ次序ヲ定ムル

ナリ然ルニ此事タル夫婦若シ負債又ハ賣却前ニ權利ヲ得タル債主ノ書入ヲ無効ニ歸セシメント欲スル有ラハ詐詭ヲ行フノ最モ容易ナル方法ト爲ル可シ然レモ幼者及ヒ其後見人ノ間ニ在テハ此弊害

ノ恐レ有ルヲ無シ

〔千五百二十四號〕幼者被禁者及ヒ婚姻シタル婦ニ附テ法典ニ言フ所ニ據レハ後見歇止又ハ婚姻解止ノ後ト雖モ尙ホ登記ノ法式ヲ行フノ義務ナシ(千八百十二年五月五日ヨリ八日迄ノ參議院ノ意見書ヲ見ル可シ)此等ノ人ノ爲メニ設ケタル變例ハ無能力ノ一點ニ基キ設ケタル者ト雖モ其無能力ト俱ニ歇止セス

此變例ハ甚タ不當ナリトシテ千八百五十五年三月二十三日ノ法律ヲ以テ廢止セリ其法意ヲ要スルニ自身ニテ自己ヲ保護スルノ力ヲ有スル人ニ殊更ニ保助スルハ無益ノヲナリト思考シタルナリ下ノ

條文即チ是ナリ  
寡婦丁年ニ達シタル幼者禁止ヲ脱シタル被禁者此等ノ人ノ相續人又ハ代權人若シ婚姻解止又ハ後見歇止ヨリ一箇年内ニ登記ヲ爲サ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



サル時ハ其書入ハ外人ニ對シテ登記ヲ爲シタル日ヲ以テ其日附ト爲ス

〔附言〕 法律ノ明文ニ據レハ婦又ハ幼者ノ法律上ノ書入ヲ登記スルノ義務ハ寡婦丁年ニ達シタル幼者此等ノ人ノ相續人又ハ代權人ノミニ適行スルヲ以テ分居又ハ財産分離ヲ爲シタル婦既脫後見ノ幼者又ハ第二ノ後見人ノ保護ヲ受ケタル幼者ハ依然耶翁列倫法典ノ條例ヲ遵守ス可シ又法文ノミニ據テ解スル時ハ夫ニ先立テ死亡シタル婦ノ相續人モ亦之ニ同シ蓋シ此婦ハ死スル時寡婦ニ非サレハナリ又丁年ニ達セズシテ死亡シタル幼者蓋シ死スル時丁年ニ非サレハナリモ亦之ニ同シ然レハ此解釋ハ法ノ文面ニ拘泥スルノ太過ナル者ニシテ決シテ法律ノ眞意ニ非ス然ラハ寡婦丁年ニ達シタル幼者禁止ヲ脱シタル被禁者此等ノ人ノ

相續人又ハ代權人ニ附キ述フルカ如ク一年內ニ登記ヲ爲セハ其書入ノ次序ハ那翁列倫法典第二千三百三十五條ニ言ヘル順序ニ從テ繼續シ若シ登記ヲ爲サズ一年ヲ經過スル時ハ其書入次序ハ登記ノ日ヨリ始ムル者トス

自第二千三百十六條至第二千三百三十九條

〔千五百二十五號〕 假令ヒ幼者被禁者婚姻シタル婦ノ書入ハ後見又ハ婚姻中登記ノ法式ニ循ハスシテ其効アリト雖モ法律ハ外人ノ利益ヲ計リ外人ヲシテ此書入ヲ知ラシムルノ方法ヲ設ケタリ即チ法律ノ或ル人ニ登記ヲ請願スルノ義務ヲ負ハシメ又一方ニハ其請願ノ權理ヲ許シタル是ナリ然レハ登記ノ缺乏アリト雖モ幼者被禁者又ハ婚姻シタル婦ノ損失トナラス其書入ハ之ヲ登記スルモ之ヲ爲ササルモ常ニ第二千三百三十五條ニ指示シタル次序ヲ有スル者ナリ

〔千五百二十六號〕 登記ヲ請願スルノ義務アル人〇其人ハ左ノ如シ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



第一 婦ニ附テハ其夫幼者及ヒ被禁者ニ附テハ其後見人○此義務

ノ制裁

夫若クハ後見人己レハ不動産ノ其婦又ハ其幼者ノ書入タルヲ明  
白ニ陳告セシテ其不動産ノ上ニ書入又ハ先取特權ヲ承諾シ又ハ  
之ヲ設クル儘ニ爲シ置ク時ハ夫若クハ後見人ハ偽典賣人ト看做シ

拘身ヲ受ク可シ

〔附言〕 拘身ノ民事上ニ存在セサルヲハ余輩ノ知ル所ナリ

此制裁ハ偽典賣ニ附テ設ケタル普通法ヲ引キ來テ研究スレハ尙ホ  
明瞭ナル可シ第二千五十九條ヲ見ルニ左ノ四項ノ場合ニ在ル者ヲ  
偽典賣トス

其一ハ他人ノ物タルヲ知リナカラ之ヲ賣却シタル時  
其二ハ他人ノ物タルヲ知リナカラ之ヲ書入ト爲シタル時

其三及ヒ其四ハ詐テ書入無シト陳告シ又ハ實ニ負擔スル所ノ書入  
ヨリ少ナキ書入アリト陳告シテ自己ノ物件ヲ書入ニ爲シタル時  
以上四項ノ外第二千三十六條ハ別ニ一項ヲ添加シタリ婦又ハ幼  
者ノ書入ヲ登記セサル夫又ハ後見人ハ獨リ詐テ既ニ書入ト爲リシ  
不動産ニ書入無シト陳告シタル時ノミナラス黙シテ其婦又ハ其幼  
者ノ書入ノ存在スルヲ陳告セサル時モ尙ホ偽典賣者ナリトス例  
之ハ夫其女ノ書入ヲ登記シタランニハ後ヲ債主ニ其書入ノ存在ヲ  
陳告セサルモ登記ニテ書入ノ事ハ既ニ公衆ニ知レシ者ナレハ今債  
主ト結約スルニ當リ其債主ハ必ス書入ノ存在ヲ了知スル者ナリト  
夫ハ之ヲ信スルカ故ニ黙シテ陳告セサルモ決シテ詐詭ノ所爲ニ非  
ズ隨テ假令ヒ黙過スルモ偽典賣者タラス然レモ債主ニ向ヒ詐テ汝  
ノ人權ノ抵當タル財産ハ書入ヲ負フヲ無シ汝嫌疑スル勿レト謂ヒ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



テ書入ノ無キヲ保護シタル時ハ夫ハ即チ偽典賣者ナリトス若シ又婦ノ書入ノ登記ヲ忘リタル時ハ書入ヲ約スル對手ノ債主ニ向テ此書入ノ次序ハ婦カ有スル所ノ書入ノ次キニ在ル可シト告ケサル可カラス若シ之ヲ陳告セサル時ハ偽典賣者タルヲ免カレズ法文ニ載スル所ノ書入又ハ先取特權ヲ承諾シ又ハ之ヲ設クル儘ニ爲シ置クノ語ハ之ヲ解スルニ難キヲ無キニ非ス先ツ此文章ニ據テ見ル時ハ婦ノ書入アルヲ陳告セスシテ書入ヲ承諾シタル夫ハ偽典賣者タル可シ然ラハ書入ヲ設クル儘ニ爲シ置クノ語ハ如何ナル場合ニ適施スル乎此語ヲ文字ニ附キ文法上ヨリ見レハ一ニ裁判上又ハ法律上ノ書入ノミニ附テ言フカ如シ故ニ此條文ニ據テ法ヲ解スレハ夫若シ出訴スルニ先立チ其相手方ニ通告スルニ相手方ノ有ス可キ裁判上ノ書入ノ次序ハ已レノ婦ノ次キニ在ル可キ旨ヲ以テセサル時

ハ夫ハ偽典賣者ナリ又夫若シ計算人(第二千二百二十一條)ノ職ヲ奉ズルニ當リ自カラ夫ノ身位ヲ有スルヲ政府ニ告ケサル時ハ亦偽典賣ナリトス條文ノ字句ニ因リ法ヲ解スル時ハ上ノ結果無キ能ハス然レモ必ス斯ノ如クナル可シト言フハ酷ノ最モ甚シキ者ナリ假令ヒ對手方又ハ政府ニ告グルニ夫ノ身位アルヲ以テセサルヲ有ルモ何ソ其人ヲ偽典賣者ナリト謂フヲ得ンヤ法律ハ此等ノ場合ヲ明言セス既ニ明言セサル以上ハ之ヲ豫見シタルニ非スト推考セサルヲ得サルナリ然ラハ書入ヲ設クル儘ニ爲シ置キタル夫ハ偽典賣者ナリト法律ニ言ヒシハ如何ナル場合ナル乎下ノ項ノ如キ是ナリ夫其婦ニ第一ノ次序ヲ占メラレ書入債主ニ辨濟スルカ爲メニ他ノ一人ヨリ金ヲ借り其貸主ヲシテ先キニ辨濟ヲ受ケタル債主ニ代テ書入ヲ有セシムルヲ有ル時ニ此書入ハ婦ノ書入ニ次キテ次序ヲ占



ムル者タルヲ告知セサル場合ニ在テハ夫ハ書入ヲ承諾シタルニ  
非ス之ヲ設クル儘ニ爲シ置キシナリ

他ニ一説アリ書入ヲ設クル儘ニ爲シ置クノ場合ハ實際アル可カラ  
サル者ナレハ到底書入ヲ設クル儘ニ爲シ置クノ語ヲ削去スルノ外  
ナカル可シトス

〔千五百二十七號〕

先取特權ヲ承諾シ又ハ之ヲ設クル儘ニ爲シ置クノ

語モ亦之ヲ理解スル頗ル難シ凡ソ先取特權ナル者ハ人ノ之ヲ承諾  
スルニ非ス好シヤ之ヲ承諾シ得ル者トスルモ婦ノ有スル書入ノ存  
在ハ特權ヲ有スル債主ヲシテ如何ナル損害ヲ被ラシムル乎先取特  
權ナル者ハ如何ニ先ニ設ケタル書入ト雖モ之ヲ排除シテ第一ノ次  
序ヲ占ムル者ニ非スヤ  
特權ヲ設クル儘ニ爲シ置クノ語ヲ解スルニハ余輩カ上ニ書入ヲ設

クル儘ニ爲シ置クノ語ヲ理解スル爲メニ説明シタルト同様ノ例ヲ  
引キ之ヲ説明ス可シ夫一ノ不動産ヲ賣却ス其時夫ハ賣主タルヲ以  
テ先取特權ヲ得然レモ自己ノ所爲賣却ヲ指スヲ以テ婦ノ抵當ヲ減  
殺スルヲ得サルヲ以テ其特權ハ婦ノ書入ノ次キタリ(千二百四十九  
號參觀)買主ハ夫ニ代價ヲ拂フ爲メ他ヨリ金ヲ借入レ夫ニ向テ其受  
取書中ニ於テ(第千二百五十條第二項)外人ニ代權ヲ爲サシメ而シテ  
其土地ヲ以テ賣却ノ抵當トスルノ承諾ヲ得ンヲ請願ス夫之ヲ承  
諾シ而シテ此新債主ニ告クルニ今其代權ヲ以テ移轉シタル特權ハ  
其婦ノ書入ノ次キタルヲ以テモサル時ハ夫ハ則チ偽典賣者ナリ  
是レ實際充分ノ効ヲ有セサル先取特權ヲ充分効アル者トシテ設ク  
ル儘ニ爲シ置キシ故ナリ其告クルニ實ヲ以テモサルカ故ニ夫ニ拂  
キナス爲メニ土地ヲ貸與シタル外人ヲシテ有害ノ錯誤ニ陥ラシメ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



タルナリ

他ニ一説有リテ先取特權ヲ承諾シ又ハ之ヲ設クル儘ニ爲シ置クノ語ハ行フ可カラサル者トス此説ヲ爲ス者ハ其引證スルニ第二千九百九十四條ヲ以テス此條ニ第二千三百三十六條ノ論理ヲ移シ來リテ夫ノ書入ヲ承諾シタル場合ノミヲ記載スルヲ以テナリ

〔千五百二十八號〕夫若クハ後見人不動産ヲ賣却スルニ當リ其不動産ニ法律上ノ書入アルヲ明カニ告スト雖モ偽典賣者タルニ非ス蓋シ第二千三百三十六條ハ豫メ此場合ヲ記シタル者ニ非ス且ツ總テ偽典賣ト爲ル所爲ハ法律ニ於テ限制シ其載スル所ノ者ニ限レハナリ好シヤ此書入アルモ賣主ニ對シテハ彼ノ書入ヲ抵當トシテ金錢ヲ貸シタル者ニ於ケル如ク損害ヲ來タス可キ者ニ非ス何トナレハ賣主如何ニ不注意ナルモ必ス書入滌除ノ法式ヲ行フタル後ニ非サレ

ビニルシユ

ハ其賣取ノ價ヲ拂ハサル可シ而シテ其滌除ノ法以テ賣主ヲシテ危害避ケシムルニ足レハナリ(第二千八百一十一條以下)

〔千五百二十九號〕第二 幼者又ハ被禁者ノ爲メニハ後見監視人○此後見人ハ自カラ責任ヲ負フ可シ然ラハ誰レニ對シテ其責ヲ負フ可キ乎果シテ幼者ニ對シテ責ヲ負フ乎人或ハ曰ハン幼者ノ書入ハ假令ヒ登記ヲ爲サ、ルモ其効ヲ生ス故ニ幼者ハ登記ヲ爲サ、ルヲ以テ損害ヲ受ルヲ有ル莫シト先取ノ權ニ附テ見ル時ハ實ニ此言ノ如シ然リト雖モ余輩カ後ニ述フル如ク追從ノ權ニ附テ之ヲ見レハ書入ヲ登記シタルト然ラサルト幼者ノ位置ハ登記ヲ爲シタル時ヲ以テ優レリトス  
後見監視人ハ幼者ノ書入アルヲ知ラスシテ其後見人ト契約シタル外人ニ對シテ責ヲ負フ可キ乎一説ハ然リト斷ス其説ニ曰ク此後見

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



監視人ハ法律ノ命シタル本分ヲ盡サ、ルヲ以テ一ノ過失ヲ爲シタルナリ而シテ其過失タルヤ既ニ書入ノ存スルヲ知ラスシテ後見人ニ金錢ヲ貸與シタル外人ニ損失ヲ被ラシムルニ足ル夫レ損害ヲ生ス可キ過失ハ總テ其本人ヨリ損害ヲ償フノ義務ヲ生スル者ナリ○他ノ一説ハ否ナリト斷シ上ノ説ヲ駁ス曰ク後見監視人ノ登記ヲ請求スル義務ハ獨リ幼者ノ利益ノ爲メナリ其登記ヲ怠リシカ如キハ外人ニ對シテ過失トナル者ニ非サルナリ蓋シ法律ハ外人ニ對シテ此後見人ニ一ノ義務ヲ命スル所ナケレハナリ

〔千五百三十號〕 第三 婦、幼者及ヒ被禁者ノ爲メニハ、檢事○然レモ法律ハ此項ニ附キ責任ノコトヲ記セス故ニ此義務ハ民法上ノ制裁ナキ者ナリ

〔附言〕 訴訟法〔新法〕第六百九十二條ニ記載セル書入ニ附テハ然ラ

六

〔千五百三十一號〕 登記ヲ請求スルノ權利ヲ有スル人○婦ノ爲メニスル人ハ左ノ如シ

- 第一 夫ノ親族
- 第二 婦ノ親族
- 第三 婦

幼者及ヒ被禁者ノ爲メニスル人ハ左ノ如シ

- 第一 幼者及ヒ被禁者ノ親族
- 第二 其朋友
- 第三 幼者及ヒ被禁者

〔千五百三十二號〕 第三 婦、幼者及ヒ被禁者ノ法律上ノ書入ノ限制

法律ノ目的ハ婦及ヒ幼者ヲ保護スルニ在リト雖モ之カ爲メニ夫又

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示

自第一千四百  
十條至第一千  
百四十五條

リストリクシヨシ



ハ後見人ノ信憑ヲ損スルコト有ル可カラズ若シ婦ニシテ其嫁資僅少ニ或ハ幼者ニシテ其家産多カラサルニ數多ノ不動産(夫又ハ後見人ノ不動産)及ヒ幼者又ハ婦ノ現在及ヒ未來ノ身代ヨリ幾層ノ高額ノ財産(夫又ハ後見人ノ財産)上ニ一般ノ書入ヲ有スルコト有ル時ハ抵當太タ度ヲ越ヘ後見人及ヒ夫ハ公衆ノ憑信ヲ害ス故ニ法律ニハ此弊害ヲ醫スル所アリ即チ書入ノ生スル時ニ當リ或ハ後日生セントスル書入ニ附キ婦又ハ幼者ノ權利ヲ充分ニ保證スルニ足ルト思考シタル或ル不動産ニ書入ヲ限制スルヲ得ル是ナリ

〔千五百三十三號〕 夫婦財產契約ヲ以テ約定シタル婦ノ書入ノ限制○ 夫婦雙方共ニ丁年者タル時ハ一二ノ不動産ノミチ書入トシテ登記スルコトヲ約シ又ハ一二ノ不動産ヲ登記セサルコト約スルヲ得始メノ一二ノ不動産ノミチ登記スルノ約アル場合ニ在テ書入ハ特定ノ不

動産ニ限制シ特定ノ書入タリ故ニ此書入ハ契約ヲ以テ指定シタル者ノ外現在ノ不動産又ハ向後夫ノ得ル所ト爲ル不動産ニモ及ホササルナリ一二ノ不動産ヲ登記スルヲ得サルノ約アル場合ニ在テハ其契約ノ目的一二ノ財産ニ限り之ヲ書入トセス他ハ其限制中ニ非サルヲ以テ通常ノ如ク不特定ノ書入ナリトス

斯ク法律ハ書入ヲ限制スルコトヲ許スト雖モ書入ノ乘捐ヲ許サス故ニ婦ノ爲メニ書入ヲ設ケサル旨ヲ約束スルコトヲ禁ス

限制ヲシテ効アラシムルハ一要件アリ夫婦ト爲ル可キ者ノ丁年是ナリ

丁年ノコトニ附キ法律ノ條文ハ顯然ニシテ疑ヲ容レスト雖モ夫ト爲ル可キ者ノ丁年ハ必要ナラサル者ノ如シ蓋シ書入ノ限制ハ一ニ夫ノ利益ノ爲メニ結ヒタル約束ナレハナリ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



〔附言〕 或法文ヲ賛成シ是カ説ヲ爲ス者アリ其主意ハ一度夫婦財產契約ヲ以テ書入ヲ限制シタル以上ハ以後如何ナル事アルモ決シテ夫ニ於テ裁判上ニテ限制スルヲ得ル能ハスト(第二千四百三條及第二千四百四十條ヲ參觀ス可シ)

〔千五百三十四號〕 世人多クハ何故ニ法律ハ婦ノ丁年ニ達シタルヲ必要トスル乎ヲ了解スルニ苦シム果シテ幼年ノ婦ハ其尊屬親ノ助力アリト雖モ夫婦財產契約ヲ以テ丁年者ノ締結シ得ル所ノ總テノ約束ヲ爲スヲ得サル乎(第千三百八十九條)夫婦財產契約ヲ以テ其夫ト爲ル可キ者ニ現在又ハ未來ノ財產ノ所有權ヲ與フルヲ得ル婦ニシテ此同財產ノ保存ノ抵當タル書入ヲ限制スルヲ得サルトハ何等ノ理由アリテ然ルツ大ナル者ヲ爲シ得ル者ハ少ナル者ヲ爲シ得ルコソ當然ナラスヤ

斯ク婦ノ丁年ヲ望ムハ權衡相合ハサル者ノ如シト雖モ之ヲ論究スレハ到底之カ辯明ヲ爲シ難シ固ト法律ノ幼年ノ婦其尊屬親ノ助力ヲ得テ其夫ト爲ル可キ者ニ財產ヲ擧ゲ之ヲ贈與スルヲ許ス者ハ贈與ノ所爲タル事重大ニシテ之ヲ行フニ當テハ婦及ヒ其尊屬親孰考シテ贈與ノ利害ヲ計リタル後ニ承諾セシ者タルヲハ法律ノ知ル所ナリ之ニ反シ書入ヲ限制スルハ事甚タ重カラス其結果モ亦贈與ニ於ケルカ如ク適切ナラス弊害ノ生スルモ亦多カラス之ヲ要スルニ限制ノ効ハ現時ニ隱然トシテ未來ニ發スル者ナレハ幼年ノ婦之ヲ前見スル能ハスシテ結果ノ如何ヲ知ラス輕々ニ限制ヲ承諾スル有ラン又其尊屬親モ之ヲ拒ム時ハ幾分カ向後ノ夫婦伉儷ヲ破ランヲ恐レ枉テ限制ノ約束ヲ寬裕スル所アラン故ニ法律ノ望ム所ハ婦ノ丁年ニ達シ限制ヨリ生スル結果ヲ熟知シ然ル後之ヲ承諾ス



ルニ在リ余輩カ「ザリユア」ノ法律中ニ見ル所ノ理論本題ノ論說ニ似類スル者アリ此法律ニテハ夫ハ其婦ノ承諾ヲ經レハ嫁資ノ不動産ヲ讓移スルヲ許スト雖モ書入ニ至テハ假令ヒ婦ノ承諾アルモ之ヲ禁ス(三百七十號及三百七十七號參觀)

〔千五百三十五號〕丁年ノ婦ハ其財産ヲ舉テ盡ク之ヲ夫ト爲ル可キ者ニ與フルヲ得ルト雖モ自カラ夫ノ負擔ス可キ書入ヲ棄捐スルヲ得ス此與フルヲ得ルト棄捐スルヲ得サルトノ間果シテ權衡ヲ失ハサル乎否權衡ヲ失フニ非サルナリ夫レ財産ヲ贈與スルヤ必ス婦ハ贈與ノ如何ヲ熟知シタル後ニ非サレハ之ヲ行ハス蓋シ己レノ財産ヲ以テ盡ク之ヲ人ニ與フルニハ熟考シテ利害ヲ計リ始テ其事ヲ行フヲ以テ人情ノ常トスレハナリ然レモ書入ヲ棄捐スルニ至テハ財産ヲ讓與スルカ如ク深ク思慮シテ之ヲ行フ者ニ非ス何トナレハ假令

ヒ書入ノ棄捐ヲ承諾スルモ婦ハ目前其家産ヲ失フニ至ラスシテ棄捐ノ結果ハ遠ク後日ニ至テ生シ其害ヲ發スルモ亦遠シ其他婦ハ大抵其夫ト爲ル可キ者ヲ信用ス可キニ今婦ヨリシテ書入ヲ辭スル時ハ却テ夫ヲ蔑視スル者ノ如クナラン故ニ書入棄捐ハ之ヲ爲スモ無益ノ箇條ナル可シ

〔千五百三十六號〕婚姻中婦ノ書入ノ限制○夫ハ婚姻中其婦ノ書入ノ制限ヲ裁判所ニ訟求スルヲ得其之ヲ訟求スルニハ下五箇ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

第一 夫婦財産契約中ニ未タ書入ヲ制限セサリシ事○此項ハ第二千四十四條ト第二千四百四十三條ノ關係ヨリ生スル者ナリ(第二千四百四十四條ニ「又同ク何々シ得可シ」ノ語アルヲ以テ推論シタル者ナリ)

第二 婦制限ヲ承諾シタル事○斯ク婦ノ承諾ヲ要スル以上ハ假令

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



ヒ第二千百四十四條ニ明文ナシト雖モ婦ノ丁年者タルヲ要ス夫  
レ幼者ハ自己ニ不便ナル所爲ヲ承諾スルノ能力ヲ有セス且又我輩  
先ニ見ル如ク夫婦財産契約ヲ以テ承諾シタル制限ヲシテ其効アラ  
シムルコトハ婦ノ丁年ヲ必要ナリトス然ルニ婦ハ婚姻ノ前ニ於テ婚  
姻ノ後ヨリモ自主ノ者トス因テ婚姻前尙ホ丁年タルヲ要ス况ヤ婚  
姻ノ後ニ於テオヤ

〔附言〕 然レモ婦若シ治産ノ禁ヲ受ケタル時ハ如何ニ決定ス可キ  
ヤオーブリー氏及ヒロー氏著第三帙第二百八十二節四百一葉及  
四百二葉欄外十六及ヒ十七ヲ見ル可シ

第三 夫ノ不動産ノ價顯然其婦ノ現時及ヒ後來ノ資産ノ高チ超過  
スル事

第四 婦ノ最近ノ親族四名ニテ制限ノ利害ヲ集議シタル事○然レ

オツボルチユニテ

此議決ハ陳告ニ過キスシテ裁判官ナシテ必ス之ニ據ラシムルノ  
力アルコト無シ

第五 制限ノ願ハ檢事ニ對シテ之ヲ爲ス可キ事書式六百七十號及  
六百七十一號○故ニ夫制限ヲ願フ時ハ其婦ヲ相手取テ之ヲ爲スニ  
非ス蓋シ制限ハ固ト婦ノ之ヲ承諾スルニ非サレハ行フヲ得サル者  
ナレハナリ然レモ檢事ハ公益ノ爲メニ事件ニ干涉シタルカ故ニ之  
ヲ相手ト爲ス者ナリ此場合ニ在テ檢事ハ主訟者タリ故ニ制限ヲ許  
シタル裁判ニ對シ檢事ヨリ控訴ヲ起スコトヲ許ス

バルチ、フランシバル

〔千五百三十七號〕 總テ此法式及ヒ條件ハ夫ヨリ制限ヲ願フタルノ場  
合ニ非サレハ之ヲ必要ナリトセス若シ婦外人ト直接ニ約定スル時  
ハ最近ノ親族四名ノ陳告ナク又裁判所ニ訟求シ及ヒ檢事ノ意見ヲ  
聞クヲ要セス單ニ其夫ノ許可ノミヲ以テ其書入ヲ棄捐スルヲ得ル

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



ナリ

又婦ハ其總テノ人權ヲ保存シ獨リ其抵當タル書入ヲ引キ放テ之ヲ  
 他ノ債主ニ讓渡スヲ得ルナリ實際上ニ於テ此讓渡ヲ名ツケテ代  
 權ト謂フ蓋シ此讓渡ノ効ハ其書入ヲ讓受ケタル債主ヲシテ婦ノ位  
 置ヲ代ラシムルヲ以テ此名ヲ附シタルナリ故ニ婦ノ不動産ヲ賣却  
 シ其價金ニ附テ債主ノ順序ヲ定ムルニ當テ婦ノ法律上ノ書入ヲ代  
 權シタル債主ハ恰モ婦カ其書入ヲ他ニ讓渡セシテ己レニ有スル  
 時ニ此書入ニ附キ占據スル次序ト同一ノ次序ヲ占メ分配ニ立入ル  
 ノ權ヲ有ス語ヲ替テ之ヲ言ヘハ婦ノ人權ヨリ引放チタル書入ハ尙  
 後新人權者ノ權利ニ密着ス(下ノ附言ヲ見ル可シ)是故ニ書入ノ讓渡  
 ハ其讓渡シタル權利ヲ着被シ且ツ剝去スル者ナリト謂フ(譯者曰ク  
 着被トハ讓受タル債主ニ書入ノ權ヲ着ケ被ラシムルノ意剝去ハ讓  
 渡シタル者ヨリ書入ノ權ヲ剝キ去ルノ意ナリ着被シ且ツ剝去スル  
 トハ此レニ剝テ彼レニ着セルノ意ナリ)

(千五百三十八號) 婦其夫ノ債主ノ爲メニ書入ヲ棄捐シタル所爲ニ附  
 テモ上ト其理ヲ同シトシテ此棄捐ハ其目的トスル書入ノ權利ヲ此  
 ニ奪去シテ彼レニ着被スル者ナル乎、將タ單純ニ奪去スルノミノ者  
 ナル乎、語ヲ替ヘテ之ヲ言ヘハ、婦其夫ノ債主ノ爲メニ書入ヲ棄捐シ  
 タル時ハ其棄捐シタル書入ハ婦ヨリ此債主ニ移ルカ將タ否ラサル  
 乎ト言フノ意ナリ

此問題ハ婦カ其夫ノ通常債主(譯者曰ク書入又ハ特權ヲ有スル債主  
 ニ對シテ謂フ)ノ爲メニ書入ヲ棄捐シタル場合ニ在テ甚タ大ナル裨  
 益アリ先ツ此棄捐ヲ單純ノ書入ヲ奪去スル者トセシニ棄捐ヲ承諾  
 シタル婦ハ此債主ニ對シテハ書入債主ニ非サルヤ必セリ然レモ債

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



主モ亦其拋棄シタル書入ヲ獲得シタルニ非サレハ依然通常ノ債主ノ名義ヲ存有ス故ニ婦ニ先立テ次序ヲ占ムルニ非スシテ單ニ婦ト共ニ負債ニ比例シテ配分ヲ受ク可シ若シ之ニ反シテ書入ノ棄捐ハ其目的トスル所ノ書入ノ權利ヲ此レニ被着シ彼レヨリ奪去スル者ナリトセハ婦ト債主ト其位置ヲ異ニシ棄捐ヲ得タル債主ハ書入債主ノ名義ヲ得婦ハ私印證書ヲ有スル單一ノ債主ノ列ニ入り其權利ヲ行フニモ婦ト債主ハ共ニ通常債主トシテ同等ニ位スルニ非スシテ債主ハ婦ノ書入ヲ代權シタル者ト看做サレ之ヲ以テ第一トシ婦ヲ其次キトス

余輩此問題ヲ理論ニ問ヒ棄捐ノ語ヲ法律上ノ意味ニ解スル時ハ書入ノ棄捐ハ書入ヲ拋棄シタル者ニシテ即チ書入ヲ消滅スル者ナリ故ニ棄捐ノ効トシテ其書入ヲ他ノ債主ニ移スヲ得スト論定ス可キ

ハ疑ヲ容レサルナリ(第二千百八十條第二項)棄捐ヲ承諾シタル婦ハ其契約シタル債主ニ向テ「余カ書入ヲ棄捐スルヤ向後汝ニ對シテ其書入ヲ行ハサルト言フ」ヲ承諾シタルトモ書入ノ權ヲ余ニ對シテ行フヲ得ルノ權ヲ汝ニ移セシニハ非サルナリ」ト言フヲ得可シ此言固ヨリ理アリ

然レモ實際上ニ行ハル、所斯ノ如クナラス凡ソ婦其夫ノ爲メニ自己ノ有スル書入ノ權ヲ棄捐スルト有ラハ其意ハ獨リ其夫ニ對シテ行フ可キ書入ノ權ヲ棄ルノミナラス他ノ夫ノ債主ニ對シ且ツ自己ニ對スル書入ノ權ヲモ移シ與ヘタル者ナリトス然リ而シテ契約ヲ解スルニハ其契約ノ文字ニ由ルヨリハ契約人ノ思意如何ヲ探知セサル可カラス(第千百五十六條)今書入棄捐ノ約束書ハ瞭然ト明記シタル反對ノ箇條アルニ非サレハ上ニ余カ述ヘタル如キ意味ニ解釋



ス可キナリ千八百五十五年三月二十三日書入記入ノ法律第九條ノ  
意モ亦斯ノ如クナルカ如シ故ニ之ヲ要スルニ書入ヲ讓渡シタル婦  
ト其之ヲ棄捐シタル婦トノ間ニ於テ更ニ區別アルヲ無ク棄捐ハ讓  
渡ノ妥當ナラサル名稱タルニ過キス

〔千五百三十九號〕讓渡及ヒ棄捐ノ書附ハ上ニ掲ケシ法律ノ第九條ノ  
通り公示ノ式ヲ履マサル可カラス古ヘハ一ノ書入ヲ數人ニ讓渡ス  
ト有レハ其讓受人ノ先取權ハ讓渡ノ日附ノ前後ヲ以テ之ヲ定メ而  
シテ其讓渡ハ外人ノ知ル能ハサルニモ拘ハラズ之ニ確定ノ日附ヲ  
附シタル以後其讓渡ハ外人ニ對シテ効アル者トセリ故ニ其弊ヤ婦  
ハ二十人ノ債主ニ書入ノ權ヲ讓リ十九人迄ハ之ヲ欺クヲ得タリ  
然レモ千八百五十五年ノ法律以後ハ此詐詭行ハレスナリタリ何ト  
ナレハ代權シタル者ノ爲メニ讓渡ノ書入ヲ登記シ(書式六百九十七

號)又ハ先キニ婦ノ名ニテ書シタル登記ノ欄外ニ讓渡ノヲチ記シテ  
之ヲ公示シタル日ヨリ以後ニ非サレハ此讓渡ヲ以テ外人ニ對抗ス  
ルヲ得サレハナリ因テ分配ヲ受ル爲メニ定メタル讓受人ノ次序ハ  
登記又ハ欄外記入ノ日附ニ因テ之ヲ定ムル者トス(千八百五十年三  
月二十三日法律第九條)

〔千五百四十號〕其他婦ノ容易ニ上ニ述ヘタル讓渡又ハ棄捐ニ誘引サ  
ル、ノ恐アルヲ以テ其讓渡又ハ棄捐ノ約束ハ公正ノ法式アルニ非  
サレハ無効ノ者トス(千八百五十五年三月二十一日法律第九條(下ノ  
附言ヲ見ル可シ)及ヒ書式三百七十二號ヲ參觀ス可シ)

〔附言〕第九條ノ法文ハ甚ダ緊要ナリ此ニ其全文ヲ示ス  
婦若シ其法律上書入ヲ他ニ讓渡シ又ハ之ヲ棄捐スルヲ有ル場合  
ニ於テハ其讓渡又ハ棄捐ハ公成證書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ又讓受

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



人ハ己レノ爲メニ執リ行フタル此書入ノ登記又ハ既ニ存在セル  
 登記ノ欄外ニ爲シタル代權ノ記入アルニ非サレハ外人ニ對シテ  
 讓受ノ効アリトスルヲ得ス又登記又ハ欄外書入ノ日附ハ讓渡又  
 ハ棄捐ヲ得タル者ノ讓人タル婦ノ先キニ有セシ書入ノ權ヲ行フ  
 可キ次序ヲ定ム

〔千五百四十一號〕夫ノ保證人ト爲リタル婦又ハ夫ト共ニ連帶シテ義  
 務ヲ負フタル婦ハ世論ニ從コトシヨシヘハ自カラ債主トスル所ノ人ノ利益ノ  
 爲メニ其書入ヲ棄捐シタル者ト看做サル可シ若シ此論ヲ以テ適當  
 ナリトセハ一面ニテハ夫ノ爲メニ保證人又ハ連帶義務者トナル約  
 定ハ必ス公成證書ヲ以テ之ヲ爲ス可シト又他ノ一面ニテハ其約定  
 ハ公示シ讓渡又ハ棄捐ヲ明記ス可シト論定セサル可カラス  
 又法律ノ明言セサル所ナリト雖モ婦カ其夫ニ對シテ有スル書入ヲ附

キノ人權ヲ讓渡ス證書ハ單一ノ書入ヲ讓渡ノ規則ヲ履マサルトハ疑  
 ナ容レサルナリ何トナレハ其人權ヲ讓ルトハ人權ト併テ其書入ヲ  
 モ讓ルトニシテ是レ他ノ所爲譯者曰ク人權ヲ讓ルトヲ謂フト共ニ  
 法律ノ注意シテ爲メニ條規ヲ設ケタル所爲譯者曰ク書入讓渡ヲ謂  
 フトヲ行フタル者ナレハナリ

〔千五百四十二號〕嫁資分括ノ場合ニ在テ不動產ノ嫁資ハ讓與ス可カ  
 ラサル者トス故ニ此方法ヲ以テ婚姻シタル婦ハ其有スル所ノ書入  
 ニ他人ヲシテ代權セシムルヲ得ス動產ノ嫁資モ亦判決例ニ在ル如  
 ク同シク讓與ス可カラサル者トスレハ不動產ノ嫁資ニ於ケルト同  
 一ニ論定セサル可カラス然リト雖モ余輩ハ此主旨ヲ採ラスシテ理  
 論ニ據テ嫁資分括ニ於ケル婦ハ共有ニ於ケル婦ト一般其嫁資ノ動  
 産タル以上ハ其書入ヲ讓與スルヲ得ル者ナリト論決ス三百七十一



號以下參觀)

〔千五百四十三號〕 幼者又ハ被禁者ノ書入ノ限制○親族會議ハ後見人ヲ撰任スルノ時ニ書入チ一ノ不動産若クハ或ル不動産ニ限制スルヲ得而シテ此限制ヲシテ効アラシムルニハ一ノ條件ヲモ要スルヲ無シ蓋シ親族會議ハ即チ全權ノ裁判官タレハナリ

後見人ヲ撰任シタル親族會議ノ議事ニ出席セサル後見人ハ那翁列倫法典第四百三十九條ニ於テ其撰任ニ對シテ請願スル爲メニ許シタル日限中ニ書入ノ限制ヲ願フヲ得然リ而シテ此願ハ均シク撰任ニ對シタル一ノ請願ニ外ナラス

親族會議ハ幼者ノ書入ヲ限制スルヲ得ルト雖モ幼者爲メニ書入ヲ設ケサルヲ決議スルヲ得ス(第二千四百四十一條ト第二千四百四十四條ヲ對照シテ推論ス)

〔千五百四十四號〕

遺囑後見人及ヒ正當後見人ニ親族會議ヨリ書入ノ

チユチコル、ツムダマンデー チユチコル、レヂライム

限制ノ許シ得可キ乎、答議一定ナラス

否○親族會議ハ後見人撰任書ヲ以テスルニ非サレハ書入ヲ制限スルヲ得ス(第二千四百四十三條)然ルニ遺囑又ハ正當後見人ヲ撰任スル者ハ此會議ニ非ス故ニ此限制ハ第二千四百四十三條ニ循ヒ裁判ヲ仰クニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

可○法律ノ條文ニ拘泥セスシテ法律ノ精神ハ何ノ點ニ在ルヤヲ探究ス可シ今法律ノ精神ハ親族會議ニテ初發ニ限制ヲ願フ時ハ書入ヲ限制スルヲ得ル是ナリ然ラハ遺囑後見人、正當後見人其限制ヲ未ダ財產支配ノ處分ヲ爲サル前ニ願フ時ハ會議ヨリ限制ヲ許スルヲ得可シ

〔千五百四十五號〕 父母ノ中生存者ハ後見人ヲ撰任スル時書入ヲ限制

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



スルヲ得何トナレハ親族會議ノ如ク撰任ノ權ヲ有スルヲ以テ其權威モ亦會議ト同一ナレハナリ古法ニ於テ生存者ニ限制スルノ權アリ今日ノ法書ニ至テ此點ニ附キ改正シタルノ意ヲ表スル者アルヲ無シ○或人生存者ニ此權威ナシトス其說ニ曰ク第二百四十一條ハ明記シテ親族會議ニ此權ヲ付與ス然レモ遺囑者ニ此權ヲ許シタル條文アルヲ無シト此生存者ハ親族會議ト同一ノ權威ヲ有ストスルノ說ハ果シテ然リト雖モ生存者ト親族會議ト同一視スルハ確定ナラス其證ヲ上ケント欲スレハ則チ遺囑後見ノ事ニ附キ後見監視人ヲ撰任スルノ權ハ特ニ親族會議ニ在ル是ナリ

〔千五百四十六號〕

後見中書人ノ限制○此ニ要スル條件甚タ多シ

第一 書入ノ撰任證書ヲ以テ限制セサリシ事第二百四十三條凡ソ初發ニ限制シタル書入ハ既ニ特定ノ者タリ此種類ノ書入ハ限制

シ得ル者ニ非ス(第二百六十一條)

第二 不動産ノ書入ノ顯然完全ノ抵當ヲ超過スルヲテ説明ス可キ事

第三 限制願ヲ後見監視人ニ對シテ之ヲ爲ス可キ事(書式六百六十九號及其増補參觀)

第四 此願ヲ先ツ親族會議ノ意見ニ附ス可キ事然レモ此意見ハ裁判官ヲシテ必ス之ニ由ラシムルノ力アルニ非ス唯裁判官ヲシテ事實ヲ明カニセシムルノ方法ニ過キス

第五 檢事ノ論結アル可シ然レモ此ニ檢事ハ主訟者タルニ非ス唯附訟者ノ職ヲ執ルノミ何トナレハ後見人ハ後見監視人ヲ其主タル相手方トスレハナリ因テ檢事ハ限制ニ便宜ナル裁判ニ對シテ控訴スルノ身位ヲ有セサル可シ

先取ノ權ニ附キ書入ノ公示



斯ノ如ク親族會議ハ獨斷ニテ後見中ニ書入ノ限制ヲ許スヲ得ス是  
レ法律ハ後見人屢切願スルニ因テ枉テ之ヲ許スヲ極メテ容易ナラ  
ンヲ恐レテナリ然レモ限制ヲ初發ニ願フ時ハ此恐レ有ルヲ無シ  
何トナレハ後見人未タ其不便利ヲ覺ルノ時日ナケレハナリ

○第四章 先取特權及ヒ書入ノ登記手續

○第一節 登記ヲ爲ス可キ場所

第六條 第二千四百十  
〔千五百四十七號〕登記ハ負債主ノ各不動産ニ負擔スル義務ヲ公衆ニ  
知ラシムル爲メニ行フ者ナレハ自然ノ理ニ於テ其不動産所在ノ郡  
内ニ設ケ在ル書入保存署ニ於テ之ヲ行フ可シ  
數箇ノ保存署ノ管内ニ在ル不動産チ一ノ書入トシテ之ヲ有スル債  
主ハ其保存署毎トニ登記ヲ爲ス可シ

○第二節 以後登記ヲ爲スモ其効ナカラシムル時限

〔千五百四十八號〕第一 家産分離ヲ訟求シタル債主ハ相續開始ノ日  
ヨリ算ヘ六箇月ヲ過クル時ハ特權債主ノ身位ニテ登記ヲ爲スヲ得  
ス〔第二千百十一條〕然レモ書入債主トシテハ此期限後ト雖モ之ヲ爲  
スヲ得ルナリ〔第二千百十三條〕

第二 共分派人ハ分派又ハ共有物分配ノ日ヨリ六十日ヲ過クル時  
ハ特權債主トシテ登記ヲ爲スヲ得ス〔第二千百九條〕由テ以後書入債  
主ノ身位ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス〔第二千百十三條〕

第三 原則ニ於テ(二箇ノ例外アリ我輩ハ之ヲ下ニ開陳ス)先取特權  
又ハ書入ヲ設ケタル不動産負債主ノ家産ヲ脱シ而シテ其之ヲ脱セ  
シメタル所爲記入ノ法式ヲ履行シタル以後ハ如何ナル登記ヲ爲ス  
ト雖モ其効アルヲ無シ〔千六百八號以下ニ於テ第二千六百六十六條ノ  
說明ヲ參觀ス可シ〕

先取特權及ヒ書入ノ登記手續 登記ヲ爲ス可キ場所



第四 分散開始前某ノ時ヨリ以後ニ行フタル所爲ハ皆ナ其効ナシト定メ在ルニ其時限中ニ爲シタル登記ハ効アルヲ無シ(第二千四百十六條)○舊商法第四百四十三條ニ載スル所ニ據レハ何人ト雖モ分散前十日以内ニハ其分散人ノ財産ノ上ニ先取特權又ハ書入ヲ得ルヲ無シ

上文二箇條ハ千八百三十八年五月二十八日ノ法律ヲ以テ以下ニ余輩カ陳述セル如ク改正シタリ

〔千五百四十九號〕分○散○申○渡○裁○判○以○後○ノ○時○限○○此時限中分散ノ申渡ヲ受ケタル負債主ハ其債主中一人ノ爲メニ先取權ヲ生ス可キ事柄ヲ承諾スルヲ得ス何トナレハ分散申渡裁判ハ負債主ヨリ獨リ其分散ノ時所有スル財産ヲ支配スル權利ノミナラス向後獲得ス可キ財産ヲ支配スル權利ヲモ剝奪スル者ナレハナリ(新商法第四百四十三條)

是レ法律ハ負債主ノ奸策ノ爲メニ一人ノ債主ハ利益ヲ得他ノ債主ハ之カ爲メニ損害ヲ被ムルノ不正ナク各債主ハ依然分散前ニ占據シタル位置ニ在ルヲ欲シテナリ若シ分散申渡後ト雖モ負債主ニ先取ノ權ヲ自由ニ許スノ能力アリトモハ詐詭ヲ以テ債主中ノ一人ヲ利シ他ヲ害スル極メテ容易ナル可シ然レモ分散申渡裁判後ニ承諾シタル先取ノ權ヲ生ス可キ事柄ハ獨リ此裁判ノ時現ニ債主ノ位置ニ在ル者ニ對シテノミ其効ナシト雖モ分散後ニ負債主トナリ債主ト爲リシ者ニ對シテハ其効ヲ生スルナリ

茲ニ着目ス可キヲ有リ裁判以前ノ債主ニ對スルモ分散後ノ獲得ノ條件又ハ義務ト看做サレタル義務ノ辨濟ヲ擔保スル先取特權及ヒ書入ハ其効アリトス例之ハ分散申渡裁判ノ後相續ヲ受ケタルニ其

以後登記ヲ爲スモ其効ナカラシムル時限



遺物中ヨリ幾分カ死者ノ他ニ遺囑セシ者アリトセンニ此場合ニ在  
 テハ受遺囑者ハ其相續財産ノ上ニ法律上ノ書入ヲ有シ其書入ハ分  
 散人ノ何レノ債主ニモ對抗スルヲ得ル者ナリ又此相續ヲ分派シタ  
 リトセシニ其共分派人ハ己レノ取ル可キ不動産ノ上ニ平均高(譯者  
 曰ク共分派人中ニテ其分ケ前キ平等ニスル爲メニ其中ノ一人ヨリ  
 他ニ拂フ金高キ謂フ)即チ分散ノ返シ高ノ拂方ノ抵當タル先取特權  
 ナ有ス而シテ其特權ハ分散前ノ債主ニ對シテモ對抗シ得ル者ナリ  
 此二箇ノ場合ニ於テ詐詭ノ恐レ無ク若シ特權ヲ生ス可キ事柄ヲ爲  
 スヲ得ストセハ分散前ノ債主ハ正當ノ權利ヲ害シテ己レヲ利スル  
 者ナリト謂ハサルヲ得ス

〔千五百五十號〕分散申渡裁判前ニ得テ未ダ登記モサル先取特權又ハ  
 書入ハ裁判後之ヲ登記スルモ其効ナシ(商法第四百四十八條第一項

抑此裁判ハ分散人ヨリ其財産ヲ處置スルノ權利ヲ奪取テ其債主等  
 ノ位置ヲ定メ確然不動ナラシメ而シテ債主中ノ次序ハ裁判申渡ノ  
 時ノ儘ニテ決シテ變セサルヲ要ス

〔附言〕ボソ氏ノ說(特權ノ部百九十七號以下)ニ據レハ負債主ノ分

散申渡裁判ノ後ニ爲シタル登記又ハ負債者ノ死後其相續目錄(ベテリスノン

便利ヲ以テ承諾スル所トシテ爲シタル登記ハ負債主ノ財産全部

ニ對シテ皆ナ其効ナシトスルヲ以テ原則トス然レモ此原則ハ賣

主共分派人及ヒ國幣ノ有スル特權ニ適施ス可カラス○余輩ハ記

入論六卷三十四號以下ニ於テ此說ヲ攻撃シタリ

然レモ此登記ノ無効ハ何人ニ對スルモ皆ナ同シト言フニ非ス法律

ニ此無効ヲ明言スルハ獨リ裁判前ニ債主ト爲リタル者ノ保證タル

財産全部ノ利益ノ爲メナリ故ニ此登記ハ分散ノ後チ分散人ノ債主

以後登記ヲ爲スモ其効ナカラシムル時限



ト爲リタル者ニ對シテハ其効アリトス

〔千五百五十一號〕

分散中渡裁判前拂方歇止ノ時限ナリト裁判所ヨリ  
定メタル時ヨリ以後ノ時ト其時限ニ先立ツ十日ヲ併セタル時限〇

此時限中ニ發生スル先取特權ヲ生ス可キ事柄尙ホ又契約上ノ書入  
ト雖モ其保證スル所ノ義務ト同時ニ生シ其義務有効ノ者タル時ハ  
皆ナ其効アリトス然レヒ他ノ債主ヨリ第千百六十七條ノ如クスル  
時ハ格別ナリトス

之ニ反シ此時限中以前契約シタル負債ノ抵當トシテ得タル契約上  
ノ總テノ書入及ヒ不動產質入又ハ他ノ質入ノ總テノ權利ハ無効ノ  
者トス（商法第四百四十六條）始メ負債主ニ資力アル時ニ信用ヲ置キ  
タル債主ニシテ今資力ノ衰額スルヲ見テ先取ノ權ヲ生ス可キ事柄  
ヲ得ントス此衰額ノ損害ヲ受ルハ他債主ト雖モ又一ナリ然ルニ其

損害アルヲ知ラサル他ノ債主ニ對シテ先取ノ權ヲ得トスルカ如キ  
ハ法律ノ欲セサル所ナリ若シ然ラストスル時ハ負債主豫メ分散ス  
ルヲ知テ債主中最モ親シキ者又ハ欺騙ヲ謀ル者ニ或ハ書入又ハ動  
產質入ヲ承諾シ或ハ竊カニ分散ニ至ラントスルヲ告ケ急ニ訴訟  
ヲ起サシムル等ノ一有リテ負債主ノ奸計ニ因リ一方ノ債主ハ利益  
ヲ得一方ノ債主ハ爲メニ損害ヲ被ムリ債主ノ幸不幸ハ唯、負債主ノ  
奸計ニ是レ因ルニ至ラン

然レヒ此ニ注意ス可キ一有リ此書入、質入ハ分散人ノ債主ノ保證タ  
ル負債主ノ財産全部ノ利益ノ爲メニ無効ト爲ル者ニシテ分散  
人及ヒ分散後ニ債主ト爲リタル者ニ對シテハ其効アリトス

〔千五百五十二號〕此時限前適正ニ得テ未ダ登記セサル書入及ヒ先取  
特權ハ其書入又ハ先取特權設立證書ノ日附ト登記ノ日附ノ間ニ十

以後登記ヲ爲スモ其効ナカラシムル時限



五〇〇以上ヲ越ヘサル時ハ其登記ヲ爲スモ其効アリトス之ニ反對セ  
ル場合ニ在テハ裁判所ハ其無効ヲ申渡スヲ得(新商法第八百八十四  
條)

〔附言〕 此十五日ノ日數ハ書入ノ權ヲ得タル場所ト登記ヲ爲シタ  
ル場所ノ間ニ五「ミリヤメートル」ノ距離毎トニ一日ヲ加フ  
前條ノ目的トスル所ハ實際上屢現出スル危險ナル共謀欺騙ノ弊ヲ  
防シニ在リ其欺騙ヲ謀ルニハ負債主竊カニ其債主一人ニ言フ「予現  
今充分ノ資力アリ然ルニ今汝ノ書入ヲ登記スル時ハ余カ信憑ヲ損  
ス故ニ登記セザラントチ希フ假令ヒ後日ニ至リ危險ヲ生スルコト有  
ルモ其時ニ登記ヲ爲シ其害ヲ免カル、ノ道アル可シト」若シ法律ニ  
テ之ニ効アラシムル時ハ其實共謀者カ危險ノ日ニ至テ公然トスル  
爲メニ其日迄テ竊カニ保有シタル書入及ヒ先取特權アルヲ知ラス

シテ負債主ト契約シタル外人ニ對抗ス可キ秘密ナル先取權ノ原因  
ヲ造成スルナリ

〔千五百五十三號〕 法律ニテ分散ニ附テ規定シタル倒産ニモ之ヲ適用  
ス可キ乎

デコンプレヒチヤール

否ナ之ヲ適用ス可カラス何トナレハ假令ヒ法律ニハ第一千二百七十  
六條及ヒ第二千三十二條ニ於テ倒産ノコトヲ記スト雖モ一箇所ニテ  
モ之ヲ制定シタル者ナシ故ニ倒産ノ場合ニテ他人ハ負債主ノ借リ  
分其貸シ分ヲ超過シタル位置ニ在ルコトヲ知ルト雖モ如何ナル情況  
如何ナル日ヨリ其位置ニ在リシヤヲ知ル能ハス故ニ第二千四百十  
六條ヲ適施スルヲ得ス

然レモ財産拋棄ノ後ニ爲シタル登記(第一千二百六十五條以下)ハ分散  
申渡裁判後ニ爲シタル登記ト一般其効アルコト無シ凡ソ此拋棄ハ分

モスシヨンド、ヒヤン  
以後登記ヲ爲スモ其効ナカラシムル時限



散ニ於ケルカ如ク負債主ニ其財産ヲ處置スル權ヲ奪取スル者ナリ故ニ其債主ノ運命ハ拋棄ノ時ニ確定シテ動カス可カラス然レモ財產拋棄十日前ニ爲シタル登記ハ其効アル可シ法律ニ於テ一箇所ニテモ之ヲ無効ナリト記セシ者ナシ

〔千五百五十四號〕第五 登記ノ法式ヲ附ス可キ先取權ノ原因ヲ有スル債主ハ負債主死亡シ其相續目錄ノ便利ヲ以テ承諾スル所ト爲リタル時ハ登記ヲ爲スモ其効アルヲ無シ

此登記ヲ禁スル所以ノ理由ヲ解スル易シ凡ソ目錄ヲ以テ相續ヲ承諾スルヲ見レハ其相續ノ無資力ナルヲ推測スルニ足ル故ニ相續ヲ開始シタル場所ニ近接スルカ又ハ無資力ノ危險アルヲ早ク知り得タル債主ハ必ス遠隔スルカ又ハ目錄相續ノ承諾アルヲ知ラサル債主ニ損害ヲ被ラセテ急ニ登記ヲ爲シテ其害ヲ避ケンヲ求ムル

ナル可シ

登記ヲ爲ス相續人ノ相續承諾ノ前タリト後タルトヲ論セサルヲ要ス實ニ法律ハ承諾ノ日附ニ因ラス獨リ相續開始ノミ是レ因ルナリ

〔千五百五十五號〕又此登記ハ唯死者(又ハ分散人)ノ債主ノ利益ノ爲メニノミ無効トスル者ナリ故ニ獲得外人ノ占有スル不動産ニ附テ爲シタル登記ハ其効アリトス

〔千五百五十六號〕此ニ一言スルヲ有リ分散又ハ目錄ニ因テ相續ノ承諾ハ既ニ爲シタル登記ノ書換ノ妨碍タルヲ無シ法律ノ意ハ一ノ債主ナシテ此分散又ハ相續ノ後他ノ債主ヲ害シ其位置ヲ變セシメサルニ在リト雖モ決シテ以前ヨリ占據シタル位置ノ保存ヲ禁スルノ意ニ非サルナリ

〔千五百五十七號〕幼者又ハ被禁者相續ヲ受ル時ハ必ス目錄ニ因テ之

以後登記ヲ爲スモ其効ナカラシムル時限